

令和4年度

近畿ESDコンソーシアム活動実施報告書



2023年3月

近畿 E S D コンソーシアム

国立大学法人奈良国立大学機構 奈良教育大学

はじめに



奈良教育大学に ESD・SDGs センターが開設された令和 4 年度。今年もまた、近畿 ESD コンソーシアムは様々な活動がなされ、この報告書には、その成果や努力の結果がずっしりと記されております。もうそれは「近畿」にとどまるものではなく、かかわる人も、学ぶ内容も、ネットワークとして縦横無尽に拡がり、どの取組も文字を読むだけで映像のように生き生きと見えてきます。子どもも、先生も、先生を目指す学生も、地域の方々も、いろいろな分野の専門家も、みんな手をつないでひとつになって、持続可能な社会をつくることを楽しんでいるようです。ウクライナやロシアの子どもや先生にもこんな経験をさせてあげたい…。そんな気持ちにもなりました。

さて、令和 5 年 2 月 17 日。この日は ESD コンソーシアムにとって画期的な日となりました。全国各地の ESD コンソーシアムと、全国レベルで活動する ESD 関連団体が、奈良教育大学に集結し、「全国 ESD コンソーシアム/ステークホルダー交流会 2023」が開催されたのです。もちろん、近畿 ESD コンソーシアムも活動内容を発表し、参会者に共有されました。近畿のみならず全国の ESD コンソーシアムには、それぞれの地や特色を生かした取組があり、参加した私も大変勉強になりました。また同時に、それぞれが抱えている悩みや課題も出され、どうしたら解消や解決に向かっていけるか、皆で考え合うこともできました。会がすべて終了した後も、多くの方々が名刺交換をしたり、話し合ったりしている姿を見て、各コンソーシアム間をつなぐために「会って話をする」対話の時間が本当に必要なんだなと思いました。今後も、近畿コンソーシアムの優れた実績は、他のコンソーシアムにも提供し、全国を盛り上げていければと思います。

最後に。私が最も楽しみにしている近畿コンソーシアムの活動は、毎年、ほぼクリスマスと同時に行われる「近畿 ESD コンソーシアム成果発表会・実践交流会」です。この日は、「奈良教育大学管理棟大会議室」という「お固い部屋」に、子どもたちや保護者の方が集まり、実践を発表してくれます。それは大変感動的なもので、私にとって、これがないと年を越せないくらいのイベントとなっています。ところが私、今年度行われたまさにクリスマスの日、不覚にもコロナに感染してしまいました。正確に申し上げますと、25 日は熱もなく、なんとなく怪しいぐらいだったのですが、26 日に陽性反応が出ました。本当に、皆さんのために行かなくてよかった、と思いました。しかし、年末年始と寝込み、やっぱり楽しく年は越せませんでした。会長として皆様にご迷惑をおかけしたこと、この場を借りて深くお詫び申し上げます。

いよいよ今度こそは、コロナのトンネルを抜け出せそうです。近畿 ESD コンソーシアムのますますの発展を祈念いたします。

令和 5 年 3 月

奈良教育大学 学長
近畿 ESD コンソーシアム 会長
宮下 俊也

目 次

はじめに.....	1
令和4年度運営計画.....	3
E S Dティーチャープログラム.....	4
奈良E S D連続セミナー.....	46
「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー	102
森と水の源流館授業づくりセミナー.....	114
春日山原始林・奈良公園フィールドワーク.....	131
学ぶ喜び・E S D連続公開講座.....	147
令和4年度近畿E S Dコンソーシアム総会.....	159
令和4年度近畿E S Dコンソーシアム成果発表会・実践交流会.....	160
陸前高田市文化遺産調査団派遣.....	163
学生活動.....	170
おわりに.....	186

令和4年度 近畿ESDコンソーシアム運営計画

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総会・成果発表会・バス 報告書作成				9 総会 (オンライン)					25・26 成果発表会 実践交流会			報告書作成
学生活動(ESD活動支援)	23 アースデイ	27 (済美)野活	23 (ならやま)野活	1 (伏見)野活	24・25 ユネスコクラブ 全国サミット	3(あすかばんど) 27(和歌山) 24(イオン登美ヶ丘)	5(西大寺北)野活 17 森林環境教育の すすめ	13 東大寺寺子屋	11 ecoキッズ			野外活動・学校フィールド演習Ⅱ 子ども広場・ECOキッズ など
奈良ESD連続セミナー		12 ①	9 ②	7 ③ 28 ④	25 ⑤	29 ⑥	13 ⑦	10 ⑧		5 ⑨ 19 ⑩	9 ⑪	認定証授与式
授業づくりセミナー		28 万葉①	25 源流①	2 源流② 16 万葉② 30 源流③		3 源流④	29 万葉③	26 万葉④		28 万葉⑤	11 源流⑤	万葉文化館 森と水の源流館
春日山・奈良公園FW		14 ① (春日山)	11 ② (雨の春日山)	16 ③ (夜の春日山)	5 ④ (朝の春日山) 20 ⑤ (奈良公園夕暮れ)	18 ⑥ (奈良公園)	1 ⑦ (高円山)	5 ⑧ (奈良公園樹木) 12 ⑨ (春日山一園)	10 ⑩ (石仏)			
オンライン・フォローアップ研修会		19 ①	30 ②			22 ③		17 ④		26 ⑤		
連続公開講座(5回)		17 ①及川		5 ②藤原			27 ③中村	1 ④井阪	9 ⑤手島			
ティーチャープログラム		25 東登美①	14 ①-1 17 ①-2 22 東登美② 25 ①-3 ②-1 29 東登美③	4 ②-2 13 ②-3 20 東登美④ 21 附属幼③ 24 松山③④	1 附属幼④ 3 屋久島③④ 5 菊池③④ 9 福岡③④ 17 沖繩③④ 23 東登美⑤ 25 附属中③④ 27 大牟田③④		22 大牟田⑤ 23 福岡⑤	3 松山⑤ 5 沖繩⑤	10 屋久島⑤ 19 菊池⑤ 22 附属幼⑤ 22 附属中⑤	6 附属校⑦ 8 山形フオロー アップ		16・17 認定証 授与式 20 菊池 21 大牟田 22 東登美ヶ丘小学校
教委・学校研修支援					1・3 草津市 19 橋本市 24 応真小学校		7 長浜市					
陸前高田市文化遺産調査		1・2・3 下見	参加申込	6 面接		7・8・9・10 現地調査				報告書作成		18 報告会
ユネスコ協会研修会								9 長浜FW				
先進地・全国大会										22 ユネスコスクール 全国大会		
その他	28 ティーチャープロ グラム説明会						19 ティーチャープ ログラム説明会 (教職大学院)					
【ユネスコスクールチャレンジ期間】 天理市立福住小中学校 広陵町立真美ヶ丘第二小学校 橋本市立応真小学校 わかやまジュナイター学園 大津市立仰木の里小学校 生駒市立生駒小学校 草津市立玉川こども園 奈良学園小学校								9 附属中公開研究会 11 八名川小交流会 附属幼公開研修 12 附属小公開研究会 12・13 日本ESD学会 大会 16 奈良まほろば館 キックオフイベント	13 附属幼公開研修	20 附属幼公開研修 21 近畿ESDフオロー 全国大会	3・4 世界遺産学習 全国サミット 17・18 全国ESDコン ソーシアム/ス テークホルダー 交流会	18 日本ESD学会 近畿地方研究 会

奈良教育大学 ESD ティーチャー認証制度について

1. ESD を適切に計画し指導できる教員に求められる資質・能力

(1) 教師としての基盤的力量

学級経営力、生徒指導力、授業力、そして子ども理解力など、全ての学校教員に求められる資質・能力が基盤的力量として必要である。

(2) SDG s に関心を持ち、様々な書物から学んだり、講演会に参加したりするなど、能動的に SDG s への理解を深めようとする態度と、SDG s に関する課題を自分事とし、自らが持続可能な社会の担い手として、ライフスタイルを見直し、SDG s の達成に積極的に取り組もうとする態度が必要である。

(3) 「当たり前だ」と思っていることを時間的、また空間的に捉えて代替案を考え（クリティカル・シンキング）たり、地域の課題を SDG s の 17 の目標と関連付けて捉え、解決策を多面的・総合的に考え（システムズ・シンキング）たりする、探究的な思考力と行動力が求められる。

(4) ESD には教科書がない。総合的な学習の時間に地域の課題を学習課題として探究型の単元計画を組織し、地域人材や社会教育施設・専門家などと連携しながら、授業実践を行う力が求められる。また、日々の授業実践を対話的で深い学びを促すような授業力が求められる。

(5) ESD は社会づくりに関する価値観と行動の変革を促す教育活動である。ESD で育てたい価値観を育てるためには、系統的で継続的なカリキュラムが必要となる。校内はもちろん異なる校種の教員と連携して、系統的なカリキュラムを創造し、不断の見直し・改善を図ろうとする態度や、学校間交流や学習成果の地域への発信などにより、学びがいのある質の高い ESD 実践を志向する態度も求められる。



2. ESD ティーチャープログラムの概要

(1) ESD ティーチャープログラムの基本型

ESD ティーチャープログラムは、上記の資質・能力を養う目的で、次の 5 回の研修から構成されている。

第 1 回：SDGs の理解促進

SDG s の達成が求められる世界の状況を経済・社会・環境の側面から捉え、理解を深める。

第 2 回：ESD の学習理論の理解

ESD で育てたい価値観、視点、資質能力を紹介するとともに、持続可能な社会づくりに有用なソマティック・マーカーを育てる体験的な学習について理解を深める。

第3回：優良実践事例の分析と単元構想案の作成

ESD の優良実践事例を ESD の観点から分析し、授業づくりのポイントを理解したり、改善ポイントを見出したりすることで、学習指導案の読み方や作成方法について研修し、本学が開発した様式にしたがって単元構想案を作成する。

第4回：単元構想案の相互検討と ESD 学習指導案の作成

単元構想案の相互検討を踏まえ、ESD や ESD 学習指導案についての理解を深める。

※相互検討で修正した単元構想案を用いて、2 か月程度かけて ESD 学習指導案を作成したうえで、第5回に参加する。

第5回：ESD 学習指導案の相互検討会

各自が作成した ESD 学習指導案を発表し、全員で検討する。相互に検討することで、ESD の授業づくりや学習指導案作成のスキルアップを図る。

全ての研修会に参加し、ESD 学習指導案を1月末までに大学に提出する。奈良教育大学では提出された ESD 学習指導案を運営委員会で審議したうえで、本学の教授会に提出し、承認を得ることができれば、学長より ESD ティーチャーの認定証を授与する。

(2) ESD ティーチャープログラムの発展型

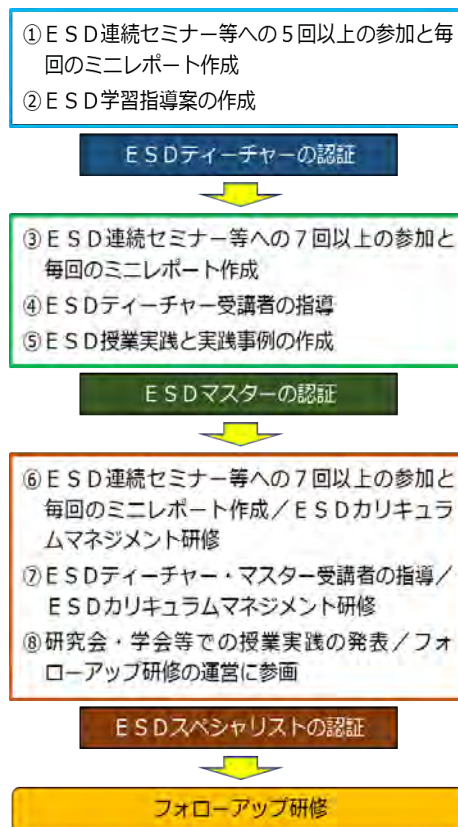
現職教員を対象とした ESD ティーチャープログラムにおいては、実践意欲の向上と、ESD に関する理解の深化を目的に、マスターコース、スペシャリストコースを用意している。

3. ESD ティーチャーについて

奈良だけでなく、ESD ティーチャープログラムを全国で展開することで ESD ティーチャーの拡大を図ると共に、ESD ティーチャーの資質・能力、及び実践意欲の向上を目的に、フォローアップ研修として ESD ティーチャーを対象としたオンライン研修を2ヶ月に1回実施している。

令和4年度までの ESD ティーチャー等の認定者数は以下の通りである。(名)

	現職教員			学生
	スペシャリスト	マスター	ティーチャー	ティーチャー
平成 28 年度	0	0	21	3
平成 29 年度	0	14	13	4
平成 30 年度	5	2	19	11
令和元年度	4	1	22	5
令和2年度	0	2	42	8
令和3年度	1	16	96	9
令和4年度	8	19	124	14
合計	18	54	337	54



4. 令和4年度のESDティーチャープログラム
認定者は次の通りである。

(1) 現職教員のESDティーチャー等

①ESDスペシャリスト(8名)

1	奈良教育大学附属中学校	吉田 寛
2	奈良教育大学附属中学校	中村 基一
3	奈良教育大学附属中学校	市橋 由彬
4	奈良教育大学附属中学校	山本 浩大

5	福岡市立玄界小学校	鬼塚 正博
6	福岡市立田隈小学校	遠入 哲司
7	糸満市立糸満中学校	新垣 孝子
8	山形市立千歳小学校	阿部 大輔

②ESDマスター(19名)

1	奈良教育大学附属小学校	奥畑 恵里
2	奈良教育大学附属小学校	入澤 佳菜
3	奈良教育大学附属幼稚園	鎌田 大雅
4	奈良教育大学附属幼稚園	河合 理沙
5	富雄藍咲学園	白石 真季
6	福岡市立三宅小学校	橋本 智美
7	福岡市立香陵小学校	鮫島 達則
8	福岡市立西花畑小学校	椎葉 拓朗
9	南風原町立南風原小学校	屋良 真弓
10	奈良市立平城小学校	村上 雄太

11	奈良教育大学附属中学校	有馬 一彦
12	奈良教育大学附属中学校	吉岡 睦美
13	奈良教育大学附属中学校	小倉 智子
14	奈良教育大学附属中学校	長友 紀子
15	寒河江市立醍醐小学校	小関 直幸
16	山形県立高畠高等学校	佐藤 崇之
17	奈良県立青翔中学校・高等学校	谷垣 徹
18	奈良市立伏見小学校	梁川 千尋
19	平群町立平群中学校	井阪 愛子

③ESDティーチャー(124名)

1	奈良教育大学附属中学校	加々見 良
2	奈良教育大学附属中学校	大谷 佳子
3	白梅学園高等学校	細井 俊克
4	白梅学園高等学校	池田 温子
5	白梅学園高等学校	市川 梓
6	白梅学園高等学校	神林 真理子
7	奈良教育大学附属小学校	磯田 由香
8	奈良教育大学附属小学校	水谷 礼佳
9	奈良教育大学附属小学校	加川 陽子
10	奈良教育大学附属小学校	今井 勇人
11	奈良教育大学附属小学校	山村 学
12	奈良教育大学附属小学校	辰巳 宗平
13	奈良教育大学附属幼稚園	丸尾 晶子
14	奈良教育大学附属幼稚園	清水 智佳子
15	奈良教育大学附属幼稚園	上路 蘭里
16	奈良教育大学附属幼稚園	長谷川 かおり
17	奈良教育大学附属幼稚園	山本 祐子

18	富雄藍咲学園	辻野 伽菜実
19	奈良市立都跡小学校	長浜 佐知子
20	奈良市立三碓小学校	藤岡 晃宏
21	奈良市立興東小学校	加藤 尋和
22	奈良市立平城小学校	奥戸 貴裕
23	田原本町立田原本小学校	中本 篤志
24	曽爾村立曽爾小中学校	小谷 太一郎
25	生駒市立生駒小学校	竹田 光陽
26	奈良市立東登美ヶ丘小学校	高橋 賢史
27	奈良市立東登美ヶ丘小学校	安藤 葵
28	奈良市立東登美ヶ丘小学校	岡本 香緒里
29	奈良市立東登美ヶ丘小学校	高橋 奈緒子
30	奈良市立東登美ヶ丘小学校	松尾 未来
31	奈良市立東登美ヶ丘小学校	早川 裕美
32	奈良市立東登美ヶ丘小学校	射場 希実
33	奈良市立東登美ヶ丘小学校	辻本 享世
34	奈良市立東登美ヶ丘小学校	米山 和希

35	奈良市立東登美ヶ丘小学校	小泉 麻希
36	奈良市立東登美ヶ丘小学校	山本 達也
37	奈良市立東登美ヶ丘小学校	西村 翔
38	奈良市立東登美ヶ丘小学校	早川 知奈美
39	奈良市立東登美ヶ丘小学校	島田 歩実
40	奈良市立東登美ヶ丘小学校	国元 穂高
41	奈良市立東登美ヶ丘小学校	吉岡 知咲
42	奈良市立東登美ヶ丘小学校	尾山 敏基
43	奈良市立東登美ヶ丘小学校	紺谷 隆
44	奈良市立東登美ヶ丘小学校	磯部 孝子
45	奈良市立東登美ヶ丘小学校	巽 弘樹
46	奈良市立東登美ヶ丘小学校	軽澤 照文
47	奈良市立東登美ヶ丘小学校	小山 大樹
48	奈良市立東登美ヶ丘小学校	青木 美香
49	奈良市立東登美ヶ丘小学校	井久保 文香
50	奈良市立東登美ヶ丘小学校	久保 秀子
51	奈良市立東登美ヶ丘小学校	福場 理恵
52	奈良市立東登美ヶ丘小学校	瀬間 紗代子
53	奈良市立東登美ヶ丘小学校	上田 美恵子
54	奈良市立東登美ヶ丘小学校	森田 由加
55	奈良市立東登美ヶ丘小学校	澤井 佑太
56	奈良市立東登美ヶ丘小学校	中島 千賀子
57	奈良市立東登美ヶ丘小学校	小川 琴代
58	山形県立高畠高等学校	石山 葉月
59	福岡市立小呂小学校・小呂中学校	枝広 隆志
60	福岡市立小呂小学校	井上 歩美
61	福岡市立飯原小学校	河野 陽一
62	福岡市立当仁小学校	武田 文
63	福岡市立西高宮小学校	山口 園美
64	福岡市立元岡小学校	山本 隆一
65	那覇市立松島中学校	高良 直人
66	南風原町立南風原中学校	前大 えり
67	南城市立玉城中学校	新城 菜々子
68	屋久島町立安房小学校	窪田 あずさ
69	屋久島町立安房小学校	貴島 三実
70	屋久島町立八幡小学校	橋口 和真
71	屋久島町立神山小学校	有馬 亜希子
72	屋久島町立永田小学校	吉富 祐子
73	屋久島町立宮浦小学校	稲留 愛

74	屋久島町立神山小学校	菊永 美樹
75	屋久島町立神山小学校	濱崎 昇平
76	屋久島町立神山小学校	坂元 達哉
77	屋久島町教育委員会	アンドリュー・ゾル
78	松山市立湯築小学校	北谷 徳子
79	松山市立久枝小学校	三浦 智子
80	新居浜市立別子中学校	池田 光希
81	松山市立潮見小学校	吉見 香奈子
82	愛媛大学教育学部附属小学校	吉岡 舞
83	松山市立久枝小学校	鶴久森 まゆみ
84	新居浜市教育委員会	伊藤 良夫
85	松山市立日浦小学校	西河 珠美
86	松山市立日浦小学校	田辺 淳子
87	四国中央市立三島南中学校	濱崎 千華
88	愛媛大学教育学部附属小学校	品川 崇
89	宇和島市立明倫小学校	西原 睦美
90	宇和島市立住吉小学校	信藤 明秀
91	松山市立味生第二小学校	松岡 沙緒里
92	宇和島市立岩松小学校	武内 和也
93	松山市立内宮中学校	先野 文
94	松山市立久枝小学校	多和 理沙
95	菊池市立隈府小学校	徳井 恋
96	菊池市立菊池北小学校	稲葉 淳
97	菊池市立菊之池小学校	松本 翔
99	菊池市立花房小学校	石田 あき
100	菊池市立戸崎小学校	西本 修
101	菊池市立七城小学校	村山 檀子
102	菊池市立旭志小学校	本越 暁葉
103	菊池市立泗水東小学校	宇田 展子
104	菊池市立泗水小学校	前田 有希
105	菊池市立泗水西小学校	松尾 美沙希
106	菊池市立菊池北中学校	緒方 晃市
107	菊池市立菊池南中学校	大塚 大志
108	菊池市立七城中学校	西田 拡人
109	菊池市立旭志中学校	米田 祐貴
110	菊池市立泗水中学校	佐藤 一生
111	熊本県立菊池高等学校	猿渡 瑠里
112	熊本県立菊池農業高等学校	坂梨 友里
113	大牟田市立駛馬小学校	山下 隼人

114	大牟田市立中友小学校	庄山 優香
115	大牟田市立中央小学校	構 美咲
116	大牟田市立大正小学校	長塩 里音
117	大牟田市立天領小学校	古賀 千聡
118	大牟田市立羽山台小学校	丸山 勇輝
119	大牟田市立銀水小学校	松岡 リエ

120	大牟田市立手鎌小学校	吹春 千織
121	大牟田市立平原小学校	二又 茉穂
122	大牟田市立倉永小学校	里森 希美
123	大牟田市立歴木中学校	原 好亮
124	大牟田市立松原中学校	坂本 亜衣

(2) 学生の ESD ティーチャー (14 名)

1	教育学部学校教育教員養成課程国語教育専修	杉本 朋美
2	教育学部学校教育教員養成課程教育学専修	木下 結等
3	教育学部学校教育教員養成課程教育学専修	中家 麻弥
4	教育学部学校教育教員養成課程心理学専修	木村 直希
5	教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育専修	西田 有佳里
6	教育学部学校教育教員養成課程国語教育専修	川田 大登
7	教育学部学校教育教員養成課程社会科教育専修	北野 結衣
8	教育学部学校教育教員養成課程音楽教育専修	梅原 彩華
9	教育学部学校教育教員養成課程音楽教育専修	藤本 尋巳
10	教育学部学校教育教員養成課程音楽教育専修	松岡 花
11	教育学部学校教育教員養成課程音楽教育専修	森 恵里奈
12	教育学部学校教育教員養成課程家庭科教育専修	宇和谷 紗恵
13	教育学部学校教育教員養成課程英語教育専修	川口 綾菜
14	教育学部学校教育教員養成課程英語教育専修	前田 桃香

2022 年度 ESD ティーチャープログラム（現職教員向け）開催要項

1. 目的

持続可能な開発目標及び新学習指導要領と、持続可能な社会の創り手の育成は喫緊の課題となっている。本学では 2016 年度より教員志望の学生及び現職教員を対象に、ESD を指導する教員に求められる資質・能力の育成を目的とした ESD ティーチャープログラムを展開してきた。

一方、昨今のコロナ禍により、対面式の研修会の開催は困難となってきた。そこで、各地の実情にあわせ、対面式及びオンラインによる ESD ティーチャープログラムを実施する。

2. 運営担当者

及川・中澤・大西：現職教員等の経験を有する大学教員

3. 研修内容

- (1) 持続可能な開発目標（SDGs）の内容理解 【オンライン】
- (2) ESD の学習理論と ESD 単元構想案の作成 【オンライン】
- (3) 優良実践事例の ESD 分析
- (4) ESD 単元構想案の相互検討と ESD 学習指導案・実践報告の作成
- (5) ESD 学習指導案・実践報告の相互検討
- (6) ESD カリキュラムマネジメント【マスター・スペシャリスト】
- (7) ESD カリキュラムマネジメント案の作成・相互検討【マスター・スペシャリスト】

※（１）（２）については、オンライン開催として３回設定する。

参加者は３回のうち１回出席するものとする。

4. ESD ティーチャープログラム（現職教員向け）について

(1) ESD ティーチャーコース

- ①ESD 連続セミナーへの 5 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 授業構想案と ESD 学習指導案の作成、1 月末日までに提出

(2) ESD マスターコース

- ①ESD 連続セミナーへの 7 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 授業構想案と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6 P 程度）し、1 月末日までに提出（考察をしっかりと記載すること）。
- ③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④研修（6・7）への参加

(4) ESD スペシャリストコース

- ①ESD 連続セミナーへの 7 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6 P 程

度) し、1 月末までに提出 (考察をしっかりと記載すること)。

③ESD ティーチャー・マスター研修中の現職教員および学生の指導案作成指導

④学会や研究大会での実践事例の発表か、ESD 研修会の開催と報告書の提出

④研修 (6・7) への参加

※3 月末に学長より ESD ティーチャー、ESD マスター、ESD スペシャリストの認定証を授与。

※作成された学習指導案や実践事例は近畿 ESD コンソーシアムの HP に掲載。

※12 月に開催する近畿 ESD コンソーシアム実践交流会での発表を依頼する場合がある。

5. 開催予定

【研修 (1)】 講師：及川幸彦

6 月 14 日 (火) 19 時～21 時

6 月 17 日 (金) 19 時～21 時

6 月 25 日 (土) 10 時 30 分～12 時 30 分

【研修 (2)】 講師：中澤静男、大西浩明

6 月 25 日 (土) 14 時～16 時

7 月 4 日 (月) 19 時～21 時

7 月 13 日 (水) 19 時～21 時

(1) 大牟田市 8 月 27 日 (土)、10 月 22 日 (土)

(2) 沖縄県 8 月 17 日 (水)、11 月 5 日 (土)

(3) 菊池市 8 月 5 日 (木)、12 月 19 日 (月)

(4) 松山市 7 月 24 日 (日)、11 月 3 日 (木)

(5) 屋久島町 8 月 3 日 (火)、12 月 10 日 (土)

(6) 福岡市 8 月 9 日 (水)、10 月 23 日 (日)

(7) 附属中学校 8 月 25 日 (月)、12 月 22 日 (木)

(8) 附属幼稚園 7 月 21 日 (木)、8 月 1 日 (月)、12 月 22 日 (木)

(9) 奈良市立東登美ヶ丘小学校 (5 回とも対面で行う)

5 月 25 日 (水)、6 月 22 日 (水)、6 月 29 日 (水)、7 月 20 日 (水)、8 月 23 日 (火)

研修 (6) (7) については未定。

菊池市は、(1) (2) の研修を 7 月 27 日 (水) に菊池市役所にて受講者を集め、オンデマンドで受講するとのこと。大牟田市も同様に、7 月 21 日 (木) に参加者を集めたオンデマンド受講をするとのこと。

2022 年度 ESDティーチャープログラム活動報告

東登美ヶ丘小学校会場(研修①) 「ESD の学習理論・単元構想案の作り方」

日時：2022 年 5 月 25 日（水）15 時～17 時

会場：奈良市立東登美ヶ丘小学校図書室

参加者：東登美ヶ丘小学校教員 31 名 中澤静男、大西浩明



研修①ー1 「SDGsの理解促進」

日時：2022 年 6 月 14 日（火）19 時～21 時

方法：Zoom によるオンライン

参加者：31 名

講師：及川幸彦



研修①ー2 「SDGsの理解促進」

日時：2022 年 6 月 17 日（金）19 時～21 時

方法：Zoom によるオンライン

参加者 28 名

講師：及川幸彦



東登美ヶ丘小学校会場(研修②) 「SDGsの理解促進」

日時：2022年6月22日(水) 15時～17時

会場：奈良市立東登美ヶ丘小学校図書室

参加者：東登美ヶ丘小学校教員 31名 及川幸彦、大西浩明



研修①—3 「SDGsの理解促進」

日時：2022年6月25日(土) 10時30分～12時30分

方法：Zoomによるオンライン

参加者：43名

講師：及川幸彦

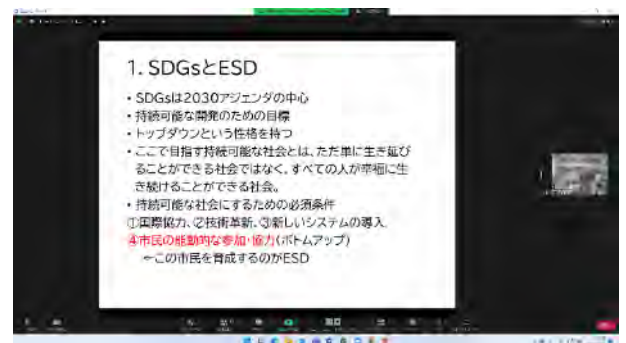
研修②—1 「ESDの学習理論・単元構想案の作り方」

日時：2022年6月25日(土) 14時～16時

方法：Zoomによるオンライン

参加者：33名

講師：中澤静男、大西浩明



東登美ヶ丘小学校会場(研修③) 「優良実践事例のESD分析」

日時：2022年6月29日(水) 15時～17時

会場：奈良市立東登美ヶ丘小学校図書室

参加者：東登美ヶ丘小学校教員 31名

講師：新宮済(奈良市立平城小学校)、中澤静男



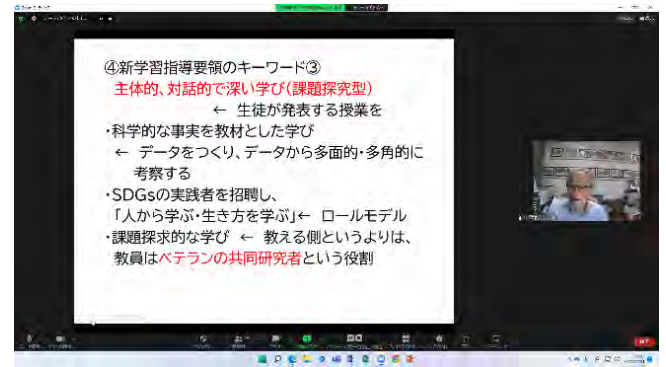
研修②ー2 「ESDの学習理論・単元構想案の作り方」

日時：2022年7月4日（月）19時～21時

方法：Zoomによるオンライン

参加者：34名

講師：中澤静男、大西浩明



研修②ー3 「ESDの学習理論・単元構想案の作り方」

日時：2022年7月13日（水）19時～21時

方法：Zoomによるオンライン

参加者：32名

講師：中澤静男、大西浩明

東登美ヶ丘小学校会場(研修④) 「単元構想案の相互検討」

日時：2022年7月20日（水）14時～16時

会場：奈良市立東登美ヶ丘小学校図書室 ほか

参加者：東登美ヶ丘小学校教員 31名

講師：新宮済（奈良市立平城小学校）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、
中村友弥（奈良市立朱雀小学校）、阿彌茉央（奈良市立登美ヶ丘小学校）
中澤静男、及川幸彦、大西浩明



大牟田会場(研修①②) 「SDGsの理解促進」ESDの学習理論・単元構想案の作り方」

日時：2022年7月21日（木）9時～15時30分

会場：大牟田市生涯学習支援センター

参加者：山下隼人（駛馬小学校）、庄山優香（中友小学校）、長塩里音（大正小学校）、
古賀千聡（天領小学校）、丸山勇輝（羽山台小学校）、松岡リエ（銀水小学校）、
吹春千織（手鎌小学校）、二又茉穂（平原小学校）、里森希美（倉永小学校）、
坂本亜衣（松原中学校） 計10名（2名欠席）

講師：（オンデマンド視聴）及川幸彦、中澤静男、大西浩明
下地徹、宮崎紀子（大牟田市教育委員会）



附属幼稚園会場(研修③) 「優良実践事例の ESD 分析」

日時：2022 年 7 月 21 日（木）10 時～12 時

会場：附属幼稚園遊戯室

参加者：藤村朱美、長谷川かおり、丸尾晶子、上路繭里、清水智佳子、山本祐子、河合理沙、
鎌田大雅（附属幼稚園）、白石真季、辻野伽菜実（富雄藍咲学園） 計 10 名

講師：鎌田大雅（附属幼稚園）

熊井祥子（県教委幼児教育アドバイザー）、中澤静男、阪本さゆり、大西浩明



松山会場(研修③④) 「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2022 年 7 月 24 日（日）10 時～16 時

会場：愛媛大学教育学部

参加者：北谷徳子（松山市立湯築小学校）、三浦智子（松山市立久枝小学校）、
池田光希（新居浜市立別子中学校）、吉見香奈子（松山市立潮見小学校）、
吉岡舞（愛媛大学教育学部附属小学校）、鶴久森まゆみ（松山市立久枝小学校）、
伊藤良夫（新居浜市教育委員会）、西河珠美（松山市立日浦小学校）、
田辺淳子（松山市立日浦小学校）、馬越将司（松山市立小野中学校）、
濱崎千華（四国中央市立三島南中学校）、品川崇（愛媛大学教育学部附属小学校）、
西原睦美（宇和島市立明倫小学校）、信藤明秀（宇和島市立住吉小学校）、
松岡沙緒里（松山市立味生第二小学校）、武内和也（宇和島市立岩松小学校）、
先野文（松山市立内宮中学校）多和理沙（松山市立久枝小学校） 計 18 名（2 名欠席）

講師：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

河野晋也（大分大学）、安田昌則、中澤静男、大西浩明



附属小学校会場(研修③) 「優良実践事例の ESD 分析」

日時：2022 年 7 月 25 日 (月) 13 時 30 分～15 時 30 分

会場：附属小学校多目的ルーム

参加者：磯田由香、水谷礼佳、今井勇人、山村学、奥畑恵里、入澤佳菜 (附属小学校)

計 6 名 (2 名欠席)

講師：新宮済 (奈良市立平城小学校)

中澤静男、大西浩明



菊池会場(研修①②) 「SDGsの理解促進」 「ESDの学習理論・単元構想案の作り方」

日時：2022 年 7 月 27 日 (水) 10 時～15 時 30 分

会場：菊池市役所 305 会議室

参加者：徳井恋 (隈府小学校)、稲葉淳 (菊池北小学校)、松本翔 (菊之池小学校)、
石田あき (花房小学校)、西本修 (戸崎小学校)、村山檀子 (七城小学校)、
本越暁葉 (旭志小学校)、宇田展子 (泗水東小学校)、前田有希 (泗水小学校)
後藤美沙希 (泗水西小学校)、緒方晃市 (菊池北中学校)、大塚大志 (菊池南中学校)
西田拓人 (七城中学校)、米田祐貴 (旭志中学校)、佐藤一生 (泗水中学校)、
猿渡瑠里 (菊池高等学校)、坂梨友里 (菊池農業高等学校)

計 17 名

講師：(オンデマンド視聴) 及川幸彦、中澤静男、大西浩明

木村誠希 (菊池市教育委員会)



附属小学校会場(研修④) 「単元構想案の相互検討」

日時：2022年8月1日(月) 9時30分～12時

会場：附属小学校多目的ルーム

参加者：磯田由香、水谷礼佳、今井勇人、山村学、奥畑恵里、辰巳宗平、加川陽子(附属小学校)

計7名(1名欠席)

講師：中澤静男、大西浩明

附属幼稚園会場(研修④) 「単元構想案の相互検討」

日時：2022年8月1日(月) 13時30分～16時

会場：附属幼稚園遊戯室

参加者：長谷川かおり、丸尾晶子、上路蘭里、清水智佳子、山本祐子、河合理沙、

鎌田大雅(附属幼稚園)、白石真季、辻野伽菜実(富雄藍咲学園)

計9名(1名欠席)

講師：熊井祥子(県教委幼児教育アドバイザー)、阪本さゆり、大西浩明



屋久島会場(研修③④) 「優良実践事例のESD分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2022年8月3日(水) 10時～16時

会場：屋久島環境文化研修センター

参加者：窪田あずさ(安房小学校)、貴島三実(安房小学校)、橋口和真(八幡小学校)、

有馬亜希子(神山小学校)、吉富祐子(永田小学校)、稲留愛(宮浦小学校)、

菊永美樹(神山小学校)、濱崎昇平(神山小学校)、下築佑奈(宮浦小学校)、

坂元達哉(神山小学校)、當房牧人(宮浦小学校)、アンドリュー・ゾル(屋久島町教育委員会)

計 12 名 (2 名欠席)

講師：新宮 済 (奈良市立平城小学校)、圓山 裕史 (奈良市立伏見小学校)、大西 浩明



菊池会場(研修③④) 「優良実践事例の ESD 分析」 「単元構想案の相互検討」

日時：2022 年 8 月 5 日 (金) 10 時～16 時

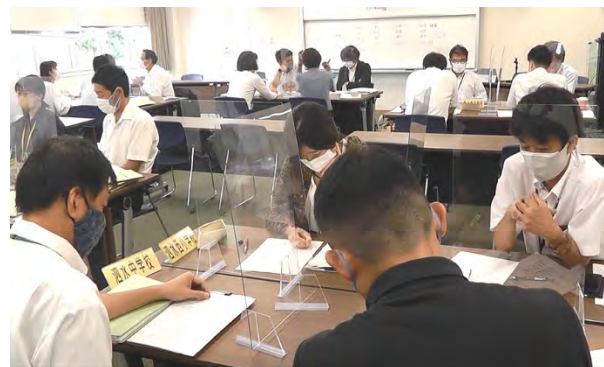
会場：菊池市役所 204 会議室

参加者：徳井 恋 (隈府小学校)、稲葉 淳 (菊池北小学校)、松本 翔 (菊之池小学校)、
西本 修 (戸崎小学校)、村山 檀子 (七城小学校)、宇田 展子 (泗水東小学校)、
前田 有希 (泗水小学校)、後藤 美沙希 (泗水西小学校)、緒方 晃市 (菊池北中学校)、
大塚 大志 (菊池南中学校)、西田 拓人 (七城中学校)、米田 祐貴 (旭志中学校)、
佐藤 一生 (泗水中学校)、猿渡 瑠里 (菊池高等学校)、坂梨 友里 (菊池農業高等学校)

計 15 名 (2 名欠席)

講師：中澤 哲也 (大和郡山市立片桐西小学校)、鬼塚 正博 (福岡市立玄界小学校)

河野 晋也 (大分大学)、石村 秀登 (熊本県立大学)、安田 昌則、中澤 静男



福岡会場(研修③④) 「優良実践事例の ESD 分析」 「単元構想案の相互検討」

日時：2022 年 8 月 9 日 (火) 10 時～16 時

会場：福岡市立中央市民センター視聴覚室

参加者：枝広 隆志 (小呂小学校・中学校)、井上 歩美 (小呂小学校)、橋本 智美 (三宅小学校)、
鬼塚 正博 (玄界小学校)、遠入 哲司 (田隈小学校)、河野 陽一 (飯原小学校)、
鯨島 達則 (香陵小学校)、岡野 憲太 (草ヶ江小学校)、武田 文 (当仁小学校)、
山口 園美 (西高宮小学校)、椎葉 拓朗 (西花畑小学校)、山本 隆一 (元岡小学校) 計 12 名

講師：安田 昌則、中澤 静男、大西 浩明



沖縄会場(研修③④) 「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2022 年 8 月 17 日（水）10 時～16 時

会場：琉球大学千原キャンパス

参加者：新垣孝子（糸満市立糸満中学校）、高良直人（那覇市立松島中学校）。

前大えり（南風原町立南風原中学校）、新城菜々子（南城市立玉城中学校） 計 4 名（1 名欠席）

講師：大島順子（琉球大学）、中澤静男、大西浩明



東登美ヶ丘小学校会場(研修⑤) 「学習指導案の相互検討」

日時：2022 年 8 月 23 日（火）9 時 30 分～12 時

会場：奈良市立東登美ヶ丘小学校図書室 ほか

参加者：東登美ヶ丘小学校教員 31 名

講師：新宮済（奈良市立平城小学校）、藏前拓也（王寺町立王寺北義務教育学校）、

中村友弥（奈良市立朱雀小学校）、中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）

中澤静男、大西浩明



附属中学校会場(研修③④) 「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2022 年 8 月 25 日（木）10 時～16 時

会場：ESD・SDGs センター多目的ホール

参加者：吉田寛、市橋由彬、山本浩大、有馬一彦、吉岡睦美、小倉智子、長友紀子、加々見良、大谷佳子（附属中学校）、
細井俊克、池田温子、市川梓（白梅学園高等学校） 計 12 名（2 名欠席）

講師：中澤静男、大西浩明



大牟田会場(研修③④) 「優良実践事例の ESD 分析」「単元構想案の相互検討」

日時：2022 年 8 月 27 日（土）10 時～16 時

会場：大牟田市文化会館

参加者：山下隼人（駛馬小学校）、庄山優香（中友小学校）、長塩里音（大正小学校）、
古賀千聡（天領小学校）、丸山勇輝（羽山台小学校）、松岡リエ（銀水小学校）、
吹春千織（手鎌小学校）、二又茉穂（平原小学校）、里森希美（倉永小学校）、
坂本亜衣（松原中学校）、構美咲（中央小学校）、原好亮（歴木中学校） 計 12 名

講師：島俊彦（大牟田市立吉野小学校）中澤静男、安田昌則、大西浩明



マスター・スペシャリスト研修(研修⑥) 「ESDカリキュラムマネジメント」について

日時：2022 年 10 月 4 日（火）19 時～21 時

方法：Zoom によるオンライン開催

参加者：奥畑恵里、入澤佳菜（附属小学校）、鎌田大雅、河合理沙（附属幼稚園）、有馬一彦、
吉田寛、中村基一、市橋由彬、長友紀子（附属中学校）、椎葉拓朗（福岡市立西花畑小学校）、
屋良真弓（南風原町立南風原小学校）、小関直幸（寒河江市立醍醐小学校）、
谷垣徹（奈良県立青翔中学校・高等学校）、梁川千尋（奈良市立伏見小学校）、

鬼塚正博（福岡市立玄界小学校）、遠入哲司（福岡市立田隈小学校） 計 16 名

講師：及川幸彦



大牟田会場(研修⑤) 「学習指導案の相互検討」

日時：2022 年 10 月 22 日（土）13 時 30 分～16 時

会場：ホテルニューガイア・オームタガーデン

参加者：山下隼人（駛馬小学校）、庄山優香（中友小学校）、古賀千聡（天領小学校）、
丸山勇輝（羽山台小学校）、松岡リエ（銀水小学校）、吹春千織（手鎌小学校）、
二又茉穂（平原小学校）、里森希美（倉永小学校）、坂本亜衣（松原中学校）、
構美咲（中央小学校）、原好亮（歴木中学校） 計 11 名（1 名欠席）

講師：安田昌則、中澤静男、大西浩明



福岡会場(研修⑤⑦) 「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2022 年 10 月 23 日（火）10 時～15 時 30 分

会場：福岡市立西市民センター第 2 会議室

参加者：枝広隆志（小呂小学校・中学校）、井上歩美（小呂小学校）、橋本智美（三宅小学校）、
鬼塚正博（玄界小学校）、遠入哲司（田隈小学校）、河野陽一（飯原小学校）、
鮫島達則（香陵小学校）、武田文（当仁小学校）、山口園美（西高宮小学校）、
山本隆一（元岡小学校） 計 10 名（1 名欠席）

講師：安田昌則、中澤静男、大西浩明



松山会場(研修⑤) 「学習指導案の相互検討」

日時：2022年11月3日（日）10時～12時

会場：松山市教育センター

参加者：北谷徳子（松山市立湯築小学校）、三浦智子（松山市立久枝小学校）、
池田光希（新居浜市立別子中学校）、吉見香奈子（松山市立潮見小学校）、
吉岡舞（愛媛大学教育学部附属小学校）、鶴久森まゆみ（松山市立久枝小学校）、
伊藤良夫（新居浜市教育委員会）、西河珠美（松山市立日浦小学校）、
田辺淳子（松山市立日浦小学校）、濱崎千華（四国中央市立三島南中学校）、
西原睦美（宇和島市立明倫小学校）、信藤明秀（宇和島市立住吉小学校）、
松岡沙緒里（松山市立味生第二小学校）、武内和也（宇和島市立岩松小学校）、
多和理沙（松山市立久枝小学校） 計15名（3名欠席）

講師：新宮済（奈良市立平城小学校）、河野晋也（大分大学）、安田昌則、中澤静男、大西浩明



沖縄会場(研修⑤⑦) 「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2022年11月5日（土）10時～15時30分

会場：琉球大学千原キャンパス

参加者：新垣孝子（糸満市立糸満中学校）、高良直人（那覇市立松島中学校）、
前大えり（南風原町立南風原中学校）、屋良真弓（南風原町立南風原小学校）
計4名（1名欠席）

講師：大島順子（琉球大学）、大西浩明



屋久島会場(研修⑤) 「学習指導案の相互検討」

日時：2022 年 12 月 10 日（土）14 時～16 時 30 分

会場：屋久島環境文化研修センター

参加者：窪田あずさ（安房小学校）、橋口和真（八幡小学校）、有馬亜希子（神山小学校）、
吉富祐子（永田小学校）、稲留愛（宮浦小学校）、菊永美樹（神山小学校）、
濱崎昇平（神山小学校）、坂元達哉（神山小学校）、アンドリュー・ゾル（屋久島町教育委員会）、
杉下真絹子（屋久島町 ESD グローバルアドバイザー）、日高清文（屋久島町教育委員会）、
下之蘭崇（屋久島町教育委員会） 計 12 名（3 名欠席）

講師：新宮済（奈良市立平城小学校）、圓山裕史（奈良市立伏見小学校）、大西浩明



菊池会場(研修⑤) 「学習指導案の相互検討」

日時：2022 年 12 月 19 日（月）13 時 30 分～16 時

会場：菊池市役所 204 会議室

参加者：徳井恋（隈府小学校）、松本翔（菊之池小学校）、西本修（戸崎小学校）、
村山檀子（七城小学校）、宇田展子（泗水東小学校）、前田有希（泗水小学校）、
後藤美沙希（泗水西小学校）、緒方晃市（菊池北中学校）、大塚大志（菊池南中学校）、
西田拡人（七城中学校）、米田祐貴（旭志中学校）、佐藤一生（泗水中学校）、
坂梨友里（菊池農業高等学校）、石田あき（花房小学校）、本越暁葉（旭志小学校）
計 15 名（2 名欠席）

講師：石村秀登（熊本県立大学）、安田昌則、中澤静男、及川幸彦、大西浩明



附属幼稚園会場(研修⑤) 「学習指導案の相互検討」

日時：2022年12月22日(木) 10時～12時

会場：附属幼稚園遊戯室

参加者：長谷川かおり、丸尾晶子、上路繭里、清水智佳子、山本祐子、河合理沙、
鎌田大雅(附属幼稚園)、辻野伽菜実(富雄藍咲学園) 計8名(1名欠席)

講師：中澤静男、阪本さゆり、大西浩明



附属中学校会場(研修⑤) 「学習指導案の相互検討」

日時：2022年12月22日(木) 15時～17時

会場：附属中学校

参加者：吉田寛、市橋由彬、山本浩大、中村基一、有馬一彦、吉岡睦美、小倉智子、長友紀子、
加々見良、大谷佳子(附属中学校)、
細井俊克、池田温子、市川梓、神林真理子(白梅学園高等学校) 計14名

講師：中澤静男、及川幸彦、大西浩明



附属小学校会場(研修⑤) 「学習指導案の相互検討」

日時：2022 年 12 月 23 日（月）14 時 30 分～17 時

会場：附属小学校多目的ルーム

参加者：磯田由香、水谷礼佳、今井勇人、山村学、奥畑恵里、辰巳宗平、加川陽子、
入澤佳菜（附属小学校） 計 8 名

講師：中澤静男、大西浩明

附属校舎会場(研修⑦) 「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2023 年 1 月 6 日（月）13 時 30 分～16 時

会場：附属幼稚園遊戯室

参加者：吉田寛、市橋由彬、山本浩大、中村基一、有馬一彦、吉岡睦美、小倉智子（中学校）
奥畑恵里、入澤佳菜（小学校）
河合理沙、鎌田大雅（幼稚園）、白石真季（富雄藍咲学園） 計 12 名（1 名欠席）

講師：中澤静男、阪本さゆり、大西浩明



山形会場(研修⑤⑦) 「学習指導案の相互検討」「カリキュラムマネジメント案の相互検討」

日時：2023 年 1 月 8 日（日）9 時 30 分～12 時

会場：食糧会館

参加者：阿部大輔（山形市立千歳小学校）、小関直幸（寒河江市立醍醐小学校）、
佐藤崇之、石山葉月（山形県立高畠高等学校）

講師：新宮済（奈良市立平城小学校）、中澤静男、大西浩明



ESD プログラム (ESD ティーチャー) 履修の手引き

1. プログラムの趣旨・概要

- ・ESD プログラムの履修を通して、学校や地域において ESD を適切に計画し、実践できる教員「ESD ティーチャー」を目指します。
- ・本プログラムでは、授業科目以外に、ESD 実践 (学校や地域での ESD に関わるボランティア活動) や、ESD 演習 (授業以外での ESD に関する学習)、現職教員と共に ESD 学習指導案作成を学ぶ ESD セミナー (3 回生以上) が用意されています。
- ・「スタートアップ⇒ブラクティス⇒グローバル」とステップアップし、最終的に「ESD ティーチャー」が授与されます。

2. プログラム履修条件・申請の説明会・申請方法

- ・本プログラムはすべての学年の学生を対象としています。人数制限はありません。
- ・4 月 28 日 (木) 18:30~19:30 ESD・SDGs センター多目的ホールにおいて説明会を開催しますので、出席してください。説明会で申込みフォームの URL(QR コード)をお知らせしますので、履修希望が固まれば、5 月 13 日 (金) までに、フォームからお申込みください。

3. 授業科目・履修方法

(1) スタートアップ・プログラム

① ESD プログラムに関わる必修科目

ESD と学校教育(前期)、ESD-SDGs 基礎論(前期)

ESD 概論(後期)、ESD と生活科・総合的な学習の時間(後期)

② 以下の ESD 実践や ESD 演習に各 1 回以上参加し、ポートフォリオを作成

実践: ESD 子ども広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺寺子屋支援

被災地支援ボランティア、陸前高田市文化遺産調査団、等

演習: 学ぶ喜び ESD 連続公開講座、ESD 実践交流会、等

(2) ブラクティス・プログラム

① 選択必修科目である「ICT、防災教育に関わる科目」、「環境教育、世界遺産・

文化遺産に関わる科目」より、それぞれ 1 科目以上

② ESD 実践や ESD 演習に各 1 回以上参加 (スタート・アップと同じ)

(3) グローバル・プログラム

① ユネスコスクール推奨科目より 2 科目以上を履修してください。

② ESD 連続セミナーに 5 回以上参加し、ESD 学習指導案を作成します。

ESD 学習指導案の書き方は ESD 連続セミナーで学びます (3 回生より)。

(4) 修了の判定

原則として 3 年かけて履修していただきますが、自らの履修計画により短縮して履修することも可能です。ポートフォリオシステムを使って、ESD 実践・ESD 演習の履歴を蓄積し、最終的にポートフォリオと ESD 学習指導案を 1 月末に提出していただきます。書類審査の上、年度末に ESD ティーチャー認定証を授与します。

スタートアップ・プログラム: 必修科目 (2 科目以上履修してください)

ESD 概論	ESD と学校教育
ESD と生活科・総合的な学習の時間	ESD-SDGs 基礎論

ブラクティス・プログラム: 選択必修科目

環境教育、世界遺産・文化遺産に関わる科目(1 科目以上)	ICT、防災教育に関わる科目(1 科目以上)
山間地教育入門	情報社会と法・倫理
持続発展教育と文化遺産	情報機器の操作
自然と地域の未来を語る	情報メディアの活用
フィールドワークで地域に学ぶ	教師のための情報モラル
ESD と世界遺産	ESD と防災
ESD と気候変動	地理学概論

グローバル・プログラム: ユネスコスクール推奨科目 (2 科目以上)

人権と教育	生涯教育計画特講 I	文化遺産芸術学演習 II
日本国憲法	肢体不自由教育方法	ユーラシア美術史
キャリア形成と人権	知的障害教育方法	アジアの中の日本美術史
教育人権アブローチ特講	地理学野外実験	地域文化論
教育人権アブローチ演習	校外学習指導特講	
文化遺産芸術学演習 I	大学での学び入門(文化遺産)	
生涯教育文化特講	造形芸術学特講	

◇ESD（持続可能な開発のための教育）とは

ESD とは持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目的とした教育です。2015 年に国連で持続可能な開発目標（SDG s）が採択されました。気候変動・資源の枯渇・生物多様性の劣化といった環境問題、紛争・テロ等の平和に関する問題、貧困・生産と消費といった経済・社会問題といった地球的課題が顕在化してきており、世界中で SDG s 達成のために取組が進められています。日本では、学習指導要領前文に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記されました。文部科学省（日本ユネスコ国内委員会）では、ESD を SDG s の達成に貢献する教育と位置付けています。また、学校現場における ESD の推進拠点としてユネスコスクールを認定しており、奈良教育大学は、2007 年に日本の大学として最初にユネスコスクールへの加盟が認められた大学であることから、ESD を推進しています。

◇ESD ティーチャーとは

ESD ティーチャーは、各学校での ESD 推進の担い手です。教師としての基盤的力量に加えて、豊かな教養をもとに、地域を教材化し、子どもの主体的な学びを引き出し、ESD を実践できる力量をそなえた教員を目指します。

本プログラムでは、ESD や SDG s に関する理解を深めるとともに、現職の先生方との協働的な研修会に参加することで、学級経営や生徒指導など、学校現場で求められる教師としての基盤的力量の形成も目指します。

◇ESD 実践（学校や地域での ESD に関わるボランティア活動等）

ESD 子ども広場、ユネスコスクール野外活動等支援、東大寺寺子屋支援、被災地支援ボランティア、陸前高田市文化遺産調査団等、地域での環境保全ボランティア案内は、ESD プログラム登録者にメールでします。

◇ESD 演習（授業以外での ESD に関する学習）

ESD 連続公開講座、ESD 実践交流会、陸前高田市文化遺産調査団報告会
各種ボランティア活動報告会、ESD に関わる研究会、実践交流会など
案内は、ESD プログラム登録者にメールでします。

学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける教員



ESD を実践する教員に求められる資質・能力

令和4（2022）年度 近畿ESDコンソーシアム ESDティーチャー・フォローアップ研修会開催要項

1. 目的

新学習指導要領が全面実施されたことに伴い、現職教員にとって、ESD を適切に計画し実施する力量の形成は、ますます必要性が高まっている。平成 28 年度より展開する ESD ティーチャープログラムにおいて、ESD ティーチャーに認証された現職教員が全国で 200 名を超えた。そこで、全国で ESD に取り組んでいる ESD ティーチャー・マスター・スペシャリストを対象に、そのフォローアップとしてオンラインによる研修会を実施することで、参加教員の ESD の更なる理解促進と、参加教員相互のネットワークの形成を目的に、本研修会を開催する。

2. 主催 近畿 ESD コンソーシアム

3. 対象 ESD ティーチャー・マスター・スペシャリスト

4. 内容 Zoom を用いたオンライン研修・交流

- ・ ESD や SDGs の理解促進を目的とした研修
- ・ 参加教員による実践事例の相互検討
(参加教員作成の ESD 学習指導案や単元構想案の相互検討)

5. 方法

- ・ 原則として 1 回／2 カ月（計 5 回）。Zoom を用いたオンライン研修・交流会
- ・ 全国の ESD ティーチャーに毎回、開催通知、URL をメール送付し、参加を呼び掛ける。
- ・ 各回 1 ～ 2 名の実践について相互検討を行う。
(緊急に単元構想案や学習指導案の検討を行う場合もあり)

6. 担当者（企画・運営） 大西・中澤：現職教員の経験を有する大学教員

- ・ 研修内容によって、コンソーシアム運営委員の先生方を中心に研修を依頼する場合がある。

7. 開催日時（いずれも時間は、19 時～20 時 30 分）

①5 月 19 日（木）、②6 月 30 日（木）、③9 月 22 日（木）、④11 月 17 日（木）、⑤1 月 26 日（木）

8. 期待する効果

- ・ ESD ティーチャーの ESD 実践力の向上及び ESD の質的向上を図る。
- ・ 全国の ESD ティーチャーの取り組みを把握し、年末の実践交流会につなげる。
- ・ 全国の ESD ティーチャー、ならびに各地の ESD 研究会のネットワークの形成を進め、将来的に本学による ESD トレーニングセンター構築の基盤づくりを行う。

第1回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2022年5月19日(木) 19時～20時30分

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 18名

◇実践報告 山形市立第三小学校教諭 岡崎亮先生

小学校6年道徳「思いをつないでいくために(余生をささげた命のしばざくら) 自作教材

【実践概要】

○授業のねらい

(道徳として)

- ・人間理解…大切であっても、実現したり継続したりすることは難しいという人間の弱さを理解する。
- ・多面的・多角的に考える…社会に奉仕することの大切さやそれを継続していくことの難しさに対して
思いや課題をもち、自己や社会の未来に夢や希望をもつ。

- ・道徳的实践意欲と態度…集団の一員として公共のために役に立とうとする態度を養う。

(ESDとして)

- ・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

連携性: 田所さん、松田さん、そして自分達の思いはつながることができる。

責任性: この活動を続けていくためには、自分たちの行動が大切である。

- ・本学習で育てたいESDの資質・能力

コミュニケーション力: 様々な立場の意見を聞いたり、家族や友達に発信したりしていく。

共感的問題解決力: 継続するために自分達も関わっていく

- ・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正: 思いをつないで行動にうつしていくことは大切だ。

- ・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくり

○展開の概要



立谷川沿い一面に咲く芝桜



15年前には草が生い茂り多くのごみが捨てられていた同じ場所

比較 → 「だれがきれいにしたのだろうか？」

田所さんというおじいさんがたった一人でやった！

草を刈り、木を伐採し、石を掘り起こして、土を耕し、一つ一つ芝桜を植えた（すべて自腹で）

→ 「何のためにきれいにしたのだろうか？」

田所さんの言葉

「きれいな環境にすればごみは捨てられない」

「きれいな川で孫を遊ばせたい」

田所さんはガンで余命数か月と言われたが、この作業を生きがいと感じ、7年後亡くなる

そのあとを引く継ぐことになったのが、義理の息子の松田さん

→ 「あなたが松田さんだったら、あとを引き継ぐか？」話し合い

引き継ぐ（多数）

引き継がない（少数）

命を使うほど大事

ずっととはできない

協力してくれる人がある

めんどくさい 休みたい

子どもの話し合いの様子を松田さんに見てもらって、
そのあとに松田さんに登場してもらった



（そのときの子どもの振り返り）

- ・こんな生き方をする田所さん、松田さんはすごくカッコいい
- ・大変なことには楽しいことがあるというのは自分も体験したことがある
- ・ぼくたちができることはポイ捨てをしないこと 今学習している SDGs とつながっている

「田所さんや松田さんの思いをつないでいくために、自分たちも何かできないだろうか？」

- ・自分もボランティアに参加する
- ・来年も家族といっしょに芝桜を見に行く
- ・この学習のことをみんなに伝える

「自分は誰かの思いをつないで、人の役に立つことが何かできるか？できないか？」

- ・バスケで先輩の思いをつないでいく 大きな試合に行けなくても努力はできる
- ・管理栄養士になるのが夢だが、なりたくてもなれなかった人の思いをつないでいけると思う

○実践を振り返って

・単純に思いをつなぐことが大切だという価値を理解するだけでなく、それを継続していくことの難しさに対しても考えを深め、より深い道徳の学びをすることができた。GT として松田さんに毎時間授業に参加してもらったことが大きいと考えられる。

・教科書教材でなく、実際に取り組んでいる松田さんに自分たちの考えを話す、そして松田さんの話を聞く。そういった話し合い活動が続けたことで、児童にとってより深い道徳の学びにつながったと考えられる。

・「田所さん、松田さん、そして自分達の思いはつながることができる」という連携性の視点や「この活動を続けていくためには、自分たちの行動が大切である」という責任性の視点で、児童の ESD の見方・考え方を鍛えることができたのではないと思う。

・ESD の単位としては学習後に何かしらの行動変容を求めたいが、3 時間単元の道徳の授業の中では、

価値観の変容は見られたが行動の変容までは見ることはできなかった。

・「私の夢は管理栄養士なんですけど・・・。」という振り返りがあるように、児童はこの実践を通して自分の生き方や将来の夢についての考えを深めている姿が見られた。そこで、この実践の後に、修学旅行で「訪れる場所で働く人の思いについて考え自分達のこれからの将来に生かそう」というねらいを設定し、児童の行動変容を目指した。

・卒業間際に、もらった芝桜を家でどうしているかを児童に聞いてみた。33人中29人の児童が「大事に育てている」「花が咲くのが楽しみ」など、大切に育てている児童が多いことがわかった。中には「田所さんから松田さんにつないでいったように、芝桜の命が続くように大切に育てていきたいと思います。」と、芝桜を大切に育てることの意味を、「思いをつなぐために自分ができること」として捉え、行動にうつしている児童の姿も見られた

【グループ討議を経た意見交流】

- ・ESD はこれまでの教科学習にプラスアルファするものではなく、新たな学びを生み出すもの
 - ・ゲストティーチャーを発掘するには、行動力が大事！
 - ・ESD は「つなぐ」ということが核となることを改めて強く感じた
 - ・地域教材の発掘は大変だが、子どもの学びを大きく深めるチャンス！
 - ・それぞれの地域には、田所さんや松田さんのように取り上げたい人物はきっといるはず
- そのためには教師自身の気づきが大切
- ・地域の人ともに学ぶことは、子どもも地域の人みんな元気になる
 - ・行動化は、そんな急に見えてくるものではない

何年かたって変わっていたらいい

ESD の学習で考えた場合、短期的に見るものと長期的に見るものに分けて考えた方がいい

この実践なら、松田さんからもらった芝桜の苗を「思いを受け止めて」大切に育てている姿は短期的な行動変容ではないか

先生自身が実践前にどのような行動変容を想定したのか そこは少し甘かったのでは？

子ども自身が「変わった」とメタ認知できるような仕掛けも必要ではないか

「人は変わる」という気づきは大切

- ◇日時 2022年6月30日(木) 19時～20時30分
 ◇方法 Zoomによるオンライン方式
 ◇参加者 16名

- ◇実践報告 沖縄県立北部農林高等学校 安座間康先生
 「農産物の加工 ―穀類の加工―、―果実類の加工―」

【実践概要】

○研究主題

科目「食品製造」における、ESDの視点を取り入れた授業づくりの工夫
 ―地域の課題に着目した学習活動―

(その設定の理由) 食品科学科(40名)…「学ぶ・つくる・開発する」

学習指導要領 ウ 環境保全と農業

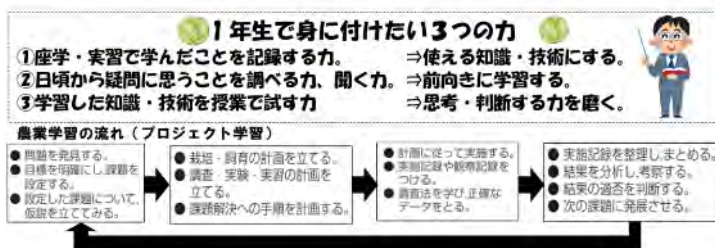
ここでは、地球環境や地域環境と人間生活との関係、例えば、国際連合が定めた持続可能な開発目標(SDGs)や持続可能な開発のための教育(ESD)、農業生態系と生物多様性の保全機能、国土保全機能や環境保全機能と二酸化炭素(CO₂)の固定などについて取り上げ、環境保全と農業との関わりについて考察する学習活動を取り入れる。

地域の農産物については関心が低い ← 地域の課題を解決する授業展開が少ない

- ・地域農産物の教材化
 ・地域農業の発展につながる取組を学ぶ

【農業教育におけるプロジェクト学習】

科目学習の導入として扱うことになっている



【指導項目(食品製造)】

- (1) 「食品製造」とプロジェクト学習
- (2) 食品産業の現状と動向
- (3) 製造原理と原材料特性
- (4) 食品の安全と品質表示
- (5) 機械と装置の利用
- (6) 生産工程の管理と改善
- (7) 食品の製造実習
- (8) 食品製造の実践

※複数の単元を並行して実施します

○展開の概要

1. つくる責任についての事例を学ぶ

HACCP、GAP、ブランド化、6次産業化

東京オリンピック・パラリンピックの食材はすべて、HACCP、GAPによって、「食の安全性」が確保されていた。

地域のジャム工房…授業で製造できる量と環境が似ている。スタッフのインタビューを紹介。

質問：工房から廃棄される副産物について

→ 果皮を畑にまいて、堆肥として活用

質問：ジャム工房を始めたきっかけ

→ 私はミカン農家だった。豊作の時、80%廃棄した経験がある。保存性のあるジャムに注目した。

2. つかう責任についての事例を学ぶ

食品ロスやエシカル消費

エシカル消費を理解する 3つのポイント

- ・環境に配慮した消費
- ・人や社会に配慮した消費
- ・地域に配慮した消費

3. 地域農業の現状や課題について学ぶ。

- ・農家の 70%がサトウキビ農家
- ・黒糖が 1 万 6 千 t 売れ残っている

4. 地域農産物、6 次産業化について調べる

地域農産物の状況(サトウキビに代わる作物は?) 台風害を受けにくい小麦・大麦に注目

小麦・大麦の生産量は増加傾向 今からは、小麦・大麦の時代か?

5. 地域素材を使用した食品製造実習

穀類はパン、焼菓子 果物はジャム製造

6. 地域振興に貢献するためのプロジェクト

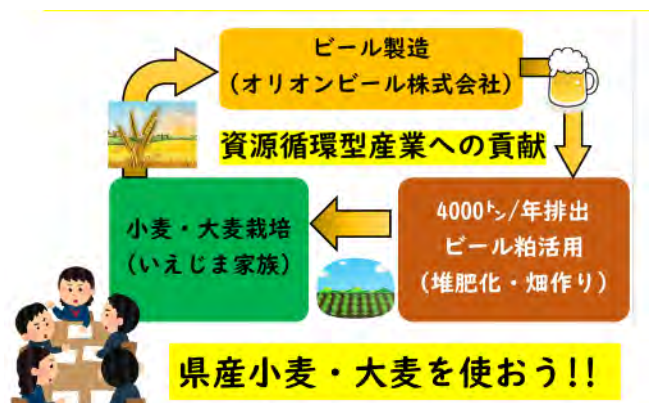
テーマ：県産麦、麦汁を使用したパンの開発

「高校生ビジネスプラン・グランプリ」

全国 3087 プランから、優秀な TOP100 を受賞

「起業のための研究能力 サイエンスフェア」

準優勝



(まとめ)

質問：地域の課題について、自分にできることを追求したい気持ちは高まりましたか?

→ 自分が地元の物を使うことで地域活性化するとすると高まった。

今まで関心が無かったけど、沖縄の課題を調べるうちに、もっと他に自分たちで開発できるものはないか考えるようになった。

今後新たな問題が出た時に、プロジェクトで学んだことを活かして、問題解決し、地域に貢献したい。

自分にできるエシカル消費 … 地元商店街で購入し、地元の生産者の収益化につながる

高校生ビジネスプラン・グランプリ…県産麦の消費拡大 → 農家への支出増加 → 地域活性化
地域振興に貢献するためのプロジェクト…

今後新たな問題が出た時に、プロジェクトで学んだことを活かして問題解決し、地域に貢献したい。

(課題)

「有限性」

捨てられてきた部分についても利用法を考えるなど、ゴミを資源として捉えることも大切。

環境に配慮した農業生産でないと、環境に負荷をかけてしまい、「豊かな生産」とは言えません。

○話し合いから

・生徒の変容は？

→ 製品のマーケティングまで考えるなどは、高校生ならではの。

将来設計まで考える生徒も。

小麦・大麦を使ったが、シークワーサーなど他のものも使ってみたいという意欲

・生産―加工―販売の流れを一気に学んでいる。

自分が地域のステークホルダーになっているという意識を持てていて、地産地消の真の意味を理解できている。

農業はお金になりにくいという価値観が変容しているのでは。

・作って終わりでもいい中で、マーケティング、SDGsの視点も入れて取り組んでおられる。

・他教科との連携は？

→ サトウキビが出てきたら「原産地は？」「最大生産国は？」など、社会科との連携

・地域のものを使った商品開発 ＝ 地域貢献

準備は大変だったが、地域の人たちの協力があつた。

地元の人や企業がたくさん動いてくれたおかげで、深い学びが実現した。

大西 浩明

～地域とともにある学校 学校とともにある地域の持続可能性～

志賀高原（ユネスコ・エコパーク）を題材に様々な取組を進めている



「やまのうち交流会」町内の小学校との学習交流

議員さんや教育委員さんなどにも聞いてもらおう

大人の人にこそ伝えよう

5年 「地域の共同浴場」

町のことをよく知らない人に聞かれると、「たくさん温泉があるところ」

子どもにとっては当たり前の共同浴場が、実はとても珍しく貴重なもの

残ってほしいな

健康教育と ESD を軸とした取組

「どうすれば、今後も愛される共同浴場になるだろうか？」

【質疑応答から】

- ・6年生の取組で、最後の交流会がとてもいい。

行政の方にも伝えようとしているところに、学びの深まりが感じられる。

- ・本物に触れる、本気で取り組む大人に出会うことの大切さを改めて感じた。ESD ではこれが大事！
- ・大人がいっしょけんめい ESD に取り組んでいる姿に触れることで大きな刺激になっている。
- ・子どもが、相手が大人でも臆することなく意見を述べているが、どのように育っていったのか？
→ 「話し合いをしよう」ではなく、「近くの人とおしゃべりしよう」を日常的にやっていた。
そのうち子どもが自分の考えをよく言うようになっていった。

学校全体で取り組んでいることで、批判的に考える力はかなりついてきたと感じる。

【報告概要②】

学校運営協議会（コミュニティ・スクール：C・S）に向けての長野県の取組

コミュニティ・スクール(国C・S) = 学校運営協議会を設置した学校



※ 令和3年度市町村コミュニティ・スクール 生涯学習担当者会議文科省説明資料より

地域とともにある学校づくりを実現するためのツール

- ・学校運営の基本方針の承認

3つの権限

- ・学校運営に意見を述べる
- ・教職員の任用について意見を述べる

「支援」（一方通行）ではなく、「連携・協働」（双方向）

これは日本の強みのはず

熟議と協働活動

**「熟議」とは
地域ぐるみの子育てのための「プロセス」**

①（様々な立場の）多くの当事者があつまる
②課題について、学習・熟慮・議論
③互いの立場や役割が分かる
④立場・役割に応じた「できること」が見える
⑤納得して「できること」ができる



栄小学校の取組・・・学校、子ども、地域の三者互恵の関係

保科小学校の取組・・・子どもの必要感と地域の必要感の重なり

C・S と ESD は近いものがあると思う。

【意見交流】

- ・福岡市には C・S はないが、学校サポーター制度というものがある。役割については C・S に近い。
- ・仕組みとしてはあるが、一般には認識されていないのではないかと思います。
- ・地域コーディネーターの方が学習に対していろいろ支援してくれて助かっている。
ただ、地域によってはコーディネーターがなかなか見つからないところもある。
- ・制度としてはいいが、まだまだ十分に整っていない感がある。
- ・ボランティアで関わってくれる人は多数いるが、組織としてまだ出来上がっていない感じがある。
- ・目的が明確されていない学校も多い。
- ・学校現場でも、一般の教員からはなかなか見えないところがあり、よく分かっていない教員が多い。
- ・キーワードは「地域創生」 学校を拠点としてよりよい地域をつくっていくという理念の共有
- ・C・S は、「社会に開かれた教育課程」を実現していくためにも重要なツール
- ・また C・S は、ESD をより効果的に進めていくためのツールの一つであると思う。

第4回ESDティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

大西 浩明

◇日時 2022年11月17日(木) 19時～21時

◇方法 Zoomによるオンライン方式

◇参加者 16名

(1) 授業検討：阿部友幸先生(山形大学附属特別支援学校)

高等部 総合的な探究の時間「食べ物に困っている人のためにできることを考えよう」

【授業概要】

今年度から年間を通してSDGsに関わるグループでの探究活動を始めた

自分の食生活が食糧問題に影響を与えていないか？

「今、食に困っていない自分たちはとても幸せ」 当たり前からの脱却を目指したい

世界には78億人のうち、8億4000万人以上の人々が食べ物に困っている現実

日本にも困っている人はいるのか？

「やまがた福わたし」(フードバンク)の方とオンライン交流

“困っている人に余っている食品をあげたい！”

まずは自分たちで その後に他の人に協力してもらおう

1日100円で生活する人がいる → 何が買えるかな(ちょっとしたお菓子ぐらいしか買えない)

(今後)県庁への校外学習を計画している

- ・フードドライブ実施について質問

- ・県庁食堂で食品ロスをなくす取組を見学

学校でフードドライブを実施、「やまがた福わたし」の方を招いて贈呈式

「ひろげる」段階での活動を模索中

【質疑応答から】

- ・今の時点での生徒の価値観の変容は？

→ 山形にも食べることで困っている人がいるんだ！

- ・「やまがた福わたし」以外にも、同様の取組をしている人や団体があれば、

- ・学習のゴールで求めたい生徒の姿は？

→ 食べ物を無駄にしない工夫ができる(誰かに言われているからではなく)

賞味期限を気にするようになる

これらのことを家族や友達に広げていくこと

- ・給食センターなどにも「賞味期限が迫っているものを使う日」がある

- ・「手前どり」ならいつでもできる

- ・賞味期限を気にするのは、「食べ物を無駄にしない」ためのこと

自分のそのときの状況によって、賞味期限の長いものを買うか、近いものを買うか選べるように

(2) 単元構想案の検討：佐藤亨樹先生(山形市立大曽根小学校)

小学校4年生 社会科「山形の特産品 “紅花” を広めた大名 ～最上義光～」

【授業概要】

学習問題：「最上義光はどのような人物で、どうして紅花づくりを広めたのだろうか？」

紅花・・・山形の特産品、西陣織の染料、化粧品、薬

「米の百倍、金の十倍」と謳われた大変な高級品

義光の六大事業

- ・山形のまちづくり ・寺社の保護 ・最上川舟運の整備
- ・紅花生産の奨励 ・庄内平野の新田開拓 ・上方文化の移入

これらを調べることを通して、義光の人となりになる

紅花をつくって売ること、玉形の人が豊かになる

県外の人と交流することで新たな文化が生まれる

なぜ紅花づくりを広めたのか、自分たちの考えを学芸員の方に聞いてもらう

呉服店の社長さんをゲストティーチャーに来てもらって話してもらう

→ 400 年経った今も紅花が大切にされていること

県外の多くの人に山形の紅花が認められていること

「これから大切にしていきたい山形のもの、大曾根のものはないかな？」

大曾根の鯉、味噌、民話、太鼓、伝統野菜、郷土料理など

【質疑応答から】

- ・「先人ののはたらき」の学習は、その事業が今の私たちの暮らしにどうつながってきているかがきちんと見えることが大事
- ・紅花は子どもたちにとって身近な存在なのだろうか
導入では、紅花を身近に感じるための工夫が必要かも
- ・沖縄も紅花づくりがさかん（紅型）
山形と沖縄とのつながりが見えてきたらおもしろいかも
- ・「ひろげる」段階では、今の行政のことを取り上げてみては？
県の総合計画について自分たちに関わる事業について調べたりして、共通項を見つけるといい
今よりも豊かなくらし、よりよいくらしを目指して行われているはず

（3）授業検討：阿部大輔先生（山形市立千歳小学校）

小学校 6 年生 総合的な学習の時間

「平和」とは何かを考える ― 当たり前ではない山形の「平和」、そして「感謝」 ―

【授業概要】

平和は当たり前にあるものではない ロシアとウクライナの戦争

→ 多くの人の思いや営みがあってこそ維持されるもの

①ユニセフとの交流・・・世界の子どもの現状を知る

今も戦争をしている地域があり、多くの子どもたちは私たちのような暮らしができていない

②広島の小中学生とのオンライン交流

山形：「平和って何ですか？」 広島：「あたたかいご飯が食べられて、暖かい布団で寝られること」

広島：「山形にとっての平和とは？」 山形：「・・・・・・・・」

→ もっと勉強しないと！ 原爆についてもっと調べよう！

平和のためにわたしたちにできることは何だろうか？

図工、国語（「平和のとりでを築く」、体育（表現：平和をテーマに）

校内にある戦没者慰霊碑について学ぶ

戦時中には近くに空港があり、空襲を受けて死んだ人もいる

10月に行われた慰霊祭に参加した児童もいる

(今後) 広島の小中学生との2回目の交流・・・自分たちの学びの成果を伝える

【質疑応答から】

- ・山形での平和学習はどの程度行われているのか？
→ ほとんどされていないのが現状
- ・そもそも平和って何？
- ・いろいろな人との出会いがある実践で、ダイナミックですばらしい
- ・同じ情報なのに、それをどう捉えるかによって変わってくる
身近なところに平和学習のネタはころがっている
- ・平和学習のゴールは、民主主義の重要性に気付くことではないか
為政者を正すことができるのは国民！ 話し合い、対話の大切さを感じる

- ◇日時 2023年1月26日(木) 19時～21時
◇方法 Zoomによるオンライン方式
◇参加者 15名

◎実践報告

福岡市立三宅小学校 栄養教諭 橋本智美先生

【実践概要】 5年 食育 特別活動「福岡の真鯛でSDGsにせまる」

社会科の水産業の学習での子どもの感想

「育てて漁獲を調整しているから養殖の魚を食べればいい。」 これでもいいの？

栄養教諭にとっては、給食が教材であり教科書

→ 栄養教諭ならではのESDをしたいと思っている

1食234円で地元の真鯛が2回も出る！

「給食で真鯛が出るのはなぜだろう？」

授業は1時間しかできない(5クラス) 給食公社の方をゲストティーチャーに呼ぶ

11月29日に「まだいのにつけ」が出るのに合わせて、授業日を直前の日を設定

個人の考えをもとにグループで一つ質問を決める

公社の方からは、給食費と材料代の内訳を示してもらう

→ 給食で真鯛が出ること自体すごいこと！(無償で提供されている)

鯛をたくさん食べることは、海の環境を守ることにつながる

漁師さんや水産加工業者の方たちを守ることが、海の豊かさを守ることにつながる

養殖と天然の真鯛の見分け方を教えてもらう

タイの頭を教室に持って行って観察

(給食当日)

- ・調理の様子を動画配信する
- ・全校放送で真鯛についてのクイズや説明
- ・教室へできあがった煮つけを持っていく

本当はこのあと、「これから自分たちは魚とどのように付き合っていけばいいだろう？」など、今後の行動様式について話し合いをしたかったが、授業はできなかった。

「小呂島のぶりフライ」

福岡でもぶりが獲れる

給食室前の掲示板を使って、「食べるおさかな水族館」という掲示をしている

今日食べた魚を足していく → 子どもが楽しみにしているよう

これまでなら、「おいしかった」というだけの感想が、「おなかですいたときに食べると幸せです。」とか、「給食放送の内容が面白くていつも楽しみにしています。」など、具体的に変わってきた

→ 放送の内容は、単なる献立の説明に終わるのではなく、興味を持ってもらえるようにクイズや

食材のエピソードなどを入れて工夫した

(成果)

- ・教科学習と給食を関連付けすることができた
- ・学んだことを「給食を食べる」ことで実体験できた

(課題)

- ・社会科の水産業の学習をしている時期がいい
- ・年間カリキュラムに入れ込んであるとよい
- ・ゲストティーチャーとねらいを共有、協働するにはどうしたらよいか

※給食でブリを食べると、食品ロスが生まれる

50 グラムのブリ = 廃棄量 30 グラム

→ 未利用部位の使用 「ギョロツケ」「シン・ギョロツケ」

作っている工場が近くにあるので、これを教材化していきたいと思っている

【意見交流】

- ・ゲストティーチャーとは、打合せの段階で「答えは言わないように」と念押しする必要がある。
外部の方は、せっかくの機会だからと、あれもこれもと説明に走ってしまう。そうならないように、こちらの授業の意図を十分伝えておく必要がある。
- ・私の学校では、授業は各クラス1時間しか取れないが、給食時間を使って指導に回ってくださっている。
- ・調理者、行政、流通という3つを学ぶのだろうが、入口はどこからでもいい。
- ・アップサイクルという考え方を大事にしたい。
- ・見えないものを見えるようにする楽しみがESDにはある。だから、教師自身もワクワクできる。

ESDティーチャープログラム（山形会場）フォローアップ研修会

1. 目的

2020年度、2021年度と2年間にわたってESDティーチャープログラムを山形市で開催し、7名のESDマスター、8名のESDティーチャーを認定してきた。さらに、受講者を中心に、「やまがたSDGs・ESD研究会」が結成され、自主的な研修が継続されている。今年度は、山形会場においてESDティーチャープログラムを開催していないため、新たにESDティーチャーを希望したり、ESDマスター、スペシャリストを希望したりする教員の受け皿がないので、月1回開催している奈良ESD連続セミナーにオンライン参加してもらっている。また、森と水の源流館授業づくりセミナーにも研究会メンバーが数名参加し、学習指導案を作成している。そこで、研究会員が一堂に会し、各自の学習指導案を相互検討する機会を設け、これまでのESDティーチャープログラムのフォローアップとする。

2. 日時 2023年1月8日（日）9：30～16：00

3. 会場 食糧会館（山形市旅籠町三丁目1番4号）

4. 内容 ESD学習指導案の相互検討

AM： 石山葉月（山形県立高畠高等学校）ESDティーチャー受講

佐藤崇之（山形県立高畠高等学校）ESDマスター受講

小関直幸（寒河江市立醍醐小学校）ESDマスター受講

阿部大輔（山形市立千歳小学校）ESDスペシャリスト受講

PM： 森と水の源流館授業づくりセミナー参加者等

司会進行：新宮済氏

近野巧（天童市立寺津小学校）

阿部友幸（山形大附属特別支援学校）

佐藤亨樹（山形市立大曾根小学校）

5. 担当者（指導助言者）

新宮済（奈良市立平城小学校）、中澤静男、大西浩明

6. その他（感染拡大防止対策の方法など）

会場である食糧会館の新型コロナ感染症予防に関する取り組みに従うとともに、同館の対策と齟齬が無いように、また、運営に支障がないように、「奈良教育大学における大学主催の各種行事の実施の取り扱いについて」の別紙「奈良教育大学 大学主催の各種行事の実施基準について」（別紙2）により参加者への要請事項、従事者の安全確保、運営、施設管理に従い対策を行う。飲食については、参加者間適切な距離を開けること、食事時における黙食の徹底をお願いする。

新型コロナ感染症の感染拡大状況によって、状況等が大きく変化する場合は、研修内容をオンライン開催にあう内容に組み換えて実施するなどオンライン開催を含め、開催時期や開催場所、開催方法等の変更を検討する。

ESDティーチャープログラム(山形会場)フォローアップ研修会 概要報告

中澤静男・大西浩明

日時： 2023（令和5）年1月8日（日）9時30分～16時
場所： 食糧会館会議室
方法： 対面式とZOOMによるオンラインのハイブリッド方式
参加者：（午前）対面のみ10名
（午後）対面18名、オンライン12名 計30名
内容： （午前）指導案検討、（午後）実践報告

1. 指導案検討

（1）寒河江市立醍醐小学校：小関直幸先生

特別活動「醍醐地区の魅力を見つけよう ～春の学校～」

（2）山形市立千歳小学校：阿部大輔先生

小学校6年 総合的な学習の時間

「平和」とは何かを考える ー当たり前ではない山形の「平和」、そして「感謝」ー

（3）山形県立高畠高等学校：佐藤崇之先生

科学と人間生活「自然景観と自然災害（火山災害と防災）」

（4）山形県立高畠高等学校：石山葉月先生

現代文B「小説二『こころ』夏目漱石」



2. 実践報告

（1）山形大附属特別支援学校：阿部友幸先生

高等部 総合的な探究の時間「食べ物に困っている人のためにできることを考えよう」



【実践概要】

今年度から年間を通してSDGsに関わるグループでの探究活動を始めた

自分の食生活が食糧問題に影響を与えていないか？

「今、食に困っていない自分たちはとても幸せ」 当たり前からの脱却を目指したい

世界には78億人のうち、8億4000万人以上の人々が食べ物に困っている現実

日本にも困っている人はいるのか？

「やまがた福わたし」（フードバンク）の方とオンライン交流

“困っている人に余っている食品をあげたい！”

まずは自分たちで その後他の人に協力してもらおう

1日100円で生活する人がいる → 何を買えるかな 実際に買い物をしてみる

(ちょっとしたお菓子ぐらいしか買えない)

県庁への校外学習

- ・フードドライブ実施について質問
- ・県庁食堂で食品ロスをなくす取組を見学

学校でフードドライブを実施、「やまがた福わたし」の方を招いて贈呈式

【意見交流】

- ・実際に買い物をして何を買えるかを確かめることは、小学校でもさせてみたい活動
- ・多様な人との出会いこそが ESD の醍醐味である
- ・地球規模の課題を身近なところに引き寄せて考えることができる

(2) 山形市立大曾根小学校：佐藤亨樹先生

小学校4年生 社会科「山形の特産品“紅花”を広めた大名 ～最上義光～」

【実践概要】

学習問題：「最上義光はどのような人物で、どうして紅花づくりを広めたのだろうか？」

紅花・・・山形の特産品、西陣織の染料、化粧品、薬

「米の百倍、金の十倍」と謳われた大変な高級品

義光の六大事業

- ・山形のまちづくり
- ・寺社の保護
- ・最上川舟運の整備
- ・紅花生産の奨励
- ・庄内平野の新田開拓
- ・上方文化の移入

これらを調べることを通して、義光の人となりに迫る

紅花をつくって売ること、山形の人々が豊かになる

県外の人と交流することで新たな文化が生まれる

なぜ紅花づくりを広めたのか、自分たちの考えを学芸員の方に聞いてもらう

呉服店の社長さんをゲストティーチャーに来てもらって話してもらう

→ 400 年経った今も紅花が大切にされていること

県外の多くの人に山形の紅花が認められていること

「これから大切にしていきたい山形のもの、大曾根のものはないかな？」

大曾根の鯉、味噌、民話、太鼓、伝統野菜、郷土料理など

【意見交流】

- ・先人の働きを学ぶ際に大事なのは、「なぜそこまでしたのか？」「今にどのようにつながっているのか？」を具体的に調べたり考えたりすることだと思うが、それが明確に見える題材だと思う。
- ・郷土料理や伝統野菜などは、子どもたちが「これから大切にしたいもの」とは案外気づいていない。
- ・紅花そのものがどういうものかが、分かっていない子どもも多いのではないか。

(3) 天童市立寺津小学校：近野巧先生

4年・5年「寺津の農業について考えよう」

6年「寺津のためにできることを考えよう」

【実践概要】

人口が減少している寺津地区において、子どもたちがどのような生き方を選択していくのか、それを考えるきっかけをつくりたい。

3年生時、6年生のプレゼンを聞く → 自分たちで作った野菜を天童市内や修学旅行先の東京で販売
寺津をPRした6年生の思いを引き継ぎたい

(4年生) 地域に適した大根づくり 地域の方と触れ合いながら販売 (どこか店で販売したい)

(5年生) 自分たちの手で栽培し、温泉施設で販売したい → 学校外で販売したことの充実感
寺津や天童の農業の課題について調べ、これからの行動を考える

(6年生) 寺津地区のためにできること

「農業グループ」 人手不足の解決 農業の楽しさを伝える→体験会の企画

“寺津で農業しますか？” “寺津に住み続けますか？”

「ごみ問題解決グループ」

「住みやすい町づくりグループ」

【意見交流】

- ・ 3年～4年という長いスパンで子どもの成長を考えているところに学ぶべき点が大いにある。
- ・ 学校全体でこのような子どもの学びをストーリー化させていくことが大事ではないか。
- ・ 農業を体験させ、販売までさせているところは、社会の仕組みについて体感させるいい取り組みである。



令和4（2022）年度 奈良ESD連続セミナー開催要項

1. 目的

学習指導要領が改訂され、前文や総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が明記された新学習指導要領が、幼稚園では2018年度より、小学校は2020年度、中学校は2021年度から全面实施、高等学校では2022年度より実施されている。新学習指導要領が求める教育を実施するためには、教育内容の捉え方の見直しや教育方法の改善が必須であり、ESDを適切に指導する資質能力の育成が、教員養成及び現職教員研修にとって喫緊の課題であることは間違いない。そこでESDの指導者として求められる資質能力を育成することを目的に、本連続セミナーを開催する。

2. 開催日時 【時間はいずれも19時～21時】

- ① 5月12日（木）：SDGsの理解促進（1）
- ② 6月 9日（木）：SDGsの理解促進（2）
- ③ 7月 7日（木）：ESDの理論研修
- ④ 7月28日（木）：優良実践事例の検討
- ⑤ 8月25日（木）：単元構想案の相互検討（1）
- ⑥ 9月29日（木）：単元構想案の相互検討（2）
- ⑦ 10月13日（木）：単元構想案の相互検討（3）
- ⑧ 11月10日（木）：学習指導案の相互検討（1）
- ⑨ 1月 5日（木）：学習指導案の相互検討（2）
- ⑩ 1月19日（木）：学習指導案の相互検討（3）
- ⑪ 2月 9日（木）：研修の振り返り

研修（6）（7）は、これ以外に実施予定

3. 方法 当面はZoomを用いたオンラインで実施

4. 研修内容

- （1）持続可能な開発目標（SDGs）の内容理解
- （2）ESDの学習理論
- （3）優良実践事例の分析と単元構想案の作成について
- （4）ESD単元構想案の相互検討とESD学習指導案・実践報告の作成
- （5）ESD学習指導案・実践報告の相互検討
- （6）ESDカリキュラムマネジメント
- （7）ESDカリキュラム案の作成・相互検討

5. プログラムのレベルと研修

(1) ESD ティーチャーコース

- ①ESD 連続セミナーへの 5 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、1 月末日までに提出

(2) ESD マスターコース

- ①ESD 連続セミナーへの 7 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6 P 程度）し、1 月末までに提出（考察をしっかりと記載すること）。
- ③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④研修（6・7）への参加

(3) ESD スペシャリストコース

- ①ESD 連続セミナーへの 7 回以上の参加と毎回のミニレポートの作成
- ②ESD 教材開発と ESD 学習指導案の作成、そして授業実践をふまえた実践事例を作成（6 P 程度）し、1 月末までに提出（考察をしっかりと記載すること）。
- ③ESD ティーチャー研修中の現職教員および学生の指導案作成指導
- ④学会や研究大会での実践事例の発表か、ESD 研修会の開催と報告書の提出
- ⑤研修（6・7）への参加

※3 月末に学長より ESD ティーチャー、ESD マスター、ESD スペシャリストの認定証が授与されます。

※作成された学習指導案や実践事例は近畿 ESD コンソーシアムの HP に掲載します。

※発表のための研究大会参加旅費は、コンソーシアムが負担します。

◇日時：2022 年 5 月 12 日（木）19 時～21 時

◇方法：Zoom によるオンライン形式

◇参加者：38 名

◇内容：「SDGs の基礎的理解（1）」 奈良教育大学准教授 及川幸彦先生

1. SDGs が提案された背景（グローバル・イシュー）

絶え間ない紛争と対立

顕在化する環境問題

苛烈化する自然災害

グローバル化する自国主義

経済的格差の拡大

科学技術の進歩と社会構造の変革

人口格差

感染症の拡大

世界の暴力や差別

- ・約 2800 万人の子どもたちが紛争で故郷を奪われる
- ・推定 1 億 5200 万人の子どもたちが働かされている など

子どもの貧困と不平等

絶対的貧困（1 日 1.92 ドルで生活を強いられている）

相対的貧困（その国の所得の中央値の半分以下で生活している）子ども 7 人に 1 人程度

母子家庭になると 2 人に 1 人

気候変動とその予測

何の対策も取らない場合（RCP8.5） 21 世紀末には気温が最大 4.8℃上昇

最も温暖化を抑えた場合（RCP2.6） ほぼ現状維持

上昇を 1.5℃までに抑えることを世界は目指している

1.5℃以上上昇すると永久凍土が溶け出し、メタンガスが大量に放出される

相乗効果によって「地球が暴走する」

未知の病原菌が凍土から放出されることも考えられる

海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えている

世界で災害が多発・甚大化している

動植物が絶滅したり生物多様性が失われたりしている

森林伐採と持続可能な生産・消費

パーム椰子から取れるパーム油は、食品、洗濯洗剤、医薬品などに幅広く利用されている

パーム椰子農園の急激な拡大に伴う熱帯雨林の伐採、生物多様性の喪失

海洋プラスチック問題

2050 年には海の魚の量を超える？

分解されず、細かく砕ける → マイクロプラスチック

有害物質の付着 生態系への影響

海食物連鎖で蓄積される 魚介類を通じて人間も？

奈良や山形のように内陸部の子どもたちにこそ海洋教育が大事！

2. SDGs がめざす世界

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」

誰も置き去りにしない

持続可能な開発の 3 つの側面

経済成長、社会的包摂、環境保護という 3 つの主要素を調和させることが不可欠

3 つが調和しないと持続可能な社会にはならない（バランス重視）

1992 年 地球サミット → MDGs → SDGs

MDGs（8 ゴール 21 ターゲット）から SDGs（17 ゴール 169 ターゲット）へ

SDGs はすべての国の目標、包括的で互いに関連している

EFA（万人のための教育）から ESD へ

5 つの P People Prosperity Planet Peace Partnership

「誰一人取り残さない」世界の実現

3. SDGs の枠組みと特徴

①MDGs の深掘り（例：極度の貧困 → あらゆる貧困）1・2・3・4・5・6

②先進国にも関わりの深い新たな課題 7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

普遍的：目標は普遍的なものであり、すべての国とすべての人による行動を必要とする
すべてが関連しているので、1 対 1 対応、個別対応ではない

4. SDGs の達成に向けた教育

SDG 4 ターゲット 4.7 だけが大事なのではない

教育は持続可能な社会の担い手づくりを通じてすべての目標の達成に貢献する

SDGs の達成に資する教育＝ESD

教育はすべての SDGs の実現の鍵である

ESD は今の教育の本丸であることを教員自身が自覚すべき

【ESD for 2030】

2030 年の ESD の全体的な目的は、17 の SDGs の達成を通じて、より公正で持続可能な世界を構築すること。

2030 年の ESD は、すべての SDGs への ESD の貢献を強化することを提案

自分たちの ESD の様々な活動が、国際的に整理された目標である SDGs の各目標にどのように貢献しているのかを考える

これまでやってきたことを否定する必要はないが、見直す必要はあるのでは。

（ブレイクアウトルーム…これまでの自分の実践を見直してみる）

第2回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇実施日時 2022年6月09日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 48名
- ◇内容

SDGsを巡る国内の諸課題とESDfor2030の国内外の動向

1. 国内の持続可能な社会を阻害する諸課題

(1) 環境問題(海洋ゴミ)

海の近くの地域だけの問題ではない。つながりをしっかりと意識することが重要。

持続可能な生産と消費を実現する社会へ(SDGs 12)

(2) 度重なる自然災害 東日本大震災による持続不可能性

紀伊半島大水害(2011年)、広島土石流(2014年)、御嶽山噴火(2014年)

鬼怒川氾濫(2015年)、熊本地震(2016年)、九州北部豪雨災害(2017年)

自然災害の多発化、激甚化、広域化

(3) いじめの状況

いじめの認知件数の増加

児童虐待の増加 心理的虐待・ネグレクト

(4) 新型コロナウイルスの感染拡大

2. 日本で拡大する貧困と格差社会

絶対的貧困(1.90米ドル/1日)と相対的貧困(日本の場合 122万円未満/1年)

相対的貧困率の国際比較: 日本の貧困率はOECDの平均を上回り、G7では米国について高い

「弱者に冷たい国」になっている

日本の貧困率: 14～15% 子ども達の7人に1人。母子家庭は50%が貧困状況

SDGs達成のために、新しい価値や新しいしくみを作っていくことも重要

: 学びの支援、経済的支援等

貧困の連鎖とSDGs

貧困の連鎖と再生産

①貧困(親の経済的貧困)→④教育格差(学習・体験の喪失、社会的資本の欠如・つながり喪失)

→⑧低キャリア(低学歴・不安定な就業)→⑩社会的格差(社会的な格差・疎外)→①貧困

貧困の連鎖を断ち切るSDGsの取組こそが「包摂的な社会」の実現

セーフティネットは存在しているのか?機能しているのか

3. ジェンダーの格差

日本ジェンダーギャップ指数(2021年)

経済(117位)、教育(92位)、健康(65位)、政治(147位) 総合(120位)

日本のジェンダー格差は120/156位: 先進国で最低レベル

4. 国内のSDG s の取組と今後の展開

SDG s の実施指針（8 つの優先課題）

SDG s 未来都市・自治体 SDG s モデル事業 : 成功事例の普及展開をねらう
生駒市・三郷町・十津川村・斑鳩町

多くの自治体が SDG s 達成にむけた取組を推進するようになってきている

← 学校も SDG s なしに学校教育を語れない、というようになってきているか？

大牟田市：地域の文脈に即し、地域の課題に向き合う SDG s の推進

気仙沼市：地域内外の多様な主体の参画と協働による SDG s の学び舎の創造

5. ブレイクアウトセッション

参加者の地元における SDG s 関連事業に関する情報交換

6. ESD for 2030

「SDG s の達成に資する ESD」という目標の明確化

ESD は内容ではなく、持続可能な社会を創るという方向性を示したもの

2030 年の ESD の全体的な目的は、17 の SDG s の達成を通じて、より構成で持続可能な世界を構築すること。

ロードマップ

GAP の 5 つの優先行動分野を継承しつつ一部調整

メカニズム①国レベルでの ESD for 2030 の実施

②パートナーシップとコラボレーション 等

ESD ユネスコ世界会議（ベルリン）「ESD に関するベルリン宣言」

カリキュラムに環境及び気候変動を中核要素として位置づける

日本の ESD の成果・3 つの強み

- ・ ESD をナショナル・カリキュラムに組み入れられた 公教育における組織的・計画的な推進
- ・ オールジャパンの態勢の構築（ESD 関係省庁連絡会議、ESD 円卓会議等）
- ・ 地域の文脈に即した ESD を推進している（Local SDG s）

ESD の主な施策

- ・ ESD 推進の手引き
- ・ 新 ESD 国内実施計画を策定
- ・ 防災・減災への ESD の貢献を発信

※SDG s の今後の展開

- ①諸課題は海外だけでなく国内や地域にも存在すること
- ②SDG s を地域の課題に即して認識する
- ③課題解決に向けて地域から世界への行動を促す
- ④生涯にわたって実践威徳を喚起・持続する

第3回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2022年7月7日(木) 19時～21時
◇方法	対面式とZOOMによるオンラインのハイブリッド開催
◇場所	ESD・SDGs センター多目的ホール
◇参加者数	対面 14名 オンライン 52名 計 66名
◇内容	「ESDー教師としての基礎的力量ー私の保護者の方との向き合い方ー」 奈良教育大学附属幼稚園 副園長 長谷川かおり氏

あなたにとって保護者のイメージは？
(10段階顔で表してみてください)

【保護者とは・・・】

子どものことを教えてもらう存在

子どものためには言うべきことは言います！

(親になって分かる親の気持ち)

好きになってもらう相手(親が変われば子どもは変わる)

Aさんとの懇談

ひとりの大人として尊敬 「親子で育つ幼稚園」 子育てを楽しんでほしい

子どもを共に育てる存在



1 学期の参観日の時の話 (5月中旬 年中・年少児)

入園してからひと月半 1年かけてじっくり育てていきましょう

「安心して力を発揮できるように」

① 子どものすることを認める(認める・共感する・褒める・気持ちを伝える)

否定・比較・非難では・・・

② 子どもの気持ちや思いを受け止める(安心感 まずは共感・認める・子どもを信じる)

一緒に落ち込むのは・・・

③ 子どもの話を楽しそうに聞く(うなずく・繰り返す)

④ ありのままを受け止める(自尊心) 得意なことより苦手なことに目が行く

幼稚園、先生を信頼して、みんなで一緒に子どもを育てましょう

(年長)

ゆったり構える

プラスのサイクルが大事(達成感、粘り強さ) マイナスのサイクルは断ち切る

話をしっかり聞く → 考える力が育つ

子育ての一番に栄養は「笑顔」

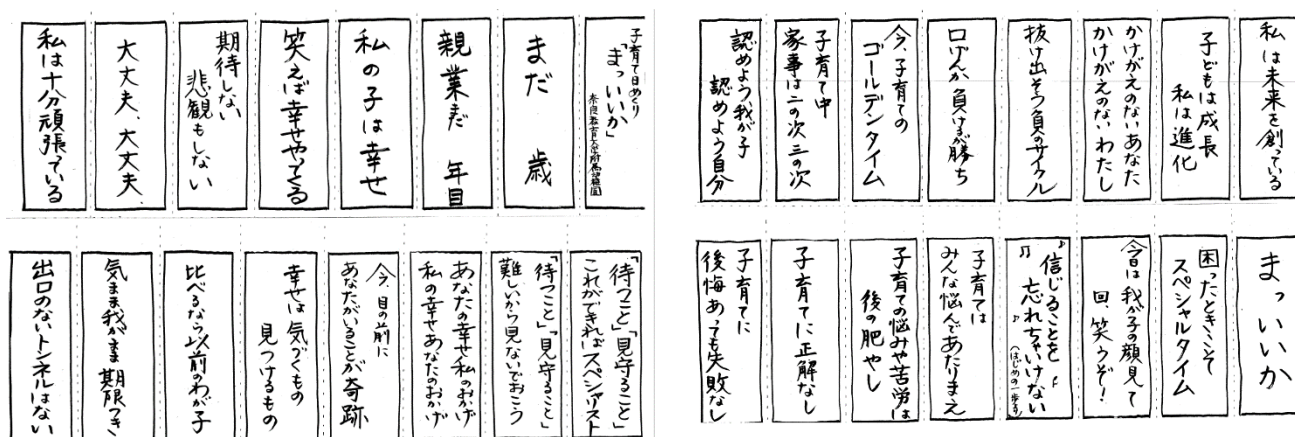
1 学期最後の懇談では 「ありがとうのひとつこと」 それをみんなで共有することが大事
節目には必ず振り返ってみる 楽しかったこと、よかったことを繰り返し味わう

子どもの人生は子どもの人生 子どもは言うように育たない
ワクワクドキドキ そんなジェットコースターのような子育てを楽しむ

【魔法の言葉】

「子どものおかげ」「できなくてあたりまえ」「短所と長所は同じ」「気まま、わがまま期限付き」
「比較するなら、以前のわが子」「まだ〇歳」「親業まだ〇年目」「子育てに正解なし」
「まっ、いいか」・・・

日めくりにしてみました



いちばん心に刺さるのはどれ？ 【グループで出し合ひましょう】



今までできていたことができなくなると親は心配

最近子どもが園に行きたがらない

最近怒られるようなことばかりする

そんなとき、若いころは何となくわかったようなことを親に伝えていた

先生の言ってることは分かるがしっくり来ていない

乳幼児期からの子育て支援で親が子育てに自信を持つことが大切

保護者が作成するドキュメンテーション

フォトチャットを園内研修でやってきた 保護者にしてほしかった

↓

未就園児親子クラスでの取り組み

「きょうのひとこま」20枚撮影 その中から1枚選んでコメントを書く

【保護者の声】

こちらを向かなくても真剣に取り組む様子を撮影するようになった

他の親御さんの目線はちがうんだなあと思った

一緒に遊ぶより、客観的に見る機会になっている

毎回できることが増えていることに気付くことができた

手を貸さずに見守り、できたら褒めるようになった

第4回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2022年7月28日(木) 19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	39名
◇内容	実践事例のESD授業分析、単元構想案の作り方

1. 実践報告

小学校6年総合「まみいちから伝える竹取物語の魅力 ～万葉集 古典に親しもう～」(全15時間)
王寺町立王寺北義務教育学校 藏前 拓也 先生

前任校のあった奈良県広陵町…靴下、古墳、かぐや姫で有名

【知る】

「かぐや姫」ってどんな話だったかな？

かぐや姫は結婚しましたか？ 知っているつもりだったけど 広陵町のどこにゆかりが？

実は、この話は作者不明 1000年以上前の話がどうやって今に伝わってきたのだろう？

【調べる】

町の文化財課の方にゲストティーチャーに来てもらう

広陵町が竹取物語の舞台の根拠(竹取の翁、讃岐神社、5人の貴公子)

讃岐の造(さぬきのみやつこ) 散吉郷(さぬきごう) 讃岐神社(さぬきじんじゃ)

讃岐神社へ行ってみよう

近くに竹取公園があり、そこへも行ってみる

竹取公園は、子どもたちにとって馴染みのあるところだが、竹取物語とはつながっていない

竹取物語は万葉集とつながりがある

→ 万葉文化館の研究員の方にゲストティーチャーとして来てもらう(自分たちでアポを取る)

竹取物語「いまはむかし 竹取の翁というもの有りけり」

万葉集「昔有老翁 号曰竹取翁也」

どちらも竹取の翁が出てくるが人物像が違う(万葉集は今で言う「ちょいワルおやじ」)

竹が神秘的で不思議な力を持っているというイメージは同じ

万葉集は「たからもの」 歌にこもっている「こころ」は今も昔も変わらない



こういうものが伝わってきているところが広陵町の価値、魅力

【まとめる】

「竹取物語の魅力や価値は、ちゃんと伝わっているのだろうか？」

竹取公園の池にある龍のモニュメント 公園で働いている人に尋ねてもなぜあるのかが分からない

文化財課の方に聞くと、「竹取物語に出てくる龍。看板でもあるといいのですが。」

→ 地元の人でも知らない人がいるんじゃないか 周りの人に聞いてみよう

お父さんやお母さんだっけ知らないのびっくりした

なぜ、広陵町のキャラクターが「かぐやちゃん」なのか知らない人が多い

大人の人でも知らない 何か自分たちでできることはないかな。

【ひろげる】

竹取物語を広めるために…ポスター、PR 動画、靴下のデザイン、カルタの作成、和菓子のデザイン、封筒のデザイン、すごろく、看板、パンレット など

- ・校区の靴下工場に自分たちの考えたデザインを届ける

→ 社長・工場長同席の下、製品化へ話が進む

3 か月後、デザインを忠実に再現して

かぐや姫のデザインも町の許可をとって

子どもの考えた質感の素材で

靴下の贈呈式をリモート開催

社長からの手紙



製品化された靴下

「勇気をもって踏み出した一歩が、学校を動かし、地域の人たちを動かし、会社を動かし、今日のこの場を生み出した。自分の未来は自分で創っていける。」

- ・和菓子屋さんにも考えた和菓子のデザインを届ける
- ・カルタやすごろくを下級生にプレゼント
- ・作った封筒を地域の方へのお礼の品を入れて手渡す

【考察】

古典や万葉集に興味をもつ児童が大きく増えた

広陵町を好きだと言える子も増えた

地域のために何かしたいと思うようになった

広陵町の何を自慢したいか？ → 竹取物語、古墳、靴下など様々なものが大きく増えた

「地元への思いが深くなった」「今までよりも広陵町に親しみを感じられた」

「地元への愛が深まった」「靴下郷土の誇りだ」

地域の「ひと・もの・こと」をバランスよくつなげられた

子どもたちの靴下が役場の地場産業紹介コーナーに展示されている

地域にある魅力や価値の再発見 学校・行政・公的機関・企業などとの関わりの中で学習できた

学校での学びが地域や社会とつながっていることを実感できたのでは

【意見交流から】

- ・学校と地元の企業がつながることで生み出される学びの大きさが分かった。
- ・竹取物語は国語のイメージだったが、ESD として取り上げているのが驚いた。
- ・身近な地域に課題を落とし込んで学びを進めることの ESD としての大切さがよく分かった。
- ・教師側が思っているように高まっていく子とそうでない子がいると思うが？
 - 教師以外のいろんな人（GT も含めて）との出会いによって子どもの意識が高まっていった
- ・国語だけで考えていると靴下へという発想は出てこない。
- ・子どもがいろいろやりたいことを出してきたときに、どのような教師側のサポートがあったのか？
 - とにかくできるところまで子ども自身にやらせてみよう

これまでゴールがポスターとか発表会で終わっていたので 6年生の最後だし

・この実践は今後どのように継承されるのか？

→ 学校内では今年も形を少し変えてされるよう 形骸化しないようにすることは肝心

・竹取物語の理解だけにとどまっていなくて、行動化までつながっている。

・総合的な学習の時間として、カリキュラムマネジメントはどうだったか？

→ 国語の教科書（5年）に読み物教材として載っていたものをもう一度読んでみた。

・教科横断的な学び、地域に学びが発展して、地域を好きになる流れが非常にスムーズ。

【ESD との関連】

（見方・考え方）

有限性 昔から続いてきたものを受け継いでいく

連携性 企業や市役所との連携が強かった

責任性 学びが多かったからこそ次の世代に受け継いでいかなければならない

多様性、連携性を達成できていたと思っていたが、振り返ってみると

相互性(他者と繋がりながら広範囲に学ぶ)、責任性(グループワーク等から生じるリーダーシップ)

責任性…自分たちの企画に参画していただき、0の地点地点から商品の製品化まで協力してくださっている企業さんの姿勢から、物事の実行に対する責任性を学ぶ

（資質・能力）

批判的に考える力（クリティカル・シンキング）以外が当てはまるのでは

コミュニケーション力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度あたりが、企業との交流において強く鍛えられたのではないのでしょうか。

多角的にものごとをとらえる態度

他者（異年齢含む）と協力的にものごとを進める力

積極的に参加する姿勢

（価値観）

特に「幸福感」→授与式の時の子供の嬉しそうな笑顔。自分達のアイディアが形になる達成感。社会と関わって何かをつくりだす自信が自己肯定感にもつながる。

幸福感を重視する → 学びが地域に貢献する可能性を感じた。

手紙を受けて感じたこと（地域と生徒たち）

人権、文化、幸福感

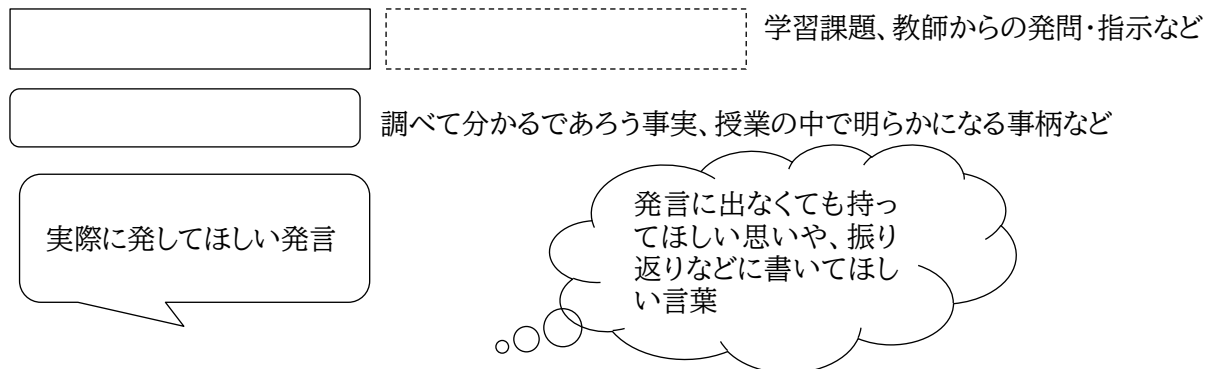
人権・文化を尊重する。

幸福感に敏感になる。

2. 単元構想案の作り方

単元構想図

具体的な授業をイメージして、児童が発するであろう言葉や、もつであろう思いなどをマップ化して、学習の流れを可視化したもの



⇒ 教師からの発問や指示、明らかになった事実、吹き出しをつけていくと構想図が出来上がる！

◆問いの質を高める

探究的な学びを進めていくには、問いの質が重要！

- ・単元の目標につながるもの
 - ・単元の流れで必然性があるもの
 - ・答えがいくつあるもの
- 言葉やその使い方にこだわる

子どもの疑問や思いから醸成されたもの
単なる教師からのトップダウンではないもの

- ① 単元を通して核となる問い
- ② ①を深めるための問い
- ③ ①を発展的に考える問い

単元展開の中で、こういうことについて、考えさせたい、話し合わせたい、自分なりの行動計画を立てさせたいというものを明確にできるなら、どの問いから考えてもいいと思います。

◆ESDの授業を構想する際には・・・

その題材(教材)を通して学習することで、

- ・どんなESDの見方・考え方を働かせることができるのか
- ・どんなESDの資質・能力を育てることができるのか
- ・どのようにESDの価値観を変革させようとするのか
- ・どのようなESD的な行動化を求めようとするのか

視点、資質・能力、価値観については、項目だけを羅列するのではなく、学習内容に落とし込んで、その説明を書く。



SDGsの何を達成することに貢献するのか

⇒ でも、これらは後付けでいいです！

学習指導要領に沿って、子どもがワクワクするような授業を考えたら、ほぼESDになっているはず！

第5回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2022年8月25日（木）19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	36名
◇内容	単元構想案の相互検討①

【ルーム1】担当：大西浩明

（1）2つの石碑を題材にした減災教育（小学4年 総合）栗谷正樹先生

大阪市と堺市にある2つの津波に関わる石碑を取り上げたい

大阪市の石碑「宝永の大地震の時も、小船に避難したために津波で水死した人が多かったと聞いているが、伝え聞く人がほとんどいなかったため、今また多数の犠牲を出してしまった。ここに記録しておくので、心ある人は碑文が読みやすいように時々墨を入れて、伝えていってほしい。」

今も地藏盆のときに毎年墨入れをしている

発表活動をどういうものにしたらいいか悩んでいる

<話し合い>

- ・発表は双方向のものがいいだろう → 高潮センターの方や地域の大人を対象に
- ・国語の教材に「調べたことを伝えよう」というがあるので、国語科とのコラボも考えられる
- ・防災よりも地域に伝わる伝統文化財としての教材の魅力を感じた
- ・最近で言えば、関空の高潮による被害などを取り上げたら分かりやすいかも
- ・墨入れを毎年している意味をしっかりと考えさせたい

（2）Is Palm Oil Really an Eco-friendly Product?（高校3年 英語）

谷垣徹先生：奈良県立青翔中学校・高等学校

コミュニケーション英語として10時間で行う

パーム油の生産のため熱帯雨林が減少し、それによりオラウータンの住処がなくなり絶滅の危機

パーム油は環境にいいものとされ、様々な製品に使われている

現地の人たちの大切な収入源となっている

→ 本当に環境にいいものなのか？

地元の人々の収入を維持しつつ、どのように環境を守ることができるのだろう？

深く考えさせたいが、どこまで英語でコミュニケーションできるか

<話し合い>

- ・作者の別の文章を読んだり、同じ題材を扱っているものを読んだりすることで考えは深まるのでは
- ・英語の4技能（読む・聞く・書く・話す）を一体的にさせたい
 - 環境保護派と経済推進派に分かれて自分たちの主張をグループで考えさせても
 - 動画などを探して自分たちの意見の補強をさせてみるのもどうか

（3）片西マイスターになろう（小学3年 総合）中澤哲也先生：大和郡山市立片桐西小学校

エネルギーにあふれている子どもが多い → 「〇〇するな」という指導が多い。

子どもの方を見て授業をしているのかと疑問に思うことが多い

もっと子ども自らが生き生きと学べる機会をつくりたいと思っている

金魚を題材にして様々な取組ができると考えている

町の中に様々な金魚の看板などをきっかけにして

<話し合い>

- ・そういうエネルギーにあふれた子どもこそ、ESD では力を発揮するもの
- ・金魚もいいが、それをつきぬけて地域課題を見つけることが大事
- ・平気でごみを捨てる子どもだからこそ、「ごみ」にこだわってみては？
ごみを拾っている大人の姿から何か感じるはず。

【ルーム2】担当：中澤静男

(1) 地域の安全を守るのは私たちだ(中1 総合) 井阪愛子先生：平群町立平群中学校
住んでいるグループで分かれ、町にある防災関連グッズを調査する。(夏休みの宿題)

防災支援マップの完成(マップに調べたものを貼る)

災害発生や中学生の活動の動画視聴 → 自分たちの町は大丈夫か、自分たちに何かできないか
町の防災課の方をGTとして招き、避難所に必要なものを教えてもらう → 学校の施設を点検

人：多くのボランティアが必要 自分たちから動き出そう

物：最低限の物資しかない 持ち寄ろう、寄付で用意しよう

設備：今のままでいいのかな？

訓練：訓練の大切さを感じる

中心発問：絶対に必要なものがそろったら、大丈夫なの？ 本当に大事なもののってなんだろう？

物だけじゃなく、私たちの意識こそ(自分事)が重要。

地元の方に守られているという実感を持っている。でも今度は私たちなんだ。

守られる人から守る人に！

→ 防災支援マップのバージョンアップ

<話し合い>

- ・既存の防災マップをたたき台にすると取組やすい。
- ・「守られる人から守る人へ」がすばらしい。保護者へのインタビュー(巻き込み)もしてみてもいい。
- ・これまでの災害について聞いてみてもいいのでは。
- ・脱炭素社会に向けたライフスタイルの変革に発展するのも大切。
- ・自助・公助・共助の観点から大事な学習だ。
- ・最近の災害のビデオを見せてはどうか？ 印象が強すぎるような気がする。

(2)「をばすて『大和物語』より」(高校1年 国語) 神林真理子先生：白梅学園高等学校
古典作品から現代の問題につなげる

・高齢者問題(高齢社会の現実を把握し、考察する)

→ 社会保障制度の崩壊へ

→ 幸せに生きていくことができる社会の実現への取組：テクノロジーに着目

・ジェンダー(女性に押し付けられた役割)(日本のジェンダー問題の現実を把握)

→ 就学率が高いが経済的に低い。離職率も高い。

→ 海外の取組と日本の比較 ルワンダ、北欧

あなたが今後取り組めることは？ 政治的な活動にもつなげる、企業や町内会活動につながる。

<話し合い>

- ・自分が「捨てられる」ことを想定する。
- ・生徒が考えたことを現実の当事者に投げてみてはどうか。
- ・古文の読解から現実問題につなげるのは、生徒の学習意欲につながる。
- ・自分のライフステージ、未来設計図と重ね合わせることで自分事化できる。

(3) 閉じ込めた空気や水 (小学4年 理科) 石田あき先生：菊池市立花房小学校

空気や水を閉じ込めてみよう

それを押したらどうなるだろう。

縮むと押し返す力になる 手ごたえの可視化

ペットボトルロケット

<話し合い>

- ・普段は気にしていない空気や水を取り上げることで、探究する心を養いたい
なぜ、そうなるのか？ こうしたらどうなるのか？
- ・見えない空気を扱うことの難しさ。初めにペットボトルロケットを見せて、その理由を探究
させると継続する。

【ルーム3】担当：加藤久雄

(1) 「醍醐地区の魅力を見つけよう～春の学校～」(小学6年 特別活動)

小関直幸先生：山形県寒河江市立醍醐小学校

- ・ビンゴカードを6年生がつくって、下級生とともに「春の学校」に出かける。
- ・6年生にとっての学びはあるが、下級生の学びは？
→低学年児童に絵を描いてもらって、上級生に評価してもらったり、地域の人々に評価してもらおう。
- ・よりよい「ひろげる」学習は？ (行動化、学習の成果をどうつなげていけばよいか？)

<話し合い>

- ・お地蔵さんの意味、いわれ
- ・子どもたちの地域のお地蔵さんに対する意識は低いのか？ 子どもたちの変容は？
→お地蔵さんに対する関心は低いので、ビンゴカードを使って探すことを通して、関心が高まった。
日記などで子どもの変容をうかがい知れる記述がみられるように。
知ることをきっかけに、次につながることもある。
- ・のちに繋がっていくことがいいなあと思った。
- ・ビンゴカードを通して、見方を下級生に与えている。
→ビンゴカードの文言に、クリティカルシンキングの視点が入っている。
- ・小学校での活動をベースに、中学校で掘り下げることでもできると思う。
- ・いろんなものがあることを実感できる実践だと思った。(そこにあることを知る体験)
- ・魅力あるもの、価値あるものということを認識できる。下級生のときに気付けなくても、学年を重ねるなかで、積みあがっていけばよいと思う。

→小6での醍醐寺子どもガイドを実践するためには、それまでの地道な積み上げが必要と改めて気付いた。

(2) 地域調査の手法 学校行事で訪れる三重県を例に (中学2年) 中村基一先生：附属中学校

- ・海のコンディションが良い時の海苔と、悪い時の海苔の味くらべ
- ・三重県(鳥羽市)の漁業がこれからも続けていくのに必要な事はなんだろう?
- ・海苔がとれなくなっている。(温暖化、貧栄養化が起きている。)
- ・事業が成り立つ値段。しかし、買ってもらえない。というギャップ。(安ければよいという価値観)
- ・モノに対して、安く買えることがいいという価値観があふれている現在社会。
適正な価格でモノを買うという価値観は薄いのではないか。
- ・お金だけでない部分に、価値を見出させたい。
- ・モヤモヤしていること・・・個人の行動化の次に、第三者にひろげていくことが難しい。(ふわっとしている。)

<話し合い>

- ・子どもたちが「ああだよ。こうだよ。」と言っていたことを、考え直すポイントがあるか。
- ・「安ければいいという価値観」を考え直す。ということが含まれている価値ある実践。
→安さを求めている消費者の存在。
- ・内陸部の子どもたちは、漁業を身近に感じるのが難しい。水産業に関わる人の話などに触れさず、ホンモノに触れさせることが大きいと感じた。
- ・ゲストティーチャーの活用(オンライン)・・・ゲストティーチャーに序盤に出てもらって、課題提示(宿題を出してもらう)。自分たちで課題解決に向けて考えることで、他者にひろげる目的となるのではないか。
- ・三方よしの活用・・・買い手、売り手、市場(消費者)の3つともに加えて、環境のことも考えることができれば学習が深まるのではないか。
自分たちの幸せだけでなく、まわりの幸せも考える。
→四方よし「未来もよし」であればいい。
- ・「乗りの味比べ」という実体験・経験のインパクト。
- ・貧栄養化の原因として、海がきれいになりすぎていないか?
→海苔を養殖するために、土を掘り返すこともしている。これが環境に良いことなのかという疑問。

(3) 「平和」とは何か 児童一人一人が考える学びの実践(小学6年)

阿部大輔先生：山形市立千歳小学校

- ・広島市の小学生との交流、広島の平和学習を通して、山形の平和について学ぶ。
- ・ユニセフ(山形市出身の大学生)との交流・・・世界の子どもたちについての理解 わたしたちにできることは？」
- ・地域の「千歳遺族会」の方との交流
- ・学んだことを地域のコミュニティセンターなどで発表してほしい。地域とのつながり。
- ・着地点・・・今の生活が当たり前ではない。家族への感謝、友達を大切にするなどにつなげたい。

<話し合い>

- ・つながろうとする行動力がすごい。
- ・広島とつながるときに、広島の人でなく広島の小学生（同世代）から学ぶということがポイント。
- ・下級生へつなげることもすればいいのではないかな。
- ・他地域とのつながりから、自分たちのことを見つめ直している。
- ・ゲストティーチャーが、なぜ、その活動をするようになったかを子どもたちに考えさせればよいのでは。
- ・広島の同世代の小学生との交流を通して、山形の子どもたちが発言できなかった。その経験が子どもたちを変えるきっかけになったのではないかな。
- ・SDGs の 17 の目標には「核兵器」が入っていないことに違和感をいっている。
- ・着地点に注目。あるもの、いいものに気付かせたい。心の平和が、行動の変容に関係していく。
- ・自分たちの「心の平和」をゲストティーチャーに宣言として返すことで、責任感も生まれるのではないだろうか。

【ルーム 4】担当：河野晋也

(1)「ハザードマップを地域住民に説明するための授業」(高校科学)

佐藤崇之先生：山形県立高畠高等学校

『科学と人間生活』(必修週 2 コマ)

山形県内にある火山（鳥海山）を題材として取り上げ、どのような備えが必要なのかを考える。その付近にある遊佐町で地域住民に配布しているハザードマップについて、地域住民に説明するためのプレゼンテーションを作成する。作成したプレゼンテーションは遊佐町の役場職員にプレゼンして評価してもらう。

<話し合い>

- ・火山の近くに住むことの良さと課題、両方から捉えさせようとしている。どのような良さがあるのか。
→温泉が湧き観光資源となる。また火砕流の跡がきれいな景観を作る（大分では地熱発電も日本一です）。人によって見えてくるポイントが変わるだろう。様々な視点から、多面的に火山を捉えることが望ましい。
- ・遊佐町には少年議会があり、高校生同士で係わりを作っていくのもいいのではないかな。
- ・『科学と人間生活』という教科の特性をうまく生かせるとよいと思った。総合的な探究としてではなく、科学的な視点を重視した探究ができれば。
- ・提言を遊佐町（生徒たちが通う高校とは距離がある）に提言するというのが、うまくいくだろうか。他地域の者が地元で提言するということになるので、十分注意して行わないと「よそのもの」扱いされる可能性がある。生徒たちにとっても自分事になるよう、働きかけが必要だと思う。

(2)「災害に強いまちづくり」(小学 6 年 総合) 梁川千尋先生：奈良市立伏見小学校

修学旅行（北淡震災記念館など）の経験を踏まえ、大きな災害が起きた際に、自分たちに何ができるかを考える単元。特に災害時に小中学生が頼みとなる避難所設営・運営に着目し、どのようなことが必要かを考え、今できることを実践していく。

<話し合い>

- ・実際に南海トラフ地震が起きた際に、奈良の伏見小学校でどのような被害が想定されるのか
→津波の心配はないだろうが、交通網が遮断される可能性はある。他府県から避難してくる人も多く

いるかもしれない。または土砂崩れなど。どんなリスクがあるのか、明確にしておいた方が、避難所運営を考える際に焦点化できるし、子どもたちにとっても自分事になりやすいだろう。

- ・竈門ベンチってどんなの？
- ・切実感をどうつくるか。「みつめる」段階ですでに「自分たちに何ができるか」という問いを子どもたちが持つだろうか。もしかしたらもう少し後なのではないか。
 - まずは大人たちがやっていること、防災倉庫などをしっかり知っていったら、そこから課題意識が出てくると言い。日のおこしかたやロープのむすびかたも学んでいいと思うけれど、「なぜロープの結び方を知らなきゃいけないのか」「本当にちょうちょ結びでは困るのか」という切実感がないと、学びにくい。
 - 一方で、消防団の人の、阪神大震災の時のお話は、子どもたちにも強く心に残る話だった。これを阪神地域の話ではなく、自分たちにも関わる話だと考えることができれば、強く切実感をもたせることができそう。

(3)「ちち牛を育てる植村さんのしごと」(小学2年 生活科) 入澤佳奈先生：附属小学校

牛乳がどのようにできるのか知らない子が多い。実際に植村牧場にいったら、乳牛から乳をとって牛乳として製品化されるまでの過程を学ぶ。その中で、大手の牛乳とはまた違う、植村牧場の牛乳の魅力に気付いたり、牛にとっても負担のない製造などのこだわりに気づかせる。

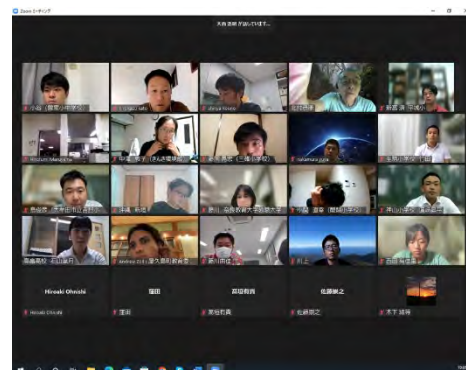
<話し合い>

- ・大手の牛乳は「その味」をつくるために決まったエサをあげているが、本当はエサが変われば味が変わるということを初めて知った。今は付属小の給食で植村牧場の牛乳が飲めないと聞いて残念。もし子どもたちが毎日飲んでいたら、実践で気づくことももっと深まっていたと思う。
- ・なぜ植村牧場ではえさが毎日変わるのか。
 - 牛のえさは一般的な牧場が専用の配合飼料を使う。与える時間と場所とえさを中身を同じにすることでブランドを作っている（いつも同じ味の乳が出る）。一方植村牧場ではビールかすや脱脂粉乳の他、地元の農家からもらった作物なども混ぜている。その日の牛の体調を見て、牛にとって最も良いエサとなるよう変えている。
- ・どのように ESD の授業を構想していくのか
 - 子どもたちが見えているところ、見えていないところを教師が見極めることだと思う。見えていないところに授業づくりのヒントがあると思う。

第6回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

- ◇実施日時 2022年9月27日(火) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMによるオンライン開催
- ◇参加者数 36名
- ◇内容 単元構想案の相互検討②



【ルーム1】担当：中澤静男

(1) 藤川由佳先生（奈良市立平城西小学校）

小学4年 社会科+総合「シカと共に生きる奈良のまち」

導入「奈良のシカについて知っていることを出し合おう」

シカが身近に生息している地域とそうでない地域では、シカに対する印象に差があるだろう。

中心発問「なぜ「奈良のシカはかわいいだけでは済まされない」と言われているのだろう」

奈良のシカの現状に対する多面的な調査活動が期待できる

深める発問「奈良のシカが天然記念物になった理由を考えよう」

奈良のシカと人の長い歴史

シカと人の信頼関係が基盤にあることに気づかせたい

発展させる発問「共に生きていくために、私たちはどうしたらいいのだろう？」

長い年月にわたり、シカと人は共生してきた。それは奈良の人の地域アイデンティティも形成している。この関係を次世代にも受け継いでいくために、自分は何をすべきだろうか？（世代間の公正）

【相互検討】

- ・山形・東北地方にはマタギの文化という人とクマの共生の文化がある。クマは神様の遣いなので、狩ったクマの肉や皮、内臓や骨などすべてを使い切る。野生動物との共生は多様である。
- ・シカと共生していくことが前提として学習が展開されているが、たとえば「クマとの共生」はどうだろうか？「外来種との共生」、「カラスとは共生できるか」など、野生動物を入れ替えることで、野生動物との共生についての思考が深まるのではないか。
- ・野生動物との共生に関しては、心の中で身近であるかどうか、親しみを持っているかどうかにも影響するだろう。
- ・シカに実際にふれる機会をつくることで、ESDで重視している五感を通した理解を進めたいが、今は家族一緒に休日に奈良公園に行ってみようで留まっている。秋の遠足が利用できないか検討中である。
- ・学校での学習で終わるのではなく、シカについて考える糸口になればいいと考えている。
- ・奈良公園周辺で暮らしている人、観光客、お店の人など、多様な人へのインタビューを行うことで、自らのシカに対するイメージの見直し等、クリティカル・シンキングを促すことができるだろう。

(2) 本越暁葉先生（熊本県菊池市立旭志小学校）

小学校1年 生活科「いきものとなかよし」

児童の生活環境に多くのウシ、ヤギ、ブタなどが飼育されており、それらがいることが児童にとって「あたり前」になっている。

導入「学校で見つけたムシについて出し合おう」

- ・校内でムシ取りを行った。「持って帰りたい」「飼いたい」
- ・学校でムシを飼うという「命を預かる体験」を行った。

中心発問「どうしたらムシと仲良くなれるのかな」

- ・飼い方を調べて飼いはじめ。死んでしまうムシもいる。

深める発問「これからもムシとなかよくしていくにはどうしたらよいか」

- ・「飼う」ことは「命を預かる行為」であることに気づかせたい。

発展させる発問「他にはどんな生き物がいるかな」

- ・あらためて生活環境にたくさん見られるウシ、ヤギ、ブタに目を向けさせる。
- ・ムシを飼育してうまくできた・できなかった体験が、家畜を育てている人たちの営みを理解する下敷きになる。

【相互検討】

- ・命をつなげるために自分が何ができるかを考え、行動化を促すことでE S Dの授業となる。
- ・畜産農家・酪農家をゲストティーチャーにむかえ、「営みを学ぶ」ことが、「命を守るための営み」を学ぶ時間になっていく。
- ・命のつながりには2つある。横のつながりとは「食う」「食われる」というつながりであり、縦のつながりとは生殖による世代をつなぐつながりである。
- ・授業前後の児童の変容
単にムシに興味がある・楽しい→飼っているうちに「かわいい」という感情→「お世話しないといけない」→「仲良くなれた」「死んでしまった」→自分の責任を感じる→命を預かる行為が自分事化する→家畜を飼育する営みを共感的に理解する下地になるだろう。
- ・人が手をかけることで生きていくことができる、豊かになる自然がある（例えば学校ビオトープ）ことに気づかせることは重要。一方、自然界で生きている生き物もいる。「自然界ではどうなっているんだろうね？」と投げかけておくことが、今後の学びに発展する可能性がある。
- ・守っていく必要のある生き物もいる＝絶滅危惧種
- ・自然界にも、温暖化や酸性雨など、人間活動の影響が広がっている。これらを考えるのはもっと先になるであろうが、投げかけておくことは大切だ。

（3）石山葉月先生（山形県立高畠高等学校）

高校3年生国語科 現代文B 夏目漱石『こころ』

中心発問：夏目漱石の『こころ』の魅力はなんだろう。

教科書には3部構成の内の3つめの中の「先生と遺書」だけが掲載されている

- ・生徒の読書意欲は高いとは言えないため、部分的に読む「朗読会」を位置付けたり、生徒同士がディスカッションする場面を設定したりする。対話型の授業にしたい。

深める発問：どのような発信の仕方があるだろうか

→ ポップに着目させる（本屋に限らない）

読者に特に読んでもらいたいところを強調する

広げる発問：『こころ』のポップ作りをしよう

深める場面：ポップの相互評価をしよう

【相互検討】

- ・授業者である石山先生が感じる『こころ』の魅力
登場人物である「先生」の心理描写がすばらしく、手に取るように伝わってくる
- ・『こころ』は長くとりあげられてきた教材である。導入では、「その理由を探ろう」という入りの方が生徒の意欲が向上するのではないか。
- ・山形には「泣いた赤鬼」の作者である浜田広介がいる。『こころ』のような文学教材を学習した後、そこで身につけた作者の背景も考えるといった「読み方」で郷土文学である浜田広介を取り上げ、発信してはどうだろうか。
→ 発展として浜田広介や宮沢賢治の「なめとこ山の熊」といった作品へと広げていくのもいいと思った。
- ・国語科における ESD 教材について
持続不可能な社会状況をつくるのも人間であれば、持続可能な世界を構築するのも人間である。国語科では、「人間を理解する」ESD 教材として取り組まれてはどうだろうか。

【ルーム 2】担当：新宮 済

(1) アンドリュー・ゾル先生（鹿児島県屋久島町 ALT ESD グローバルアドバイザー）

小学校 6 年「プラスチック汚染の解決をテーマにした ESD 英語学習」

- ・英語学習でプラスチック汚染から生物多様性の保護を考えたい。英語の会話に出てくるアニマル（動物）のなかにはプラスチック汚染に苦しんでいる種類がいることを伝えたい。
- ・英語学習から陸の動物たちもプラスチック汚染が深刻であることを伝え、脱プラスチックを考えたい。
→ 屋久島町では海のプラスチック汚染のテーマをよく扱うので、子どもたちも自分事であるが、陸のプラスチック汚染はほとんど知らないの、興味を持つだろう。
→ 海洋プラスチック汚染の大部分が陸で出されたプラスチックごみであり、川から流れることも事実。英語の教材として開発することは素晴らしい取り組みである
- ・探究活動も入れたいが英語学習でどこまでできるか不安（1 単元授業できるとのこと）
→ 調べ学習などすべては難しい。各学校に調べ学習を任せてみたち、アンドリューのように問題解決のための想いやライフスタイル変革を英語で屋久島の観光客に紹介してもいいかも
- ① 導入でアンドリューの陸のプラスチック汚染と解決のための行動変容を英語で伝えモデリングとなる。
- ② 探究ではアンドリューの資料を使い自分の興味ある動物のプラスチック汚染の実態を知り、アンドリューと同じように伝える
- ③ ひろげる活動として各学校で取り組む ESD（特に問題解決への想いや行動変容）を英語で紹介するために考える。

(2) 川上友大先生（鹿児島県屋久島町立安房小学校）

小学校 6 年総合「屋久島を舞台に進める ESD 平和学習」

- ・修学旅行先を知覧 特攻平和会館 に選んだ。鹿児島県では夏休みに登校して平和学習をする日がある。修学旅行をゴールに平和学習を自分ごとにしていくために地域教材として地域の戦争体験や遺構を教材開発中

- 戦争を自分事にしていくために、地域の戦争の跡に触れることは素晴らしい
- 修学旅行を導入にし、屋久島と戦争について考える学習展開もある
- ・ ESD として平和学習をするために必要なこと、行動変容は何を目指すか
- ・ 戦争反対といった簡単な答えにはしたくない
 - 屋久島で戦争の語り手がほとんどいないことに目を向けてもいいのではないか
 - 隣同士の平和からでもよい、ウクライナにつなげる切り口でいろいろある、それを自分事にして本気で解決のために考えることが大切
 - 修学旅行先の博物館から命の重みについて迫る学習はどうか
- 計画にあるように地域との交流・発信をしてほしい

(3) 濱崎昇平先生（鹿児島県屋久島町立神山学校）

小学校 6 年図工 「地域とすみよい街づくりを考える 屋久島ジオラマづくり」

～つくろう！ぼくたち・わたしたち未来の屋久島～

- ①総合で「よりよい屋久島にしたりするにはどうすればよいか」探究する
- ②図工では総合で考えた住みよい街を屋久島ジオラマにして、どうすれば思いが伝わるジオラマになるか学習していく。
- ③地域の人にインタビューし、神山の観光名称に橋をつくるプラン、屋久島の木材を有効活用した街づくりなど、地域の方の思いも入れた作品にする
- ④観光名称や役場などに展示してもらい子どもの「未来の屋久島」に意見をもらう
 - 地域の人や、自分の体験をもとに住みよい街を考えジオラマにすることが素晴らしい
 - 奈良では町の未来を考えるとときに世界遺産登録を学習し、人と文化財、自然とのかかわりを深く考える。屋久島の世界遺産登録を取り上げることで、これまで続けられてきた自然と人との関係を抑えていく必要がある。インタビューして聞いた地域の人を持続可能な屋久島の町づくりと、世界遺産登録が一致していて屋久島の大人は行動化していることに気づき、あこがれてほしい。
 - ジオラマの環境活動家とコンタクトをとり直接コツを聞けるのが素晴らしい、社会参画の新しい形を創ってほしい。

【ルーム 3】担当：大西浩明

(1) 屋良真弓先生（沖縄県南風原町立南風原小学校）

小学校 5 年 社会「米づくりの盛んな地域」

昭和 40 年ごろまでは、沖縄でも米づくりはどこでも普通に行われていた。

沖縄の米づくりは、北部では結構さかんだが南部は水や土壌の関係もあってあまりさかんだではない。

その中でも、社会科としての「米づくり」をしっかりと取り組ませたい。

伊是名島の東江さんを例に 米の二期作 「やっぱり沖縄の米はおいしい」

沖縄の米を PR する動画の作成 最後には「地産地消」を言わせたい

- ・バケツ稲などの取組もよくするが、もっと子どもに作業させたい
 - 失敗させていいのではないかと大変さが実感できないと意味がない
- ・バケツ稲の土をあまり向かない南部に土にして、その大変さが分かるといいかも
- ・伊是名島の米づくりの資料の、どこを考えさせたいのかを明確にするとよいのでは
- 水の大切さ（特に沖縄では） 東江さんの米づくりにかける思いや情熱 など

(2) 新垣孝子先生（沖縄県糸満市立糸満中学校）

中学校3年総合「海洋教育」

これまで沖縄の海について多角的に学んでいる

3年生では、「海とともに生きる」をテーマに様々な体験をさせたい

南海トラフ地震が起されば、糸満は津波に飲み込まれる地域

①災害時、身近にあるもので傷病者を救助する方法

自助、共助について考えさせたい

②大災害から学ぶ ～東日本大震災から学ぶ防災・減災～

災害時、避難所などで中学生の自分たちに何ができるか

③防災キャンプ

避難所で自分たちができることを実践しよう

最終的には、「そのときどうするか」を家族と話し合わせたい 小学生に指導させてみたい

・防災をいかに自分事にするかが難しい 分かっていてもできないことが多い

子どもは体験は好きだが、調べたり書いたりという学習が苦手 → NIE との連携

・これだけいろいろ体験させるのは準備なども含めて大変だと思うが

→ 一人でやっているのではなく学年全体で動いている

学校の中に、全体で進めていこうという文化がある

・防災教育のゴールは、「家族の絆」だと思う

「そのとき」にどうするかをしっかりと話し合わせる事が大事だと思う

【ルーム4】担当：河野晋也

(1) 島俊彦先生（福岡県大牟田市立吉野小学校）

小学校「大牟田市動物園との ESD 協働実践プログラム」

小学校のクラブ活動「ESD クラブ」の活動として、動物福祉に着目し、大牟田市動物園とコラボレーションする実践を構想した。

動物にとっての豊かさとは何か、動物園の生き物にとってどのような環境が望ましいのか、それを向上させるためにどのような取組ができるか、を考えながら、本当の豊かさとは何かを見つめなおしていく。児童が動物園の環境エンリッチメント（動物の飼育環境を改善し、その動物らしい望ましい行動を引き出すこと）を考えたり、動物園の協力を得て実践・観察する取り組みを通して、動物にとってのウェルビーイングとは何かを考えていく。

・最後の着地点（自分の生き方）にどう着地させるのが難しい。豊かさの捉え方について、他者との違いを認め合えるような着地点がよいのかなと考えた。

・通常の授業と違って、クラブ活動が頻繁にあるわけではない。その間隔をどのようにつなぐかも大切だと思った。

・家庭科の場合は、生活の豊かさとは、クオリティオブライフを言う。今回の実践とも関わりがありそうだと感じた。どのような「質」を求めるのかを考えていくことが、着地点を探す方向性として考えられるのではないかな。

(2) 竹田光陽先生（生駒市立生駒小学校）

小学校第3学年「地域盛り上げプロジェクト」

生駒には、100年以上続く商店街があり、現在でも多くの人が足を運んでいる。子どもたちにとって当たり前の光景であるが、ここに問いを見出すところからスタートする。大きなスーパーもある中でなぜ商店街がにぎわうのかを探究していく。子どもたちは聞き取りをしていく中で、昔からのつながりや、商店街を大切に思っている人の気持ちに気付いていく。この商店街がこれからも長く続いていくために、自分たちに出来ることは何かを考える。子どもたちはポスターを作成することを考えたが、一度そこで立ち止まり「本当にポスターが必要とされているのか」を商店街の人に問いかけ、自分たちの行動の意味を確かめながら実践していった。

- ・社会科のスーパーマーケットの実践と関連づけながら行っていく。
- ・商店街の人と子どもたちとにやり取りの中では、子どもたちを応援する地域の人の声も届いていた。それが子供のやる気にもつながったと思う。
- ・福岡市で同じように商店街を盛り上げる実践例もあった。似ている実践はできるが、場所によってその状況は異なるので、実践の中での迫り方もまた異なってくるなと思った。
- ・「なぜ商店街が寂れていかないのか」という問いには、子どもたちが気付いていった“人情”に加えて、他にもきっと理由があるのではないかな。それを探究していくのもおもしろい。

(3) 加藤尋和先生（奈良市立興東小学校）

小学校6年「柳生の文化財の魅力を発見しよう」

地域にある円成寺は、運慶作の大日如来象が安置されているなど、長い歴史を持つ貴重な地域の文化遺産である。しかし経年劣化によって屋根の修復が必要となっている。多額の修繕費の一部をクラウドファンディングで募ったところ、多くの人の協力を得て目標額以上の金額が集まった。この取り組みを教材化し、貴重な文化遺産を守るために、どのような人がどのような取り組みをしているのか、またこれまでしてきたのか、そして自分たちに出来ることは何かを考えていく。

- ・大柳生の太鼓踊りのように、一度失われたものを取り戻すのは非常に難しい。そういうものを復興させる、エネルギーが大柳生にはあるのだろうなと思うし、そういう魅力に気付かせることができる実践だと思う。
- ・クラウドファンディングは、現代版の「一針一草の喜捨」のよう。クラウドファンディングに至った理由や、重源さん公慶さんの思いなどにも触れると、子どものやる気もまた出てくるのではないかなと思う。
- ・昔からのものが残っているのには、それなりの理由があるはず。これまでも繰り返し復興されてきたもの。そういういろんな人の「残したい」という思いに触れさせて、子どもたち自身が「円成寺っていいな」「残したいな」と思えることが重要だと思う。

【ルーム5】担当：圓山裕史

(1) 藤岡晃宏先生（奈良市立三碓小学校）

小学校5年家庭科×国語×総合「食品ロスを考える」

- ・1学期から給食の残飯を減らす取り組みをしてきた。
- ・アンケートを児童・家庭・栄養士に行い、そういったところから問題や課題に出会う。
- ・牛乳の買い方についてのアンケートでも、奥から買うという意見は多い。

- ・行動化の部分では国語科として「取り組みを伝えよう」で学校全体に伝える。

(話し合い)

○藤岡先生

- ・教師主導で行っていいのか
- ・ゴールとして、学校全体に広げるのに躊躇がある。

○メンバーから

- ・児童の声から学習を進めるにあたっては、社会で食糧生産の学習をしているので、ノートなどから生産者の思いなどを拾っていったり、実際に出会ったりできるといいかもしれない。
- ・発信の部分で、児童から家庭にも発信できると、保護者への啓発になるのではないかな。
- ・消費生活では、家族構成など家庭によっても生活スタイルが違うので、一様に「これはいい」「これはよくない」とならないような配慮が必要。

(2) 小谷太一郎先生(曾爾村立曾爾小中学校)

9年生国語科「曾爾村の良さを伝えよう」

- ・まずは生徒が知っている曾爾村の良いところを出させる。
- ・「調べる」の段階で他の地域の取り組みや広告などについての批評文を書く。
- ・「曾爾村を良くしていくために」というテーマで話し合う。
- ・行動化については、他校にプレゼンをしたり、行政への提案を考えたり、リーフレットなどを書いたりといったことを考えている。

(話し合い)

○小谷先生

- ・行動化の部分でやりたいことが詰め込まれすぎているのではないかな。
- ・「いい村とは」という定義や、どう導いていったらいいのか。

○メンバーから

- ・小谷先生が悩んでおられるように、行動化の部分が壮大になっているので、マストの部分と+αの部分を設定してはどうか。
- ・「いい村」というのは誰にとってなのかをはっきりさせるべきではないかな。
- ・地域の課題を見つけるというのが難しいのではないかな。地域の人から話を聞いた方が気づきや自分ごとにしやすくなるのではないかな。また、曾爾村をよくするために話し合う際には、課題をしぼらないと広すぎて収集がつかないかもしれない。
- ・地域の課題といったネガティブな感じよりも、他校にプレゼンするならば「こんないいところがある」とポジティブな感じの方がいいのではないかな。
- ・観光客向けのマップなどに生徒が知っていることなどを入れてリニューアルするような取り組みも生徒の達成感につながるのではないかな。
- ・この構想案とは直接つながらないかもしれないが、岡山県の矢掛町の取り組みは曾爾村にも取り組めるヒントがあるかもしれない。

第7回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2022年10月13日(木) 19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	30名
◇内容	単元構想案の相互検討③

【ルーム1】担当：中村友弥

(1) 梅原彩華さん(音楽教育専修3回生) 宇治市の小学3年生を想定

音楽科 共通教材 茶摘みを導入に使った授業

みつめる 茶摘みを聞いてイメージを出し合う。

しらべる 茶摘み体験や実際に茶をたててみよう

ふかめる 宇治茶に携わっている人の話を聞こう

ひろめる 宇治川祭りのように、地元で大切にされてきたものが他にないだろうか

【主な意見】

- ・まちの特産物としての宇治茶に注目するのが良いと思う。どのような方に出会わすかが大事。
- ・音楽としてではなく、総合として指導案を書いたほうが良い。

(2) 後川りのさん(音楽教育専修3回生) 小学校中学年を想定

おんまつりの歴史や伝統について調べよう

おんまつりの保存会など、おんまつりと関わりのある人は多いので、どの方とどのように出会わせたらよいのか？

→おんまつりに関する切り口は多数ある。流鏝馬、春日大社、雅楽など。

→最後は、地元のまつりに注目するような活動にしてはどうか。

(3) 藤本さん(音楽教育専修3回生) 奈良市の小学6年生を想定

音楽科 共通教材 「われは海の子」を導入に使った授業

みつめる われは海の子を聴いた感想や歌詞の意味を調べて考えたことを出し合おう

しらべる 現在の海の様子を調べてみよう

ふかめる 海岸でごみひろいのボランティアをしている人に話を聞いてみよう

ひろげる 海の環境を守るために自分たちにできることは何だろう

【主な意見】

- ・歌詞の意味を考える導入があったから、最後に歌詞に注目して歌う活動があってもよいのでは・
- ・海の魅力やすばらしさに子どもたちが気づくような活動も考えたらどうか。「海は汚れている。だからきれいにしよう。」だけではもったいない。
- ・海なし県の奈良に最後はもどってくることにもっと焦点をあてても良いと思う。

【ルーム2】担当：河野晋也

(1) 福西隆生さん(英語教育専修3回生)

国語・総合・英語・社会(高校なら英語、中学なら総合ベース) 「物語を翻訳してみよう」

生徒にとって身近な物語を題材として、「なぜ様々な物語が今まで伝わっているのだろう」という問いから、知っている物語の発祥や伝えようとしているメッセージなどを調べ、アイヌの物語など消えてしまった物語に着目していく。単元の終末には、様々な物語を未来につなげるためにはどうすればいいかを考えさせていく。海外の物語と日本の物語を比べながら見ることで、それぞれの国の文化や表現の特徴などを学び、尊重する態度を学ぶこともできる。また他言語に翻訳することで、自国の文化を発信することにもつながると共に、どのように表現すべきか他国の文化や慣習に配慮する重要性に気付かせていきたい。

【出された意見】

- ・世代間のつながりを意識することができるし、その国の文化を配慮した翻訳という考え方が素晴らしいと思う。
- ・翻訳する際には、他文化に対する配慮から、オリジナルの表現を変えなければならないこともある。そのことによって、オリジナルの物語の良さが失われたり、その物語を培ってきた文化やその国の人々の感じ方が伝えられないということも出てくるだろう。この点を考えさせることも、学習の核になると思う。
- ・すべての国に共有されている物語を導入にしていくのもよいのではないか。
- ・どのようなことを学ぶ授業なのか、何に気付かせたいのか、という目標がいくつかも含まれている気がする。うまく整理できれば、より筋の通った実践になるのではないか。

(2) 西田有佳里さん（特別支援教育専修3回生） 小学校6年総合「障害って何だろう」

障がいがあることについて、知っていることを出し合い、障がいの意味について調べていく。障がいのある人の生活やパラスポーツを体験したり、障がいを持つ人の話を聞いたりしながら、「障がい」とは何か、「障がいがあるとはどういうことか」を学んでいく。見方によれば、障がい者として認定されていなくとも、多くの人がそれぞれにどこかで誰かの助けを求めているということに気付かせたい。

【出された意見】

- ・センシティブでありつつ、重要なテーマを扱っている。健常者と障がい者という区別でとらえるのではなく、誰もが誰かの助けを必要としていることに気付かせていくことが重要だと思う。バリアフリーという言葉ではなく、ユニバーサルデザインという言葉が使われていることも一つのヒントだと思う。
- ・授業者の強い思いが感じられる実践だと思った。この学習の後に、子どもたちがどうなっていってほしいのか、「育ってほしい姿」がより明確になって、言語化されるようになっていくと、展開も明確になっていくと思う。
- ・終末は、「ぼくたちにできることはなんだろうか」という問いについて、上滑りしないような工夫が必要ではないか。

(3) 川口綾菜さん（英語教育専修3回生） 中学校2年生「外国人にやさしいまちづくり」

まちにクラス多様な市民に目を向け、その中で外国人にとって、いまのまちが住みやすいと言えるのか、外国人にやさしいまちをつくるためにどうすればよいか、を考えさせていく。ALTなど身近な外国人の体験などを聞いた上で、街に出かけることで、今まで気づくことがなかった課題に気付かせ、課題を発見させていきたい。そして、外国の人にとってもやさしいまちにしていこうために、できることを考えていく。ただ、外国人にやさしいまちづくりというと、言語の問題に集約されがちだが、決してすべての外国人が英語を話せるわけではなく、外国の方が抱く不安感は言葉の解決だけで解消されるわけで

はない。その点に気付かせたうえで、どのような解決が望まれるのかを考えさせていく。

【出された意見】

- ・私たちも違う場所に行った時に、「特別扱い」をされるとコミュニティに入りにくい。インクルーシブなまちづくりという考え方が子どもたちのなかに共有されていくとよいと思う。
- ・外国の人にとってやさしいまちは、先の西田さんの発表とも関係するが、自分たちにとってもやさしいまちになると思う。自分たちがどんなまちであってほしいか、どんなことに困っているのかを考えることも、きっかけになるのかもしれない。
- ・その上で、外国の人という、成り代われない他者の視点にどうやって立たせるかが重要なのだと思う。
- ・人が生きていく上で、生物の多様性は不可欠。どんな生き物も多様性のなかでなければ生きていけない。外国の人がいることで、まちの良さも引き出されるだろう。そういう点に目を向けることも重要だ。
- ・外国人という固定概念を少なからずもっているかもしれない。そういうものを一つ一つはがしていくことで、「外国人」というひとくくりの枠組みで考えるのではなく、「様々な、多様な人」というインクルーシブな見方ができるようになるのではないか。

【ルーム3】担当：圓山裕史

(1) 松岡花さん（音楽教育専修3回生） 音楽科 小学校3年生 「茶つき」

- ・歌詞にでてくる「八十八夜」、「あかねだすき」など茶つきにこめられた思いなどに触れながら、歌ったり、手遊びをしたりするような学習の流れ。
 - ・そもそも「茶つき」がどのようなものであるかも知らない、見たこともない児童も多くいるであろうことから、昔ながらの「茶つき」の手法やその大変さなども知り、情景を浮かべながら歌唱・手遊びができるようにしたい。
 - ・音楽科の授業というところからも、最終目標としては音楽表現で終わるようにしたい。
- （話し合い）

○松岡さん

- ・内容が多すぎて、1時間で終われないのではないかと。（本時の指導案と勘違い）
→単元の構想なので、1時間で終わる必要はない。

○メンバーから

- ・「調べる」のところで手遊びをすることで、茶つきの動作などを感じることができるのではないかと。
- ・機械化されている「茶つき」ではあるが、古葉や茎が入らないように手摘みで品質を高めている場合もあるところからも、手摘みの良さも感じられるようにしてもいいのでは。
- ・音楽として完結するような流れでいいと思う。
- ・和食とともに世界でも注目されていて、フランスなどでは抹茶のスイーツが人気であるなど、お茶が世界にも自慢できる日本文化であることも触れてみてはどうか。
- ・余談であるが、お茶の木は世界中同じで発酵のさせ方で紅茶などの違いがある。

(2) 森恵里奈さん（音楽教育専修3回生） 音楽科 小学校6年生 「だんじり囃子」

- ・学習の流れは、鑑賞から始まり、だんじり祭りやだんじり囃子について、体験やゲストティーチャーからの話、映像などで見て知っていく。
- ・その後、だんじり囃子のリズムを演奏してみる。その際は4つの楽器ごとに違ったリズムを奏でたり、失われつつある伝統的な「なみ足打ち」を練習したりすることで、伝統を受け継ぐとともに、音楽会な

どの機会を使って、広げていく。

- ・音楽の授業の中では、実際に使われる楽器は十分な数が用意できないので、自作で段ボール箱など代用品を使う。

（話し合い）

森さん

- ・音楽と地域をからめた授業展開をしたかったので、大阪のだんじり囃子を扱いたかった。

○メンバーから

- ・導入で映像に合わせてなどの方法を取りながら、上手いかないだろうけどとりあえずやってみて、音楽的なリズムなどを学び、その後、演奏をしたときに「合わさった!」「気持ちがいい!」と感ぜられるような流れがいいのではないか。

- ・学習のメインをはっきり持っておいた方がいい。この場合で言うと、「リズム打ち」かな?

あくまで音楽の授業としてするので、あまり総合学習のように調べることをメインにしないようにした方がいい。

- ・音楽的にも、鑑賞→器楽演奏という流れがいいと思う。

- ・伝統的な「なみ足打ち」を受け継いで、つないでいくようなイメージで ESD 的な面もしっかり押さえられると思う。

【ルーム4】担当：大西浩明

(1) 長浜佐知子先生（奈良市立都跡小学校）

小学校3年生総合「みあとの祭りカレンダーをつくろう」

3年生の総合「みあとのたからを伝えよう」(40時間)のうちの小単元

第3学年では「自分の生活と文化の継承がつながっていることを考えられる子ども」の育成を目指す。

コロナ禍でほとんどの祭りが中止され、児童には存在感が薄れている。

①事前に行った Google フォームでの祭りアンケートの結果のスプレッドシートから、自分の担当部分をスライドにまとめる。

②ふれあい会館に行き、お年寄りからお祭りについて教えてもらい、教えてもらったことや考えたことをスライドに書き足す。

③学級での交流会を行い、学んだことをポートフォリオにまとめる。

後日、出来上がった祭りカレンダーとポートフォリオの感想をまとめたものを、ふれあい会館に持って行ったり、学級通信に載せ保護者に向けて伝えたり、教室前廊下に掲示したりする。

（話し合い）

- ・3時間で終わらない分はどうするか。

- 家庭学習で自分でどんどん進めていけるようにしたい

- ・祭りの持続不可能性（途絶えてしまう）について、考えさせたいが。

- 名前だけは聞いたことがあるがよく知らないものが多い

- まずは祭りについて興味をもって調べることをさせたい。

- ・学習のゴールで子どもにつかませたいものは?

- 人の思い、人の営みがあるからこそ祭りが続いてきた

- そこが「たからもの」であることに気付かせたい。

(2) 北野結衣さん(社会科教育専修3回生) 小学校4年生社会科「高知を水害から守る」

1998年の高知豪雨では、大きな被害が出た。

洪水ハザードマップを見ると、潮江地区は多くの水路があるので氾濫する。

誰一人取り残さない防災について考えさせたい。

社会科として、ゴールは「未来への備え」「自分たちにできること」

ゲストティーチャーに話を聞きたいが、98年の豪雨は地域が違うのでどうしたらよいか。

(話し合い)

- ・デジタルの新聞記事でも用意できないか。
- ・ハザードマップをたどるのはいいが、自分の体のどこまで浸かるかはイメージできないのでは。
- ・水がどこまで来たら危険かを実感させることが大事かと思う。
- ・社会科としては、災害時の関係諸機関の働きをおさえる必要がある。(しらべる段階) 公助
- ・その中で、救助に当たる人たちも命がけでやっていることを捉えさせたい。
- 4年生としては、最低限「自分の命は自分で守る」ための方策をしっかりと考えさせたい。 自助

(3) 木村直希さん(心理学専修3回生) 小学校6年生総合「桜の歴史を通じて佐保川を知ろう」

佐保川小学校は目の前に佐保川があるが、その歴史や価値に気付いていない子どもが多い。

1年生から様々な題材を通して佐保川に触れてはきているのだが。

堤防の桜を目当てに多くの観光客も来ている。

ただ、マナーの悪い観光客もいる。

(花見のごみをそのまま、立入禁止区域に入る、外国人が枝を折る など)

桜を守ってきた人たちに思いを馳せる ボランティアされている方との出会い

学習のゴールをどうするか 新聞にまとめる

(意見交流)

- ・中心課題(核となる問い)を明確にした方がよい。
- ・観光公害という側面から考えていくとよいのでは。
- ・1年生からの佐保川の学習を振り返ることから入るとよいのでは。
- ・地域の人は桜に対して誇りをもっているはずなので、マナーの悪い人に対して何らかの思いはある。
- ・まずは子どもにごみ拾いをさせたい。そこから思いが生まれるはず。
- ・立看板をつくったり、新聞も大人の人に訴えるものにつくったりすることが大切。

【ルーム5】担当：中澤静男

(1) 高垣有貴さん(美術教育専修3回生)

小学校6年生社会科+総合的な学習 「教育と平和」

①途上国における就学率の低さの理由を知る

動画等による途上国の現状を視聴する

学校に通えていない子どもたち 親は子どもが通学するよりも働くことを希望している

JICA等海外勤務経験者をゲストティーチャーとして招聘し途上国の親の教育への理解を進める
取り組みを教わる

②学校教育に効果を考える

学校教育にはどのような効果があるのか。自分たちの変容を認識する。

また、保護者へのインタビューを行い、日本の親が考えている学校教育の必要性を認識する。

③学校には行った方がいいという観点から、世界の子どもたちのために自分に何ができるか

【話し合ったことから】

- ・保護者へのインタビューをどう使うのかを考える。

保護者は学校で何を学んでほしいと思っているのか

どのように学校で過ごしてほしいと思っているのか

- ・発展の発問で、「世界の子ども達のために」とあるが、日本の小学生が本当にできることは限られている。ここでは、道徳との関連を意識して、自分自身の学校におけるライフスタイルを問い直し、行動を変容していくという学びにする方が、行動化を期待できる。

保護者へのインタビュー → 自分の学校での過ごし方を問い直す → これからの学校での過ごし方を話し合い、観点を抽出する。→ 自分が取り組みたいことの優先順位を考え、「いつまでに何を達成するか」というリストを作成し、宣言する。

後日、リストを振り返り、行動化の継続を促進する。

(2) 木下結等さん(教育学専修3回生)

小学校5年生社会科「海なし県海善(かいぜん)プロジェクト」

奈良県の小学校での授業化を想定。奈良県は海がない県だが、海洋汚染や海洋プラスチックゴミ問題、温暖化、海洋酸性化等の問題と自分たちが原因面・結果面において関わりがあることに気づかせ、自分事化させたい。

①100年後の寿司(サスティナ寿司より)→ほとんどシャリしかない

→ 自分にとって身近な生活にも影響が生じることを知ることで切実感をもたせる。

②海を守るために自分たちにできることを考える

マイボトルを使用することで海洋ペットボトルゴミを減らすことができる等

③海を守る実践家をゲストティーチャーに招聘し、自分たちが考えた行動化で、本当に海を守ることができるのか(効果があるのか)を評価してもらうとともに、どんな実践をされているのか教えていただく。

→ 自分たちが考えている行動化を再考する

→ 大人や地域を巻き込んだ実践をする必要がある → 巻き込み・実践の行動化

【話し合ったことから】

- ・導入について：養殖漁業が増えているので「ほとんどシャリだけにはならないだろう」

養殖については、水質悪化や薬品の多用による魚肉への悪影響という問題が発生する

マイクロプラスチックを食べた魚の汚染、人体への影響もある。

→ どのような問題があるかを出し合い、グループあるいは個人で調べ学習を行い、情報交流する時間をとって、クラス全体で共有するとよいだろう。

この学習段階では絞るのではなく開き、単元の終盤で絞り、深めていく。

- ・海を守る活動については、家庭排水などのきれいにしてから海に流すことに取り組んでいる浄化センターで働く方へのインタビューもよい(4年生の社会科での学習の振り返りにもなる)。

- ・自分たちで考えた行動化について専門家からアドバイスをもらい、問い直すのはよい。

- ・海へは川のゴミが流れ込んでいくことから、川と海のつながりを意識させることで、自分たちの日常生活・ライフスタイルとの関わりが実感できるだろう。

- ・巻き込み・発信・他学年への協働依頼などでは、動画配信がよいのではないかな。

(3) 宇和谷紗恵さん（家庭科教育専修 3 回生）

中学校 2 年生家庭科＋総合 「大和野菜について知り、広めよう」

①日ごろの食生活を見直す

内食・中食・外食

色々な地域・国で栽培されたものを購入している。おいしさで選んでいる。値段で選んでいる。

→ どのような育てられ方をしているのか、フードマイレージといった環境負荷、また栄養価・安全性などについて、ほとんど気にかけていないことに気づく。

地産地消（既習）のよさについて再確認する

②地域でとれた栄養価の高い食材を食卓に並べるにはどうしたらいいかな。

大和野菜について調べる

例：大和丸ナスのよさをアピールするためにレシピを考案し、提案する。

【話し合った事から】

- ・家庭科は教員の思いが大切。大和野菜を知ってほしいという思いが伝わってくる。
- ・地産地消に生徒の意識を向けさせるために、教室にスーパーのお惣菜コーナーから地産地消を意識したお惣菜を持ち込んではどうかな。なぜ、わざわざ地産地消のお惣菜が販売されているのか（あるいは、そういうコーナーを設置しているスーパーがあるかもしれない）、から地産地消へのニーズがあることを知り、その理由を考える、インタビュー等することで、地産地消のよさを復習することができる。
- ・導入に給食の献立表を活用する。給食献立表なら、生徒全員に関係があるし、全員に共通する資料になる。献立表には産地も記載されている。また、地産地消を意識されているので、そういうものがけっこうあると思われる。
- ・附属中の先生の指導案と宇和谷さんの指導案の区別がつくように、オリジナルのところと参考にしたところを明記してください。

第8回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2022年11月10日(木) 19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	31名
◇内容	学習指導案の相互検討①

【ルーム1】担当：大西浩明

(1) 新城菜々子先生(沖縄県南城市立玉城中学校)

中学校3年生音楽科「ポピュラー音楽を聴いて、その特長をみつけよう」

「ロック」「ジャズ」「ボサノヴァ」の3つのジャンルはそれぞれ単独で存在しているのではなく、長い歴史の中で人々や文化の交流によって生まれたものであるということを理解しながら鑑賞を進めていく。

音楽はいろいろな要素が関わり合っていてできていることういお感じさせたい。

鑑賞で学んだ知識を生かし、音楽のよさを生徒それぞれの表現方法で表現させる

(ダンスする・絵を描く・批評文を書く・写真を撮る等)

それらを批評する活動を行うことでポピュラー音楽のよさを味わう

SDGsの何番と関連があるのか考えを述べ合い共有する

(主な意見)

- ・表現活動はどんなものが多かったのか？
→ 表現活動ではダンスも多かったが、インターネットから歌に合う画像を持ってきて、注釈文を書いた生徒が多かった。
- ・単元構想時に3時間だったが、なぜ9時間に？
→ 音楽だけで考えたら9時間は現実的ではない。他教科と絡めることでかなりおもしろい展開になると思うので。
- ・SDGsと音楽がこんなふうにつながっていくのが面白いと感じた。
- ・鑑賞と表現がこういうつながりになっていくのは斬新だと思う。

(2) 栗谷正樹さん

小学校4年生総合「未来の災害に備えよう～2つの石碑から考える減災教育」

大阪府内にある津波災害を扱った2つの自然災害伝承碑を減災教育の教材として取り上げる。

伝承がなかったために2度目の津波でも多くの犠牲が出てしまった。

石碑の碑文を毎年「墨入れ」してきた人の思いを考えさせたい

「自分たちも次の津波災害に向けて備えをする必要がある」ことを認識させたい。

津波高潮ステーションの動画と東日本大震災の体験談から、避難できた理由を共有。

家族間で決めたルールを全体共有し、災害時の避難についてのポイントを再確認する。

(主な意見)

- ・2つの石碑がいい教材なので、後ろの展開でも使えないだろうか。
- ・総合なので、もっと探究できる余白があつていいかも。

- 他のところの石碑を調べて、「同じところ」「違うところ」を見つけたり。
- ・伝承していくことの大切さを考えるよりも、墨入れをしてきた人の思いに迫るものに。
- そうしたかったが、今年ずっと続けてこられた方が亡くなられたので。
- ・自校の避難訓練と比べていろいろな気づきをさせることが大事。
- 子どもから「こんな訓練あかんやん！」と言わせたい。

(3) 谷垣徹先生（奈良県立青翔中学校・高等学校）

高校3年生コミュニケーション英語「Is Palm Oil Really an Eco-friendly Product?」

オラウータンが生息するボルネオ島では熱帯雨林が破壊され、パーム油プランテーションが広がっている。

パーム油は、多くの商品（菓子類、インスタント食品、洗剤など）の多くに使用されている。

また、パーム油は貧しい地域の人々の重要な収入源となっている。

パーム油プランテーションが引き起こす環境破壊やオラウータンの減少などは、我々の消費生活と大きく関わっている。

「パーム油は環境にやさしい製品である。環境を取るか、絶滅の危機に瀕しているオラウータンの命を取るか。」と結ぶ教科書本文の記述に対しクリティカルな視点を持ち、環境保護と経済発展の両面から考えさせたい。

単元の目標、評価規準は、英語として？ ESDとして？

(主な意見)

- ・「A or B」と教科書が結んでいることを批判的に考えている点がすごい。
- 教科書さえ批判的に読むことが大事だと改めて気付いた。
- ・パーム油を巡る問題をまず関連図に表すと整理しやすく、考えやすいかも。
- ・今普通に使っているものでも、「よくないな」と思いながらどうしようもないものもある。
- そんなものを探してつなげて考えてみるのもいい。
- ・英語である限りは、やはり単元の目標、評価規準とも、英語として記載すべき。
- ESDに関わっては、「ESD との関連」の項で詳しく書いてもらっている。

【ルーム2】担当：中澤静男

(1) 島俊彦先生（福岡県大牟田市立吉野小学校）

小学校5年生 総合「未来につながる 吉野小桜プロジェクト」

教員にとっての単元の目的 吉野地区のまちづくりに参加・協力しようとする態度を育成したい

①吉野地区ではなぜ、桜が有名なのか

吉野地区の第1期のまちづくりに関わった方々が、吉野のまちをよい町にしたいという願いを込めて桜をたくさん植樹されたのが始まり。

②現状について

- ・子どもにとって、桜がたくさんあるのが当たり前の風景となっており、桜に込められた願いには気づいていない。
- ・桜プロジェクトが10年以上前から5年生を中心に続けられている。子どもたちは5年生になったら桜プロジェクトに関わることができるという期待感よりも、「やらされ感」が強い。
- ・地元の桜プロジェクトのメンバーも、マンネリ化していること、コロナ禍でイベントができない

ことが続き、消滅してしまうのではないかという危機感、スタッフが高齢化している、という課題があることを認識している。

③ 2年前の授業実践との違い

- ・ 2年前の授業実践では、これまでの桜プロジェクトを引き継ぎ、「継承」に力点を置いた桜樹の保全や管理・植樹が中心であった。ところが児童にとって、桜樹があるのが当たり前になっており、守るべき存在であると認識することが困難であったようで、マンネリ化していた。
- ・ 今回は地域の桜プロジェクトの方々から直接児童に困っていることを話していただく機会を設定したことで、課題解決型の授業展開となり、児童の活動意欲も向上している。

④ ゲストティーチャー（地域の方々）との連携に関して

授業を通してどのような児童の変容を目指しているのかについて、教員の希望、本授業におけるG Tの役割と重要性など、かなり入念な事前打ち合わせを行った。台本を作成し、それに加筆修正を加える形で、学校側が期待する連携を進めた。

（2）長谷川かおり先生（奈良教育大学附属幼稚園）

未就園児親子クラスでの取組 「おべんとうごっこ」

① 今年度から未就園児（2歳児・1歳児）親子クラスを開始した。

- ・ 同じように子育てをする母親同士が情報共有する場
- ・ 少し年上の幼稚園児が生活する様子を見ることが出来る場
- ・ 子どもの成長を身近に感じることが出来る場：
- ・ 当初は各自で遊んでいた子どもが、みんなで活動するようになっていった。
- ・ 絵本の読み聞かせに参加し楽しめる子が増えてきた。
- ・ 保育者が未就園児と関わる様子を見せることで、子どもとのかかわり方、声のかけ方を伝える場

② 今回の保育を通した保育者の願い

- ・ おべんとうを作る行為を通して、相手の喜ぶ姿を見て自分もうれしくなるような体験をさせたい
- ・ 利他や CARE など、ESD で育てたい価値観につながる保育

③ ままごと

- ・ 子育て支援の場で保育者が意図をもってままごとあそび（べんとうごっこ）を取り入れ、その際に保育者がモデルとなって子どもの内的活動に働きかけることによって、この活動で目指す親子の姿に大きく寄与できると考える。

④ 展開の工夫

- ・ 保育者がごちそうの入った弁当を用意して、子どもたちの目の前で食べることで、自分も食べたいと思えるようにする。
- ・ 子どもたちそれぞれに中身の入ったお弁当箱を用意しておき、ふたを開けるときのわくわくした気持ちが味わえるようにすることで、食べたい気持ちや自分でも作りたい気持ちが高まるようにする。
- ・ 食べたら「おなかいっぱい」と言って、かごに戻すことを示し、そのかごの周りで、それぞれが弁当を作ることを楽しめるようにする。

大好きなお母さんのためにお弁当をつくる活動

- ・ 個々の子どもの思いをくみ取って言葉にしたり、お母さんが待っていることを伝えることで、お母さんのことを思って作れるようにする。

- ・お母さんが喜んでいる様子を伝え、お母さんが喜ぶ様子を見て嬉しいと感じられるようにする。

⑤感想

- ・保育者が母子のかかわりのモデルを示している。
- ・子どもを認めるという子どもとの接し方に感心した。認められることで子どもが成長するのは中学生も同じだと思った。
- ・丁寧に保育することで、子どもの成長への気づきも多くなると思った。

(3) 長塩里音先生（福岡県大牟田市立大正小学校）

小学校 5 年生総合 「フラワータウンプロジェクト」

①課題

地域の人と一緒に花を育てる活動だが、当初の意図も熱も伝わっておらず、形骸化している。子どもには「やらされ感」しかない。

②単元計画した願い

フラワータウンプロジェクトが「笑顔で済み続けられるまちにしよう」という意図で続けられていることを子どもたちに伝え、積極的にしかかわる姿勢を育てたい。

③フラワータウンプロジェクトの意義

- ・「花」を媒介とした「人と人のつながり」を体感することができる
- ・「花」を通して、自然環境に関わる体験をすることができる。

④指導上の工夫

- ・フラワータウンプロジェクトを市民によるまちをよくする活動の一つとしてはじめられた磯畑氏と子どもたちが会おう場を設定する。磯畑氏の生き方を知った子どもの「あこがれ」からの行動変容意を期待する。
- ・花を育てるだけでなく、フラワータウンプロジェクトで募金活動を行い、昨年度から学校と関係をつくりつつあるキリバスを支援することで、温暖化の現状など、世界に目を向けさせる。
- ・地域の松原中学校にも協力を依頼し、連携して取り組めるようにしたい。

【ルーム 3】担当：河野晋也

(1) 品川崇先生（愛媛大学教育学部附属小学校）

小学校 5 年生社会科 「米づくり」

実践の概要

5 年生の社会科米作りの単元での実践。1 学期から始めたバケツ稲の取組や、同じ 10a あたりでも松山市と庄内平野とではコメの収穫量が大きく違うこと、などを切り口に農業の大変さに気づかせていった。また、より安全安心なコメ作りのための取り組みとして、愛媛大学農学部「安心米」を紹介した。石油から作られる窒素肥料を使わず、シロツメクサが窒素固定をすることを生かして肥料を使用して生産されている。しかし実際にはなかなか農家に広がらないという現状があり、子どもたちの思考を揺さぶる教材となっている。

質問や感想

- ・JA や大学の研究者など様々な人と出会っていることは、大変な苦勞だと思うが、とても良いことだと思う。安心米について、実際の農家の話を聞くことはできないのか。
- 農家の話をどのように取り上げていくかという点は、この実践の課題。近くに農家が少ない。

また JA の方としても収益の保障などを考えると、容易に安心米などの新しい取り組みを進めがたいという事情もある。そういった一歩踏み込んだ話を聞かせてあげられたら、と思う。

- ・ゆさぶりがうまれるように、たくさんの種を先生がまいていることが素晴らしいと思う。多様な人に声をかけて、話してもらうのもそのための取組だったのだなと思った。

(2) 先野文先生（愛媛県松山市立内宮中学校）

中学校総合

みんなで地域（北条：市町村合併で松山市に）の活性化のためのアイデアを考える実践。本実践では、特に鹿島という島に着目してその魅力を探っていった。この島は、昔は多くの人が訪れ、海水浴場や昔ながらの祭り、また鹿をはじめとする動植物も豊かに残っているが、現在ではあまり地元の人も行くことが少なくなっている。そこで、鹿島を舞台に地域おこしをするとすれば、どのような事業をすることができるかを考えていった。生徒からは、おしゃれなカフェ、パン屋のような中学生らしいアイデアや海辺でのヨガ、観光船、お年寄りと一緒に楽しめる機会を作る事業など、地域の特性を生かした様々なアイデアも出された。

質問・感想

- ・教科担任制が実施されている中学校では、それぞれの ESD 実践はどのように共有されているのか？
→勤務校が金融教育の取組をしており、その中にはキャリア教育や SDGs と関連するものも多かったため、複数の教員が SDGs に関する取組に関心を持っていた。この授業の場合は、何らかの形でプレゼンテーションを作成・発表させる取り組みを国語でやろうとしたところ、社会科の先生がコーディネートしてくれるようになり、理科の先生が関連する内容の授業を持ち時間でしてくれる、というように自然と関連づいていった。
- ・子どもたちは北条のまちについてどのような捉え方の変容があったのか
→地域おこしについて、明確なイメージはわからなかったようだ。ゲストティーチャーの話を聞くことで、地域のこれからについて前向きに捉えていくようになったと感じている。
- ・ぜひ最後に発信するチャンスがあればよいなと思った。
- ・町おこし、地域の活性化を考えると、どれくらい鹿島のことを知って、その良さを生かすような事業を考えるかが重要だと思う。ただ人を集めればよいというのではなく、子供たちの意見にあるように、島の特徴を生かした、鹿島だからこそできる事業が考えられることがいいなと思った。

(3) 中澤哲也先生（大和郡山市立片桐西小学校）

小学校 3 年生社会科「郡山市の金魚」

大和郡山市は、全国的に有名な「金魚のまち」といわれるが、なぜ有名なのか、金魚と関わる人がどのような取組をしているのかを詳しく知っている子どもは少ない。そこで、実際に金魚を飼育したり、金魚マスターの方と出会ったりしながら、その歴史や種類などについて学んでいく。また、なぜ金魚マイスターになろうと思ったのかという質問から、「町を大切にしたい」という願いに気づかせようとした。今後は、金魚ストリートの発案者の方に話を聞かせてもらう予定をしている。このインタビューを通して、金魚マイスターとの共通点を考えさせ、自分たちのまちをよくしようとする思いについて気づかせていきたい。

質問や感想

- ・非常におもしろい教材だと思う。金魚の学習になってしまっただけとはいけないと思う。その点で、人に

出会わせて、生き方に触れさせていくことがよい手立てだと思う。

- ・金魚の学習でありながら、街づくりの学習になっていることが良いと思う。二人のゲストをとおして町に住む人たちの思いや願いにも迫っていけると思う。

第9回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2023年1月6日(木) 19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	36名
◇内容	学習指導案の相互検討②

【ルーム1】担当：中澤静男

(1) 奈良市立平城小学校 教諭 奥戸貴裕先生

小学校第6学年 総合的な学習の時間「私たちの住む平城地域の魅力を多くの人に伝えよう」
日記を書かせているが、地域に関する記述がない。もっと地域に目を向けさせたい。

単元の目標

- ・平城地域にはどんな魅力のある場所があるかを理解する。(知識・技能)
- ・平城地域にある魅力ある場所を自分の言葉で表現する。(思考・判断・表現)
- ・平城地域に関心をもち、魅力を発見し、それを多くの人に伝えようとする態度をもつ。
(主体的に学習に取り組む態度)

単元展開の概要(全36時間)

- 1学期：修学旅行後、和歌山の魅力リーフレットを作成し、奈良交通者に評価してもらう。
- 2学期：平城地域の魅力を発見しリーフレットにまとめる
- 3学期：保護者参観などで発信する

〈意見交流〉

- ・用紙を4分割して、4つの魅力を見つける。人物の営みに着目させるために、いきなり地域の魅力を見つけようよりも、モデルとして1つ目は 学級全体で見つけ、残りの3つを自分で見つけるのがよい。
- ・奥戸先生の考えているリーフレットに記載する「魅力」イメージ(定義)とは？
観光リーフレットではなく、児童がこれまで過ごしてきた中で、自分の中のストーリーを自分の言葉で語るときに、表出される「地域の魅力」が理想的。ストーリーと共に語られることで、読み手の心にささると考えている。
- ・卒業を目前にした児童にとって、心のふるさとをつくる学びにもなるだろう。

(2) 平群町立平群中学校 教諭 井阪愛子先生

中学校3年生 総合的な学習の時間「子どもから世界を変えていこう」

単元の目標

- ・子どもが健康で幸せな成長を保障するためにある子供の持つ権利を理解した上で、世界の子供たちに取り巻く問題を知り、問題の解決に向けた知識や技能を身に付けようとする事ができる。
- ・世界の子供たちに取り巻く問題について、自分やグループで課題を立て、情報を集め、整理・分析して課題解決に向けて考えることができる。
- ・世界の子供たちに取り巻く問題を自分の事として捉え、自分がこの世界をよりよくしていく主体者として課題解決に向けて社会に参画しようとする態度を身に付けることができる。

単元展開の概要（全6時間）

※子どもの権利条約を子ども自身が学ぶことが大切（キックオフイベントより）。

子どもの権利宣言（1959年）から子どもの権利条約（1989年）まで30年もかかっている。←大人に任せておけない。

ユネスコの子どもの権利条約カードで、ダイヤモンドランキングを行う。グループでの意見交流で、他者のさまざまな意見があることに気づく。

カードを選択し、その内容を深く調べる。インターネットの活用法はできている。そこでの内言をまとめて外言として発信するのは苦手な生徒が多い。

生徒同士による相互評価行う。

知識構成型ジグソー法を用いて、同じ問題意識を持つ生徒が集まり、学びを深める

〈意見交流〉

- ・ESDでは行動の変革を促進するが、このような学習の場合、行動化は困難である。発信だけでもよいのではないか。
- ・受験勉強のためだけの学びではない、本来の学びの目的は世界をよりよくするための学びであることに気づかせる。
- ・学習を価値づける教師からの声かけ。
- ・周囲の人たちと自分がつながっていることから、世界の人たちと自分がつながっているという意識を自覚させることが大切。

（3）奈良市立三碓小学校 教諭 藤岡晃宏先生

小学校第5学年 総合的な学習の時間

「給食の残飯を減らそう ～食品ロスを減らすために自分たちのできること～」

単元の目標

※給食の残飯を減らしたい。

- ・世界や日本の食について食品ロスに着目し、食に携わる人々への聞き取り調査や給食の残飯を調べることを通して、食品ロスを減らす取り組みについて理解できる。
- ・生産者や食に携わる人との関わりを通して、学んだことをまとめ、表現したり、行動に移したりすることができる。
- ・食品ロスに対して関心を持ち、生産者、調理員、栄養士の先生の取り組みを知ること、それらの人の思いや姿に触れ、食を大切にするために自分にできることを考えようとしている。

単元展開の概要

- ・児童が発案した「おかわりチケット」による一定の効果はみられるが、まだまだ残飯が多いという実態がある。→ 子どもたちが発信・スタートする学びを進めていきたい
← 食べる量が少ない児童が肩身の狭い思いを持つことがないよう配慮を行う。
- ・家庭科：食品ロスについて学ぶ、賞味期限と消費期限を学習し、日ごろの食品購入を振り返る。
- ・総合：食品ロスの現状、原因、問題などについてグループで調べまとめる。
- ・食品ロスを減らすために自分ができることを考える
- ・栄養士の先生をゲストティーチャーに招く
給食室で行われている残飯を出さない工夫
残飯があるときの気持ち、どんな気持ちで給食を作っているか

食品ロスを減らすためにできること（学校）と（家庭）

- ・国語「よりよい学校生活のために」 三碓小学校全体の残飯を減らすために
ポスター・スライド・アンケートの作成 アンケートの集計
- ・米農家の話を聞く

〈意見交流〉

- ・本当は米農家へのインタビューは、栄養士・調理員さんの話の後に入れたかった。
- ・ルールではなく、自分の考えで行動を変えていくように促す
- ・「食を楽しむ」をつき詰める ← 同調圧力・根性論ではなく
- ・食を楽しむとは、みんな（調理する人・生産する人・食べる人）が **HAPPY** になること

【ルーム2】担当：大西浩明

（1）屋久島町立安房小学校 教諭 貴島三実先生

小学校第5学年 総合的な学習の時間「森で学ぶ ～私たちの住む屋久島の森を知り、守ろう～」

社会科の学習と関連させる 地域の木材、木工品に触れる

屋久島の森林環境や関連産業について調べる 「木を切るのはいいこと？」

ゲストティーチャー（林業、森林管理署、木工品づくりに関わる人）

林業の現場や製材所の見学 → 好き勝手に切っていいわけではない 仕事がつながっている

「持続可能な森林をつくるために自分たちができることは？」を考えさせる

〈フロアから〉

- ・屋久島の木材だからこそそのすばらしさを感じさせたい。
天然林と人工林の区別をきちんとして
- ・「ひろげる」にもっと広がりや深まりのある活動を取り入れたい
観光客が間伐材を使った商品を買えるように
プラスチックでできているものを木の製品に変えるなら → 商品開発
実際に使っている人の思いや考えを聞いてみるのもいい
- ・「プラスチックの便利だけど地元の木でできているのもいいね。」の、何がどう「いい」のかを考える
ことで、より具体的なよさに気づけるのでは → 屋久島の価値に気づけるのでは

（2）菊池市立菊池北小学校 教諭 稲葉淳先生

小学校第5学年 総合的な学習の時間「米づくりを通して、お米のよさを伝えよう」

社会科「米づくり」の単元ときっかけに

これまで5年生は、地域の方と関わりながら毎年米づくりを行ってきている

つくった米を販売し、義援金をおくったりしてきた

昨年度の5年生の掲載されていた新聞記事（ウクライナへの寄付）を見せる。「米作りをして、販売した売り上げの一部を寄付したという事実から自分たちはどうしていきたいか」という課題をもって活動をはじめようにする。

〈フロアから〉

- ・昨年の5年生の様子を見るだけで子どものモチベーションになるだろうか
- ・ESDの授業として考えるなら、
途上国における貧困や飢餓の問題と絡めたりできると思う

グローバルな視点を入れるといいのでは

社会課題の解決を目指したものにすると ESD の授業らしくなると思う

- ・相互性として挙げている「農業生産は、自然環境との関わりがあること」の中に、環境（地球）とも関わりがあるという視点が入れば、一気に ESD の授業になってくるはず

（３）屋久島町教育委員会 ESD グローバルアドバイザー Andrew Zoll 先生

小学校 6 年生 英語「My Favourite Animal and I（好きな動物と私たちの繋がり）」

3 時間のワークショップ お気に入りの動物をきっかけに 1 学期理科の食物連鎖について考える

“New Horizons”の単元「We all live on the Earth」の中で行う

各自、好きな動物とその生息地や食料源について調べ、英語で説明させる

どの動物でも、食物連鎖の中でプラスチックが入ってくところがあることに気づく

マイクロプラスチックに関するビデオ視聴

動物がプラスチックを食べないように、私たちにできることは？

<フロアから>

- ・動物がプラスチックを「食べる？」というのは、子どもたちにとって大きな驚きになる
それが自分たちの身に降りかかってくることや、自分たちのせいであることに気づける
- ・プラスチックは便利だが、そもそもそんなにプラスチックが必要なのかを考えさせたい
- ・3 時間でできる内容かと疑問に思ったが、3 時間でできる内容になっているところがいい
- ・英語と ESD とのつながりは難しいが、これなら自然な形でできると感じた

【ルーム 3】担当：河野晋也

（１）奈良市立平城西小学校 教諭 藤川由佳先生

小学校第 4 学年 総合的な学習の時間「シカと共に生きる奈良のまち」

奈良のシカについて「かわいいだけでは済まされない」と感じる人が多いという点に着目してつくった実践。特に、身近な課題を取り上げること、問題解決型の学習を行うこと、ICT を活用することの 3 つを重視して構想した。奈良市の中心部に住む児童ではなく、少し離れた地域の児童を想定して設計した。

<フロアからの意見>

- ・奈良のシカに関わる問題は、様々な表れ方をする。多面的・多角的に捉えることで、問題がどんどん複雑化していくと思う。問題解決型の授業をする上で、どのような問いを子どもが持つと想定するのがとても大切だと思う。主になる問は『奈良のシカ』と共に生きていくために、自分達はどのようにしたらいいのかを考えることだと思うが、“共生を妨げる問題”をなにだと考えるのかによって、授業は大きく変わらと思う。
- ・社会科ではなく、総合的な学習の時間とした意図がより明確になるとよいと思う。どのような教科横断的な取組を想定し、どのような探究をさせようとしているのかが明確になるとよいと思う。
- ・同じ奈良市内の小学校とはいえ、中心部でない学校の児童にとっては、シカは珍しい存在。人と鹿との適切な距離について考える機会にしてほしい。

(2) 生駒市立生駒小学校 教諭 竹田光陽先生

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案「地域の良さを発見し、応援しよう」

地域の商店街の人との出会いを通して、まちを大切に考えている人たちの思いに気づかせ、地域の魅力やその活性化のために自分たちにできることを考え、行動化をすすめる実践。小学校3年生なりにできることを実践していくことが難しかったが、地域の人や保護者と協働して実践を進めることができている。

<フロアから>

- ・子どもたちの行動（商店街にポスターを掲示するなど）について、ほかの学年や保護者からフィードバックをもらうことができているのはよいと思った。次も続けてやっていこうという気持ちになると思う。
- ・自分が実践するときにも出口をどうするか迷うので、今回のように地域に働きかけてポスターを制作するという方法は参考になる。
- ・地域の活性化はたしかに持続可能な社会づくりにつながると思う。でも、人が増えればよい、もっと買い物する人が増えればよい、というだけだと経済中心の考え方になってしまう。「理想の商店街のすがたとはどんなものか」「いま商店街の何が問題（よい）だと考えるのか」を3年生なりに見付けられることが大事だと思う。

(3) 福岡市立西花畑小学校 教諭 椎葉拓朗先生

第1学年 生活科学習指導案「じぶんでできるよ」

家庭生活について調べたり尋ねたりすることを通して、自分の家庭生活を振り返り、家庭生活を支えている家族のことや家族のよさ、自分でできることなどを見つけ、自分の役割を積極的に果たすことを主な目標として構想した。小学校低学年でのESDの在り方としてどのような展開が適切かを考えながら実践に取り組んでいる。

<フロアから>

- ・子どもの効力感が育まれることがまず大切な単位だと思う。やってよかった、うれしい、という気持ちを大切にしたい。保護者の方と連携して、幸福感を高めていってあげたい。できるようになったことを可視化したり、段階的にクリアできるような工夫（ループリックなど）も考えられる。
- ・家庭内の仕事の偏りに目が向く可能性を考えて、ジェンダー平等を入れているが、家庭事情にもよるところが大きく、「よい」「悪い」と安易に判定しないよう配慮していくことが必要だと思う。
- ・公平性「年齢や体力に見合った役割がある」という点を挙げているのが良いと思った。家族一人一人に均一に仕事が割り振られることが公平ではなく、その人の能力やできることを考えた上で、「自分がした方がよいこと」を探すのが家庭の仕事への取り組み方として大切だと思う。
- ・資質・能力の「未来像を予測して計画を立てる力」について、低学年なので自分に振る舞いで近い将来にどんな影響があるかを考えることで十分ではないか。たとえば、「今日わたしがこのお仕事を手伝ったら、あしたお母さんがよろこぶかな」「こうやって洗濯物をたためば取り出すときに取りやすいかな」など。そういう思考の積み重ねが、発達段階の成長に伴ってより先に表れる影響を考えることができるようになると思う。
- ・関連するSDGsとして、家庭から地域へ広がっていくという点から11番「住み続けられるまちづくり」も関わるのではないかな。

【ルーム4】担当：加藤久雄

(1) 奈良市立伏見小学校 教諭 梁川千尋先生

総合的な学習の時間「災害に強いまちづくり」

- ・すでに実践を進めている。(①～⑨)まで
- ・修学旅行で姫路方面に行くことになったので地震災害について現地学習を行った。授業参観では、修学旅行に向けた事前学習を発表した。
- ⑤⑥については実際には行うことができなかった。

○意見・感想等

- ・避難所運営ゲームHUGについて

体験したことがある参加者から、宮城の小学校の視察で、HUGを体験後に小学校の備蓄品を見学するという実践を紹介があった。災害時に子どもたちが避難所の運営を担う可能性があること、卒業後に学校の備蓄品のことが記憶に残って、未来に向けての備えにつながるのではないかという意図で行われていたと紹介された。

- ・授業最後の提案について

どのような形で提案するつもりなのかという質問に対して、行政や地域に対して何かしらの提案ができたかと考えているようだが、実際には悩んでいるとのこと。質問者からは、身近にできることと行政等へ提案できることの2つの方向性があるので、両方が伝えられたら良いのではという提案があった。加藤先生から、大牟田の「子ども民生委員」の事例の紹介があり、具体的な行動化につながると良いとの助言があった。また、学校が避難所となるのであれば、現状で学校が避難所になることを想定した上で、改めて学校内の状態を確認し、それを児童たちが整理し、その視点を持った上で、児童それぞれの家の防災について確認して提出させるなどするのも良いのではと提案があった。東日本大震災後に学校が避難所として活用されていた状況を考えると、学校を避難所であることを基本として考えておくことが大事ではないかという意見もあった。

- ・児童の行動変容について

授業を通じて、子どもにどのような変容が見られたか。という質問に対しては、過去の震災について調べて発表したのち、現地学習で当事者の方の話を聞いて心打たれる様子が見られ、児童からも防災について学びたいという感想が出ていたが、その後、一旦平和学習が入ってしまい、防災の学習がうまくつながっていない。

(2) 曽爾村立曽爾小中学校 教諭 小谷太一郎先生

中学校3年生 国語

全体(16時間):以下概要

- 1.自分自身と地域のつながりを感じるため、曽爾の良いと思うところを課題に作文を書く。
- 2.地域の魅力について、行政の発行しているパンフレット等を参考に再度整理する。
- 3.実際に地域をよくするために活動している方々の話を聞く
- 4.他地域の地域活性化の取り組みを調べて批評文を書く
- 5.地域に対して自分達でできることについて意見交換を行う
- 6.実際にできることに取り組んでみる

※1～4まで実践済み

○意見・感想等

・生徒数や高校進学後の状況について

人数は10人。進路はバラバラで曽爾村に残るのは少数。全寮制の高校や引っ越しする。曽爾から離れてしまうがゆえに、曽爾を改めて知ってもらうことをテーマに授業を考えたとのこと。

・生徒が書いた批評文

教科書の批評文に関する学習ののち、生徒が書いた批評文を共有した。批評文をその後の「曽爾村をどうしたいのか？」という話し合いの素材となればと思い、書かせた面はあったものの実際には生徒の関心事について調べた部分が強かった。ただし、授業では取り扱っていなかったが、ほとんどの生徒が感想としてSDGsと関連付けて批評文を書いていたとのこと。

・活動している人たちとの出会いと生徒のモチベーションについて

生徒たちが「曽爾村のために何かしたい」というモチベーションがあるか？という点については、なかなか難しいというのが現状である。生徒が地域の課題について自分ごと化しているとは言い難い。地域の課題を生徒たちに直面させるのがなかなか難しいと感じたため、地域で活動している方々の話を聞く機会を作った。生徒たちはこれまでも、その方々の活動に参加する経験などはあったが、今回は「なぜ、その活動をおこなっているかを初めて知った」という声があった。

その出会いから、最終的にどのような行動化につながるかが楽しみであるという声があった。

・国語科としてESDに取り組むこと

地域のことについて自分で批評文や思いを文章化することで、自分ごと化が進み、行動変容にもつながるのではないかという意見があった。国語という単元を活用してうまくESDを進めているのではないかという意見があった。一方で、授業を通じて色々なことに取り組むと評価の面など非常に難しくなるケースもあるので、ある程度身につけさせたい力を絞ると授業が進めやすくなるのではないかという助言もあった。

・へき地教育と地域の学びについて

地域について学ぶことが、中学校で終わってしまう。私立であれば小学校で地域の学びが終わるので、地域のことを知らずに育っていつてしまう。高校へ行く前に地域について学ぶのであれば、卒業式などで、曽爾の良いところを発表する機会を設けるなどすれば良いのではないかという意見もあった。また、地域に住んでいる高齢者の方々の話を録音して文章化する「聞き書き」についても提案があった。

第10回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2023年1月19日(木) 19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	36名
◇内容	学習指導案の相互検討③

【ルーム1】担当：大西浩明

(1) 木下結等さん：教育学専修3回生

小学校5年 社会科『海なし県の海善プロジェクト！～海なし県でも海を救える?!～』
現在の寿司の写真を見せて100年後の寿司を予想 ほとんどない！

「なぜ、100年後の寿司ネタがほとんどないのだろう？」

海洋ごみやプラスチックなど、海には様々な問題がある

→ 海を守るためにできること？ 「本当にそれでいいのか？」

和歌山への校外学習「海と日本 project」の方々のお話を聞いたり、一緒に活動したりする

→ 本当にできることは、近くの川でできる

〈意見交流〉

- ・「本当にそれでいいのか？」という問いがいい。よりクリティカルな思考が生まれる。
- ・佐保川清掃などのイベントに参加したり、そこで発信したりすると効果的。
- ・海と川のつながりだけでなく、そこに山も入ればよりつながりがはっきりとする。

5年生のこの単元で「森林のはたらき」があるので、十分可能。

(2) 福西隆生さん：英語教育専修3回生

高校2年 総合的な探究の時間(英語)「物語を世界と未来につなぐ」

昔話や童話など、だれもが知っているような物語の1シーンを翻訳させる

翻訳アプリでは出せない、自分らしい言い回しがそれぞれできたらおもしろい。

この授業のテーマは文化の継承なので、最後にアイヌの継承活動について学習したい。

〈意見交流〉

- ・どのように翻訳するか、一文でいいので例を出してみてもどうか。
- ・翻訳と聞くと難しい印象だが、自分なりの表現を考えるのは楽しいと思う。
- ・取り上げるお話を絞った方がいい。コンテンツの中身によって、すごく簡単だったりしてしまうこともあるのでは。
- ・映画の字幕の日本語訳と吹き替えの日本語とでは、同じセリフなのに日本語になると違ったりする。
- ・アイヌの事例が唐突なので、あいだにもう1時間、「文化の継承」について一つのテーマで話し合う必要があると思う。

(3) 加藤尋和先生：奈良市立興東小学校

小学校6年 総合的な学習の時間「柳生の文化財の魅力を発信しよう！」

円成寺は素晴らしい寺なのに、子どもにとっては当たり前すぎてその価値に気づいていない。

円成寺の建物の修復費用のうち、800 万円をクラウドファンディングで集めた。

見学や住職さんからの聞き取りから、円成寺の魅力をたくさん見つける。

→ リーフレット作成 円成寺や観光案内書などに置いてもらう。

〈意見交流〉

- ・導入で子どものモチベーションになるような驚きのあるものが必要ではないか。

大日如来は、金剛力士像をつくった運慶の作品。

円成寺には、戦争中東大寺三月堂の仏像が疎開していた（世界のたからものを守った） など。

- ・リーフレットがどんどん広がっていくのは子どものやる気につながる

外国語バージョンもつくれるといい。

- ・なぜ守られてきたのか、人の営みや思いに気づかせたい。

クラウドファンディングした人は、なぜ柳生の人でもないのに協力するのか。

外から円成寺を見た人の気持ちに触れさせたい。

（４）後川りのさん：音楽教育専修３回生

小学校４年 社会科・総合「文化財や年中行事を自分たちで残していこう」

奈良市の子どものもので、やはり「おん祭」を取り上げたい。

自分もそうだったが、行列を少し見てあとは出店しか行っていない。

→ おん祭の内容を調べる → 長く続いてきているわけを考える

もっと広めたいという思い ポスター作成

〈意見交流〉

- ・ポスターにこだわらなくてもいいのでは。ロイロでまとめて配信するという方法も今ならある。

- ・おん祭について「調べたい」「伝えたい」という動機づけになるような導入にしたい

おん祭には毎年行くのに、何も知らないということを実感させる

- ・音楽専修の強みを生かして、雅楽や舞楽にスポットを当ててみてはどうか。

おん祭は伝統芸能の宝庫でもある。 笙(しょう)や箏(ひちりき)など実際に体験する活動

南都楽所の方に来てもらったことがある（大安寺西小学校）。

【ルーム２】担当：中澤静男

（１）森恵里奈さん：音楽教育専修３回生

小学校６年 音楽科「地車（だんじり）囃子」

３００年間にわたって受け継がれている岸和田の地車祭りに地車で演奏される「地車囃子」を。主にリズムに着目させながら鑑賞する。囃子には現在主流となっている「均等打ち」の他に「並あし打ち」もあることに気づくことから学習が始まる。地車会館を訪問し、インタビュー調査などを行うことで、３００年間受け継がれてきた「並あし打ち」ができる人が少なくなっている事実から、受け継ぐことについて考えさせる。

（意見交流）

- ・かねの音が聞こえだすと、わくわくする。原風景を形作っている。

- ・地域アイデンティティを形成する要素となっている。

- ・並あし打ちから均等打ちにかわっているということは、並あし打ちの前にも他の打ち方があったかもしれない。変化しないのがよいのか、変化を受け入れるのがよいのか。

- ・打ち方ひとつにも多様性があることに気づかせることができる。
- ・地車囃子自体がいろいろな楽器によって形作られていることから、①以前は、並あし打ち同様、他の演奏のし方もあったのでは、②他の楽器も使われていたのではなど、学びを広げることができる。
- ・他の地域の祭り囃子への関心を高めることができる。

(2) 宇和谷紗恵さん：家庭科教育専修3回生

中学2年 総合的な学習の時間「大和野菜をみんなで美味しく食べよう！」

・生徒の実態

食に関する興味関心が薄れている。

「こ食(孤食・固食・個食・子食・小食・戸食・粉食・濃食・虚食)」が増加している

・方策

地産地消や大和野菜について学ぶことを通して、食への関心を高め、素材本来のおいしさに気づくことができるようにしたい。

(意見交流)

- ・給食の「大和郡山市の日」という共通体験を取り上げ、地産地消に関する意識化ができています。
- ・大和丸ナス、筒井レンコンの生産者にインタビューすることで、生産者にとっての豊かさにふれることができています。
- ・レシピを考える、調理するという体験的な学びを通して、教材と生徒の距離を近くしています。
- ・給食センターの方からの講評。
- ・食料について考える際の視点には3つある。生産者としての豊かさ、消費者としての豊かさ、地球にとっての豊かさである。今回の場合、調理者にとっての豊かさにもせまることができています。

(3) 長浜佐知子先生：奈良市立都跡小学校

小学3年 総合的な学習の時間「みあとの祭りカレンダーをつくろう」

- ・総合的な学習の時間の学習であることから、児童が自ら探究的な見方・考え方を働かせ、課題を解決し、自己の生き方を考えて行くための資質・能力を育成することを第一義として単元を計画する。
- ・カリキュラムマネジメントについて

学校の教育目標

「自らの学びを深め、他者と協働して未来を切り拓き、たくましく生き抜く子どもの育成」

3年生の総合的な学習の時間「都跡のたからを伝えよう」(40時間)

1学期：「町のやさしさを見つけよう」・SDGs 3番と11番に関連して

2学期・3学期：「都跡のたからをみつけよう」「未来に残そう。都跡の宝物」・12番と11番

・児童の現状

コロナ禍の影響を受け地域行事が減り、祭りやイベントなどの経験を持たず、地域のつながりを感じられない児童が多くなってきている。

平城宮跡のお祭りには行ったことがあるが、地元のお祭りに参加したことがある児童が少なく、うっすらとコロナ前の記憶が残っている程度で、児童と地域のかかわりが減っている。

・総合的な学習の時間に係るカリキュラムマネジメント



・6年間の ESD の学びを通して、学校教育目標に示された子どもの育成を目指している。

・第3学年では「自分の生活と文化の継承がつながっていることを考えられる子ども」の育成を目指す。

・都跡小校区にある祭りの分析

1) 神社・寺の祭り 氏子、檀家のための祭り：

閉鎖的な祭り。伝統を守り、地域の文化・誇りを守る。

2) 神社・寺の祭り 観光客や小学生にも開かれた祭り：

文化や独自性を感じ、つながりを感じる。

3) 地域の祭り 地域の住民のための祭り：

自治連合会を中心に。地域振興。住民のつながり・地域文化の継承

4) 学校と地域の祭り 子供たちのための祭り：

学校は場を提供する。子どもたちが楽しむ。各種団体は活動資金を得る。様々な成人モデルや身近なあこがれを感じることができる。

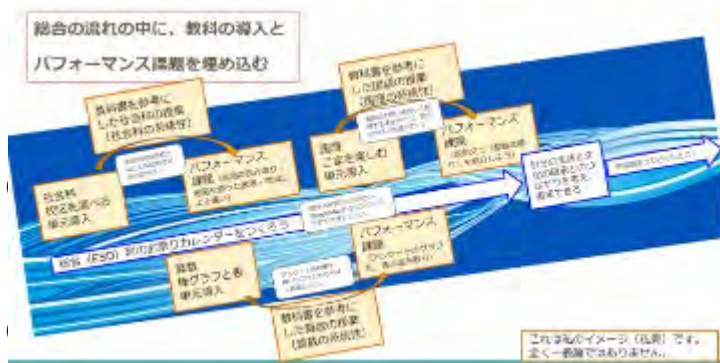
・学習の展開

事前に行ったアンケートから担当を決め、各自がグループマップに調べたことを記入する。

ふれあい会館で高齢者にインタビューして教わったことをグループマップ上に追記する。

各自がグループマップ上に作成したレイヤーを重ねて完成させる。

・評価について



1. 子どもたちに学ぶ必然性が生まれる。
2. 生活から学習を始めて、生活に戻ってさらに発展できる。
3. 教科固有性や系統性も担保できる。
4. ごっこ遊びのパフォーマンス課題にならない。
5. 地域教材なので、地域の方を巻き込んで、自動的に社会に開かれた教育課程になっていく。

【ルーム3】担当：中澤哲也

(1) 松岡花さん：音楽教育専修3回生

小学校3年 音楽科「茶つみのリズムを味わおう」

手摘みと機械摘みのおいしさのちがい

総合と絡んでくると幅が広がりすぎる

歌詞から、言葉を深めていく→文化、情景、風景を感じながら歌う

お茶嫌いな子が増えている子への配慮はある

実際にお茶を飲むのはおもしろい

音楽→活動→音楽のサンドイッチがいい

まずは自分で調べることで出てきた疑問→お茶農家さんに聞くことでより主体的になる
ゲストに会ってからお茶を飲むとおいしく感じる

(2) 北野結衣さん：社会科教育専修3回生

小学校4年 社会科「高知の水害から身を守るために」

大雨で外に出られない場合にどうするか

警報の発令前と発令時に分ける 高知の降水量は多い

自分以外の人になんと声掛けをするかを考えるではちょっと弱い

危機感の薄さは感じにくいのでは？ 何か危機感を感じる資料は？

これまで危機感を感じてなかったものが危機感を感じられる実践にしたい

もっと地元だからできるひろげ方をすればいいのでは？ 地元に合った教材がいい！

どんな行動ができる児童になってほしい？

正直なんとかなると考えている児童が多いのをなんとかしたい。

実際に声をかけて助かった経験があるかどうか

公助はだめと考えないようにしたい

高知豪雨の反省を生かした公助がたくさん→単元の入り口に使える

(3) 川口綾菜さん：英語教育専修3回生

中学校2年 総合的な学習の時間「外国人に優しいまちづくり」

木津川市を舞台に

外国人へのフォーカスの当て方

川口さんがスーパーのレジのアルバイトから見えてきた外国人への課題

→レジ袋がいるかどうか

→どこに何があるかわからない

『木津川やさCプロジェクト』→優しく・住みやすい・コミュニティ

ネーミングがいいね！ 学校内でも利用できる！

外国語に翻訳でなく、やさしい日本語に直す

ALTの先生に伝えることを目標に→生徒が目的意識をもてる

もっと自分ごとにして考えられるのでは？

外国人側だけでなく、日本人も困ることもあるのでは？

お互いがWINWINな関係→してあげることで、こちらも助かるような取り組み

国際理解をもっと掘り下げて、外国人の文化をもっと理解できる時間を入れてみては

ALTのもつ困難は人との関りと社会との関りによってひろげ方は違ってくるのでは

【ルーム4】担当：中村友弥

(1) 前田桃花さん：英語教育専修3回生

高校1年 英語「Short trip to Nara」

実際に高校で授業を行った内容をESDで見つめ直した指導案。ご自身のガイドの経験を活かし、英語でガイドすることを想定し、東大寺や興福寺を説明する活動。

→奈良の文化財を大切にしてほしいと願う先生の想いが素晴らしい。

→ローマは1日してならず ぜひこのような授業の積み重ねを。

→ESD だから世界遺産を題材にしたではなく、英語だからこの題材が良いのではという視点で授業を組み立てられるようになるとよい。

(2) 藤本尋巳さん：音楽教育専修3回生

小学校6年 総合的な学習の時間 「われは海の子 ～海からのSOS～」

海の環境問題について、奈良県の私たちは海がないから関係ないではなく、水は循環していることやつながっていることを実感し、環境問題を真剣に考えてほしいという思いで考えた指導案。

→われは海の子の歌詞が素晴らしい。素晴らしいので、より歌詞に注目し、他の海を題材とした曲を取り上げて、現在の海の環境問題へつなげていくのはどうだろうか。

→海の環境問題の発信や表現は、様々な方法にチャレンジするのもおもしろい。随筆や絵など

(3) 梅原彩華さん：音楽教育専修3回生

小学校3年 総合的な学習の時間「茶つみ」

地元である宇治で授業することを想定して、宇治茶を題材にした指導案。宇治茶の伝統や歴史、茶に関する体験活動を通じて、文化を大切に想う心を育みたい。

→総合の授業の計画の仕方として、探究活動を意識して取り組む。課題 整理・分析 発信、まとめなど。

→「宇治茶は本当に受け継がなければならないのか。」と逆説的に考えてみるのもよい。

実際に児童に質問されたときにも必ず役に立つ。

【ルーム5】担当：加藤久雄

(1) 木村直希さん：心理学専修3回生

小学校6年 総合的な学習の時間「佐保川について知ろう、考えよう、伝えよう」

概要：(出身小学校を想定した指導案) 身近な川である佐保川を題材に、佐保川の歴史的背景や人々が守り続けてきた河の景観に注目し、これからも佐保川を守り続けていくための利用のマナー等について考える。

○意見・感想等

- ・フィールドワークなどで児童から疑問を引き出すのは難しいので、ワークシートを活用してはどうか。
- ・指導案の中では教員が川路桜について解説するとあったが、フィールドワークの中でも目につく樹なのであれば、子供たちから出てくるのではないかな。
- ・フィールドワークの際に地図を使うとあったが、児童はタブレットを持っているので、それを持って写真を撮るなどした方が、その視点が記録されるため、フィールドワーク後の振り返りにも活用しやすいのではないかな。
- ・内容的に歴史から利用のマナーまで幅広だが、テーマを絞らずにやるのであれば、その軸をしっかり持って作った方がよい。
- ・佐保川は色々な実践があると思うが、歴史的な視点は少ない。川路聖謨の想いに絞っての展開も考えられるのではないかな。
- ・どのような展開にするかについて、軸となる単元の目標を練り込んでおくことでブレなく進められるので

はないか。

(2) 西田有佳里さん：特別支援教育専修3回生

小学校5年 総合的な学習の時間

「心も体もユニバーサルデザイン ～みんなにとって過ごしやすい空間づくり」

概要：障害のある・なしに関わらず暮らしやすいインクルーシブな社会を作るためにどんなことができるかを、体験やゲストティーチャーの話から、気づいたことを踏まえてイベントの実践などに取り組むことを通じて学ぶ。

○意見・感想等

・インクルーシブな社会を作るための考え方

（指導教諭より）インクルーシブな社会を作る際に最初はハードなものから考えると思うが、本当は人と人の心の距離なのではないかと思っている。そういったことから、冒頭に「障害」を全面に出さずに遊びのような体験から、バリアについて気づいたり、障害を持った方との交流を通じて相手のことを考えたりするといった相互性などを学べるようなれればと思っている。

・冒頭で色々な障害を体験したり、調べ学習から、障害を持っている方が困っていることを予想したりする流れがあるが、いろいろな障害を対象とすると児童が調べることが幅広くなりすぎて混乱するのではないか。

・障がい者も含めた「みんなが過ごしやすい空間」だと、なかなか難しいので、クラスなど身近な範囲で「みんなが過ごしやすい空間」から考えていくと広げて行きやすいのではないか。

・学校で行うイベントではハードの対策が中心となってしまう可能性があると感じたが、「心の距離」についてはどのように気づきを与えるのか。

・障害当事者からの話を聞く中で、バリアフリーを作れば良いかと思った。

・ゲストティーチャーに来てもらった際に心のバリアに気づかせるのがポイントかと思うので、指導案の「指導上の留意点」の部分にゲストティーチャーとの交流を通じて「心のバリアに気づかせる」という点を記載することで、「過ごしやすい空間ってなんだろう」という問いへ持っていくと、児童の思考が見えてくる。「過ごしやすい空間」についても物理的な空間と心理的な空間の2つの視点で考えてもらってから、イベントに取り組むことで整理しやすくなるのでは。

→正解が一つしかないのではなく、いくつもある答えの一つとなれば良いと思っている。それが今後色々なことに繋がれば良いと考えている。

(3) 中家麻弥さん：教育学専修3回生

小学校5年 総合的な学習の時間「災害から自分たちの命を守るためにできること」

概要：出身校（三重県津市立栗葉小学校）での実践を想定。自分たちの地域での過去の災害について調べたり、防災の取り組みを行っている他地域の学校との交流を通じて、自らの地域の防災意識を高め、防災への取り組みを自分ごと化する。

○意見・感想等

・（指導教諭より）自分の出身校ということで具体性がある良い。子どもの考えを具体的に予想することが必要であるといった話をしている。

・奈良県に住んでいると海とのつながりがないため、あまり気づかない視点。他地域との交流では、海なし県とやるのも良いのではと思った。災害にいつ会うかわからないため、色々な想定ができると良

い。

- ・授業の中でハザードマップを使うなら、ハザードマップだけではわからない危険な場所などを児童の目線で作っていくのも良いのではないかな。
- ・もっと調べても良い（例：伊勢湾台風）想定以上の広域な被害がある場合もあるため、一つの災害が及ぼしたさまざまな影響を知ることによって交流も考えられる。
- ・交流する場合、相手の学校にどんなメリットがあるかをしっかりと相談する必要があるため、その視点も入れ込んだ方が良いでしょう。また、ゲストティーチャーに依頼する場合は、どんな話をどこまでしてもらいたいかを明確にしておく必要がある。

第11回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇実施日時	2023年2月9日(木) 19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン開催
◇参加者数	24名
◇内容	学習指導案の相互検討④

(1) 奈良教育大学附属中学校：長友紀子先生

中学校2年 美術科「陶硯をつくる 墨を磨る 墨で描く」

自作のにぎり墨と陶硯と使って墨画を描く表現分野の実践

①「握り墨づくり」、②「陶硯制作」、③「墨画制作」の3つの段階

①は1年生の総合で実施済み(全員が墨を持っている) 使わせたい

②陶硯製作では、陶土による造形の面白さ、釉薬の発色などの焼き物の魅力を感じさせたい

③墨の濃淡に見られる色味の美しさを感じさせたい

制作に使用する道具を自分で作ることで、作品を作り出す根源的な面白さを感じられるように

意識的に行動しない限り、自分たちが使っているものを作っている人と接することができない

自分たちが手にしている様々なものは、そこには多くの人や資源が関わっていること実感させたい

墨や硯は奈良の歴史や文化に根差したものは、その背景とともに理解することで自分事化しやすい

墨汁を使い慣れた生徒にとって、墨を磨るという体験を大事にしたい

墨と硯があたる感覚 香料の独特の香り 徐々に表れる墨の色味や艶 光沢の美しさ

五感に働きかけて心を豊かにさせられる

「奈良めぐり」を振り返り、感じたことや考えたことをアイデアスケッチする

→ 絵手紙にする

鑑賞し合う

【意見交流】

- ・硯なんて作れるというのが驚き

美術でESDというのが新鮮

制作物が残っていくというのはいい

- ・ESDの価値観や行動の変容はあったか？

→ 何をもって行動変容と捉えるか、とても難しい

今すぐに表れるものではない

特に、美術などは自己の内面と向き合うもの じわじわと心の中で醸成されるものだと思う

人は五感を通して物を認知している

様々な学びや経験が蓄積されていき、あるとき何かの拍子に脳が意識するのは

- ・表現することはとても重要 授業は教師にとっての表現
- ・1年と2年という総合でのつながり、総合と美術とのつながり

まさにカリキュラムマネジメント

教師が幅広い目で学び全体を意識しておくことがとても重要

(2) 熊本県立菊池高等学校：猿渡瑠里先生

高校1年 商業科ビジネス基礎「身近な地域のビジネス」

都市部以外の地域では、向き合うべき大きな課題として人口減少と少子高齢化が挙げられる

「菊高ジャック」(学園祭) イベントの内容

①スクール婚活

②キクザニア

③菊高ショッピング

それぞれ担当し、ビジネスに必要な見方・考え方の醸成を図るために、市場分析を行わせる。

それぞれのターゲティングが正しかったかを当日の売上(売れ残りや完売商品)などから考えさせる
どのような目的で来場されたのか、当日のお客様アンケートから考えさせる

分析・整理することで、次年度の販売店舗の候補選びの検討材料に

告知期間、告知範囲について3年生の意見をもとに次年度どのように準備すればよいかを考えさせる

市場分析の結果をもとに自他の意見をまとめ、グループとして次年度の販売商品の選定やスクール婚活
やキクザニアなどのイベント企画の内容などについて考える

菊高ジャックが地域社会に及ぼす影響を考える

→ 商業が果たす役割や意義を含んだ視点から地域課題解決と結び付けて考える

まとめたものを発表

→ 菊池市役所職員に生徒たちの地域課題解決学習のまとめや今後の展望について情報共有する

【意見交流】

・ こういう取組の発想はどこから？

→ スクール婚活…少子高齢化という課題は、出会いの場がないから

キクザニア…地域に子どもたちが学べる場所がない

クリエイティブな生徒の発想を実現させる教師の働きがすごい！

・ 課題発見までのプロセスは？

→ 「菊池市にずっと住みたい？ それとも住みたくない？」「住みたくないのはなぜ？」

「〇〇がないから」

「じゃ、あったらいい？」

・ スクール婚活は、これまで実際に結婚された方もいる 今年も2組カップル成立

参加人数が減っている → 増やすために行政と相談して、特典を考えるとかな

・ 「働く」という形での学び 高校における ESD

地域の課題解決に向けて、実際に生徒が社会に働きかけている

マーケティング、ターゲティングなどの市場調査を実施し、データをもとに行動を考えている

令和4年度 近畿ESDコンソーシアム・奈良県立万葉文化館
「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 開催要項

1. 目的

ESDを指導できる教員の資質・能力の向上には、継続的な研修を実施する必要がある。近畿ESDコンソーシアム活動の一環として、奈良県立万葉文化館と連携し、「万葉集・明日香村」を中心とした国語科・社会科や総合的な学習の時間等での授業づくりを中心とした連続セミナーを開催する。研究員による万葉集の内容や時代背景等に関する情報提供、大学教員等による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員および学生が指導案を作成し、授業実践を行うことで、教員としての資質・能力の向上を目的とする。

2. 主催 奈良教育大学・近畿ESDコンソーシアム

3. 協力 奈良県立万葉文化館

4. 会場 奈良県立万葉文化館

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催とする場合もあり

5. 実施日

- ①令和4年 5月28日(土) 近隣のフィールドワーク
- ②令和4年 7月16日(土) 万葉集についての話題提供、館内見学
- ③令和4年10月29日(土) 単元構想案の検討
- ④令和4年11月26日(土) 単元指導案の検討
- ⑤令和5年 1月28日(土) 学習指導案の検討

※ いずれも10時～12時

6. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等
奈良教育大学の学部生・大学院生・教職大学院生
奈良万葉文化館 指導研究員 井上さやか氏
奈良万葉文化館 主任研究員 阪口由佳氏 ほか研究員
奈良教育大学 教授 中澤静男
奈良教育大学 特任教授 加藤久雄
奈良教育大学 特任准教授 米田猛
奈良教育大学 特任准教授 大西浩明

第1回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2022 年 5 月 28 日 (土) 10:00~12:00
◇場 所 県立万葉文化館周辺
◇参加者 【学生】東、大竹、福西、後川、田中、三宅、山下、飯田
【現職教員】村上 (平城小)
【万葉文化館】竹内、井上、阪口
【大学教員】加藤、及川、米田、大西 計 16 名

- ◇内 容 明日香村内のフィールドワーク 「遺構の保存と活用について」
飛鳥京跡苑池 → 飛鳥宮跡 → 川原寺跡

昨年に引き続き、竹内主任研究員に案内いただき、飛鳥京跡の保存と活用について、特に授業で扱う際のヒントも交えて説明していただいた。

1. 飛鳥京跡苑池

苑池は 7 世紀中ごろ、斉明天皇の時代に造営が始まり、のちの天武天皇の時代 (7 世紀後半以降) に大幅に改修されたと考えられている。当時の天皇の皇居・飛鳥宮跡の北西に隣接。南北約 280 メートル、東西約 100 メートルの範囲に、庭園の中心となる北池 (南北約 52 メートル、東西約 36 メートル) と南池 (南北約 53 メートル、東西約 63 メートル)、水路や建物などがあったとみられる。



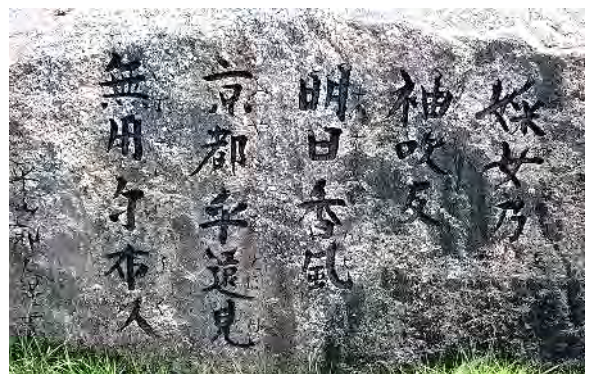
1916 年に発見された石造物の模型

万葉集には、苑池で詠われたと思われるものはないが、同様に東アジアとの関わりで万葉集を捉えてみると発想が広がる。東アジアより伝わった漢字で表現された万葉集であることもそうだし、歌集を作るという発想自体が当時の日本にはなかった。



苑池休憩舎より苑池をのぞむ

20 年にわたる発掘調査から、北池には水が湧き出ようになっていたことが分かり、あふれた水を飛鳥川へ流す水路も見つかった。南池が鑑賞や儀式に使われたのに対し、北池は流水施設という祈りの場であったと考えられる。この苑池と同じような構造をもつ庭園は日本国内にはなく、新羅とのつながりが強く感じられる。東アジアとの関わりという視点で授業展開を考えた方が、よりダイナミックな授業になるのではないか。



「采女の 袖吹きかへす 明日香風
都を遠み いたづらに吹く 〈志貴皇子〉」

2. 飛鳥京跡



飛鳥宮跡にて

これまで「伝飛鳥板蓋宮跡」として史跡に指定されていたが、これまでの調査・研究によって、舒明天皇の飛鳥岡本宮、皇極天皇の飛鳥板蓋宮、齊明天皇・天智天皇の後飛鳥岡本宮、天武天皇・持統天皇の飛鳥浄御原宮が重層的に営まれた遺構が確認されており、2016年に史跡の追加指定とともに、「飛鳥宮跡」に名称変更された。

奈良県による基本構想では、遺構保存と景観保持を両立させつつ、飛鳥宮の最初の宮である飛鳥岡本宮造営1400年にあたる2030年には一部の建物を復元し、飛鳥京跡を活用する計画である。

3. 川原寺跡

東西の長さは150m以上（今までの発掘調査でわかっている限り）南北に330mというとても広く広い敷地の中に、東塔ひとつとふたつの金堂、境内側に扉を持たずに解放された僧房が北東西の三方から囲むという、一塔二金堂式（川原寺式とも称される非常に珍しい）伽藍を持つ寺。寺の前には、発掘により判明した遺構に、礎石のレプリカを置いている。乗ってみるとボコボコ音がした。

道を挟んだ橘寺と比較したとき、川原寺は南向きに建てられているのに対し、橘寺は西向きに建てられている。南向きは中国の影響を受けたと考えられるが、創建年代による建て方の違いなども授業として扱えば面白いかもしれない。



川原寺跡にて

【まとめ】

日本の建造物は、欧米の石造りとは違い木造のため、どうしても残らない。そのため遺構を発掘して、その上にあった建造物の様子のある程度思い描くことも致し方ない。ただ、これまで明日香の様々な石造物は「よく分からないもの」として扱われてきたが、この20年ほどの学術的な研究によって、「いつの時代の」「何の目的で」つくられたものかが分かりつつある。単なる「古代のロマン」として見るのではなく、科学的な見方で見ることにより授業展開の幅が広がるのではないかなと思う。

※次回は7月16日（土）10時～ 万葉集に関する話題提供

第2回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2022 年 7 月 16 日（土）10：00～12：00
◇場 所 県立万葉文化館
◇参加者 【現職教員】村上（平城小）
【万葉文化館】井上、阪口、竹内
【大学教員】加藤、及川、米田、中澤、大西 計 9 名

- ◇内 容 話題提供 「『万葉集』と明日香」 一万葉集の基礎知識—
井上さやか氏

采女の 袖吹きかへす 明日香風 都を遠み いたづらに吹く
(志貴皇子)

飛鳥浄御原宮から藤原京に都が遷ったあとに詠まれた歌

「都を遠み」と言うものの、飛鳥宮と藤原京は距離的にはとても近い

→ 新たな社会への仕組みの変化による心理的な遠さを詠ったか

「飛鳥」と「明日香」

「飛ぶ鳥」は褒め言葉…鳥がたくさん飛んでいる、虫や魚などの餌が
豊富、動物が栄える豊かな国

生物多様性 陸の豊かさ → SDGs の 15 と重なる



わが里に 大雪降り 大原の 古りにし里に 落らまくは後 (天武天皇)

「わが飛鳥の里には大雪が降っている。お前のいる大原の古びた里に降るのはもっとあとだろうね。」

わが岡の おかみに言ひて 落らしめし 雪のくだけし そこに散りけむ (藤原夫人)

「そうではありません。この里の龍神に言いつけて降らせた雪のかけらがそちらにちらついたので。」

雪が降るのは吉兆のしるし 雪が降った喜びを即座に分かち合う夫婦の仲睦まじさ

特に正月の雪は豊作をもたらす瑞祥とされた

「夫人」は、「ぶにん」と読む 皇后や妃の下に位置する天皇の妻

当時は一夫多妻制で通い婚

島の宮 上の池なる 放ち鳥 荒びな行きそ 君いまさずとも (作者未詳)

草壁皇子が亡くなったときに、側に仕えた舎人が詠んだ歌

二十三種ある「挽歌」のうちの一首

島の宮…島庄遺跡にあったと考えられる、もとは蘇我馬子の邸宅

立派な庭園にある人工池の中にある島 馬子は「島の大臣（おとど）」

紫は 灰指すものそ 海石榴市の 八十のちまたに 逢へる見や誰 (作者未詳)

たらちねの 母が呼ぶ名を 申さめど 路行く人を 誰と知りてか (作者未詳)

「歌垣」…男女が思いを伝えあう行事 集団お見合いのようなもの

名前を聞くことがプロポーズ

日本だけでなく、東アジアでも見られる

山の高所、川などの水辺、橋のたもと、市場などで行われていた

「紫は灰指す」…紫は最も高貴な色とされ、美しい紫色を染め出す椿の灰汁に自分をたとえている

「路行く人を誰と知りてか」…行きずりの人にどうして名前を教えてあげられましょう

様々な駆け引き 相手の心をつかむ歌をとっさに詠めるスキル

【万葉集と百人一首】

春過ぎて夏来にけらし 白妙の 衣乾すてふ 天の香具山 (持統天皇)

万葉集の歌であるにもかかわらず、平安時代には訓み方が変わっていた

持統天皇がなぜか平安衣装を着ている

(万葉集)「衣乾したり」衣が乾してある → (新古今和歌集)「衣乾すてふ」衣を乾すという想像

歌の切り方も時代が変われば違ったものに

田子の浦にうち出でてみれば 白妙の 富士の高嶺に行くは降りつつ (山辺赤人)

万葉集では「雪は降りける」 赤人の名前も万葉集では「山部」

その時代にあった詠み方にアレンジしている

平安時代は想像でつくられたものが多い

【作者未詳歌】

4500 首余りある万葉集の約半数は作者未詳歌

古代は、貴族、役人、庶民に至るまでだれもが歌人であった

音声言語を文字として表現する段階があったはず

→ だれがつくったからというのではなく、その歌に価値があるという視点

【その他、意見交流】

万葉日本画を読み札にあしらった「万葉歌留多」(50 種)を以前県内の小学校に配布している

単にかかるたとして遊ぶだけでなく、様々な遊び方ができると思うのでぜひ活用を

壬申の乱を詠った歌はほぼない

災厄はあえて言葉にしない 「言霊」

万葉集の歌からは国際交流の側面が多々見られるのも、ESD としての
の学びができるよい題材

風とか、においや肌感を歌から感じられるのが万葉集

多様な見方で歌を考えられるような授業が展開できればと思う

※次回 10 月 29 日(土) 10 時～ 単元構想の検討



第3回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2022 年 10 月 29 日（土）10：00～12：00
◇場 所 県立万葉文化館
◇参加者 【現職教員】村上（平城小）
【学生】川田（3 回生）、東（2 回生）、田中（1 回生）、飯田（1 回生）
【万葉文化館】阪口、竹内
【大学教員】加藤、及川、米田、大西 計 11 名

◇内 容 単元構想案の検討①

中学校 3 年生国語科「古人の思いを想像し、自分の気づきを未来へつなげよう」

国語教育専修 3 回生 川田大登さん

（目標）

- ・ 歴史的背景などに注意して、万葉集を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
- ・ 和歌を吟味したり検討したりしながら味わい、和歌に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験などと照らし合わせて納得や共感できるか否かなどを考えることができる。
- ・ 進んで万葉集に触れつつ、学習計画に沿って歴史的背景や現代語訳を踏まえて紹介文を書こうとする。

（展開）

「アポロ」（ポルノグラフィティ）を聞き、

「この街がまだジャングルだったころから変わらない」愛の形を探そう。

万葉集の歌（できれば恋愛の歌）を数首取り上げて考えさせる。

→ どの歌がいいか？

さらに、恋の歌だけでなく他の和歌にも触れる。

「なぜ 1300 年を経ても残ってきているのか」

「今の日本語と同じ表記だろうか」

→ 万葉仮名に触れる時間はどこがいいか？

お気に入りの和歌を紹介する文章を書き、万葉集の受け継ぎ手になろう。

歌ごとにまとめて文集として一冊にまとめる。



【意見交流】

- ・ 紹介文を書くだけでは単なる解説になってしまう。実際に歌を作ってみたらどうだろうか。
万葉の歌を現代風に作詩させてみるのも面白いかも。
この学習のゴールは、解説できるようになることではなく、自分の万葉集をつくることにしては。
- ・ 導入の段階で、万葉仮名で書かれた原文を提示して読ませるといいのでは。
どんな時代でも読むための工夫がされていた。注釈書がいろんな時代にある。
なぜ受け継がれてきたのかを考える一つの材料。
- ・ 文字でしか表現されていない万葉集だが、当時は節をつけて歌っていたはず。
だから、万葉集は「歌集」であり、一つ一つは歌であることに気づいてほしい。

- ・1300 年前のものでも、感情移入できて、共感できるから受け継がれてきたはず。

国語では、心情や情景を想像できるようにすることが大切。この学習でもそこを大事にしたい。

人間の人間らしい部分があるから共感できる。

国語でなければ伝えられないことがあるはずで、そこに国語と ESD の接点があるように思う。

- ・歌と映像が一体化されると心に残っていく。その意味でも、最後に歌をつくるだけでなく、映像制作させることもよいのでは。生徒にその方法を選ばせてもいい。

- ・「やまなし」を映像化させて、Instagram にあげどれがいちばんバズるかという取組もある。なぜ、その作品が「映え」るのかを考える。

言語だけで表現させなくても、絵や写真で伝えるという方法もある。

- ・歌に表現された色や空気感を感じるところに、万葉集を味わうよさがあるはず。

PISA 型学力で言われる「読解力」は、言語を読むだけでなく、絵やグラフ、映像などから読み取る総合的読解力である。

- ・1300 年受け継がれてきた万葉集は、それだけで持続性があるということ。それはなぜなのかを考える学びこそ、この授業づくりセミナーで考えたい授業。

- ・文化の継承という観点で言えば、SDGs との関連は 11（まちづくり）も入ってくる。



※ 次回（第 4 回）は 11 月 26 日（土）10 時～

単元構想案の検討②として、学生からの提案とする。

今年度は現職教員による実践はないので、第 5 回は学生 2 名の学習指導案の検討の場とする。

第4回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2022 年 11 月 26 日（土）10：00～12：00
◇場 所 県立万葉文化館
◇参加者 【現職教員】村上（平城小）、平井（桜井中）
【学生】川田（3 回生）、後川（3 回生）、田中（1 回生）
【万葉文化館】井上、阪口
【大学教員】加藤、米田、大西 計 10 名

◇内 容 単元構想案の検討②

中学校 3 年生国語科・音楽科「君待つと 一万葉・古今・新古今」

音楽教育専修 3 回生 後川りのさん

【授業構想】

万葉集・古今和歌集・新古今和歌集の歌が国語の教科書に載っている
それぞれの特徴を調べさせる → その中で最古の万葉集に目を向けさせる
沫雪のほのほのほに降りしけば 奈良の都し思ほゆるかも（大伴旅人）
あをによし奈良の都は咲く花の にほふがごとく今盛りなり（小野老）
「あをによし」って何だろう？ そこから調べたり考えたりさせたい
奈良にまつわる歌が数多くあることに気づき、歌碑を調べさせたい
フィールドワークで歌碑を見つけ、そこに書かれた歌の意味を考える
自分たちでも歌を作ってみて、そこに音もつけさせたい
学習が終わったときに、短歌や万葉集について身近に感じてほしい



【意見交流】

- ・単元名にある「君待つと」は、新井満さんの歌で万葉文化館でも流れている
この歌は導入で使えるかも
文字がない時代に声の文化として始まったのだから、音楽としての万葉集を捉えることから始めてはどうだろうか。
- ・万葉集は歌であると考えたら、この場合国語でというよりは音楽でやった方がいいのではないだろうか
- ・声明（しょうみょう）だって一種の音楽のはず
楽譜におこしてみると何らかの特徴が見えてくる
- ・「あをによし」という枕詞があれば「奈良」が出てくるという面白さも見つけさせたい
- ・音声言語と文字言語を考えたときに、音声がいかにか大事かということが感じられるといい
- ・自分の地域に佐保川が流れているのなら、川べりに多くの歌碑があるはず
子どもにとって知っている地名が出てくると一気に興味がわく それらから調べるとよい
- ・子どもにいかにか興味を持たせるかを考えたら、やはり導入の工夫が必要だろう
いきなり万葉集や古今和歌集と言われたらハードルが高い
→ ドラマ性がある方がよい

- ・歌の背景を知ること、もしそこに曲をつけるなら短調になるか長調になるかという活動ならきっとおもしろい
- ・「ひろげる」段階での歌作りに関して
ゼロベースで歌を作るのは難しい
→ 万葉集の歌をベースにして詩をつける、そして曲をつける
万葉集から一度離れてみてもいい
五音、七音も言葉をできるだけたくさん出させて、それを組み合わせる
誰のために歌を書くのかというところを大事にしたい



この学習は、国語も関連はするが主に音楽で考えていく。

「万葉集を音楽の授業で」というのは面白い試みになるのでは。

※ 次回（第5回）は1月28日（土）10時～ 学生2名の学習指導案の検討

第5回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2023 年 1 月 28 日（土）10：00～12：00
◇場 所 県立万葉文化館
◇参加者 【現職教員】村上（平城小）、平井（桜井中）
【学生】川田（3 回生）、後川（3 回生）、東（2 回生）
【万葉文化館】井上
【大学教員】加藤、米田、大西 計 9 名

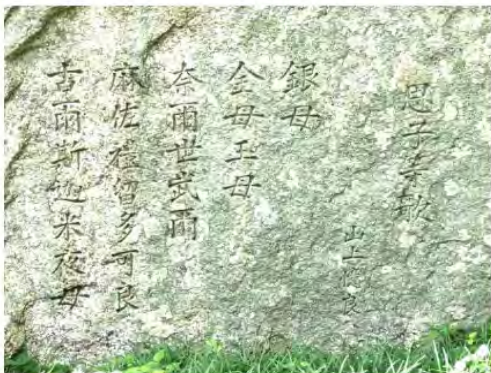
◇内 容 学習指導案の検討

（1）中学校 3 年 国語科「いにしへの歌に仮託して自分の思いを伝えよう」

国語教育専修 川田大登さん

【授業概要】

三木町立三木中学校 3 年生を想定



思子等歌（子等を思う歌）
山上憶良
銀母（しろかねも）
金母玉母（くがねも たまも）
奈爾世武爾（なにせむに）
麻佐禮留多可良（まされるたから）
古爾斯迦米夜母（こにしかめやも）
（銀も金も宝石も何になろうか。
子どもという宝に勝るものはないのだ）

昭和 44 年 3 月、一人の本校卒業生がバス事故に遭い、18 歳で亡くなりました。大学入試を受けるために、たまたま乗車したバスの事故でした。本校に在籍当時吹奏楽部に籍を置き、卒業後も後輩指導によく来てくれていた彼女の訃報に、生徒・職員は深く悲しましました。しかしながら、誰よりも悲しまれたのは、ご両親をはじめ、家族の方々です。「子どもを失う悲しさ、子どもを愛おしく思う親の気持ちを、どうか子どもたちに伝えてほしい」・・・お父様からの強い願いでした。併せて、寄付金をいただき「交通安全祈願の万葉歌碑」とすることになったのです。碑文は、万葉集の中で唯一「子を思う親の歌」と言われる、山上憶良の歌。あえて万葉仮名の表記にして、万葉の時代から変わらぬ親の思いを子どもたちに伝えたいと考えました。石は、墓石を想像させる花崗岩は避けて三木町の山から採石し、文字は当時の妹尾勤一町長にお願いしました。初めは東門北側に設置して、登下校時に目につくようにと配慮しましたが、校舎増築のため、メタセコイアの庭にイチヨウの木と共に移転。行きかう子どもたちを見守るように設置されています。

（三木中学校創立 60 周年記念誌「心はぐくむ緑の校庭一石碑めぐり」より）

生徒は石碑があることを知っていても、何の石碑か知る子どもはほとんどいない。職員も。漢字ばかりなので読もうとする子どももいない。

校庭の万葉歌碑、「子を思う歌」と出会い、和歌には詠まれた背景や思いがあり、三木中の関係者にもその和歌に自分の思いを託した人たちがいることを知る。

→ 万葉仮名を学び、解説する。 現在の漢字かな交じりの表記方法には有限性がある
歌碑が置かれた背景を調べ、設置者がこの和歌に自分の思いを託していたことを知る。

複数の万葉歌をその作品に含まれた思いを考えながら鑑賞する。

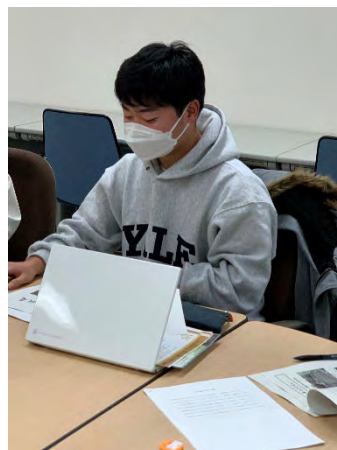
それぞれの歌に込められた作者の思いに迫る

「自分の万葉歌碑を立てよう」

- ・最も自分が共感したり、考えを持ったりした和歌を選ぶ
- ・その歌碑を置きたい場所を探し、写真を撮る
- ・置きたい場所の画像に歌碑を挿入し、万葉歌碑をつくり、自分がその歌碑に託した思いを書く
- ・お互いの歌碑やそれに託された思いを読んで、感想をもつ

【意見交流】

- ・導入は、石碑を見せて「この謎の石碑は何だろう？」からでいい。
- ・わざわざ万葉仮名で書かれているのはなぜなのかを考えさせたい。
看板でもいいのに、なぜ石碑にしたのか、万葉集なのか、そこにある遺族の思いに迫りたい。
- ・思いを理解して自分に落とし込むことで自分事化が図れると思う。
- ・万葉集の歌を子どもが調べる際、どれだけ調べられるかが課題。
→ 指導者があえて絞るのではなく、子どもに選ばせたい
井上先生の本（マンガ）を全員に配って各自がそれを読んで、そこから選ぶといいのでは。
- ・デジタルでバーチャルの歌碑をつくるという発想がいい。
→ だからこそ恋の歌があっていい。中学生でもこういうときはきちんとするものだと思う。
- ・歌碑を立てる場所の風景を写真に撮る…どういう風景にするか、きちんと歌の解釈をしないと。
写真は「映像言語」であり、行間を読むことと同じ。
- ・万葉仮名と歌の解釈は密着しているという研究成果がある。
単にその音を当てはめているのではなく、意味があってその音の漢字を使っている。
- ・学習後に、もう一度この石碑を建てた家族らの思いに戻って考えてほしい。
そのことで、「伝えていかなくては！」という生徒の思いを喚起できるのではないか。



（２）中学校３年 国語科・音楽科「オリジナルの和歌を作ろう～万葉集から想いを馳せて～」

音楽教育専修３回生 後川りのさん

【授業概要】

天台声明とグレゴリア聖歌を聴くことから、日本と西洋の音楽の起源を知り、声以外に音が無いことに注目させる。

→ 「声だけ」という視点から、和歌も同じであること、言葉は文字ではなく音声だということに気づかせる。

新井満さんの和歌を繋げた歌を聴いたり、木下龍也さんの動画を視聴したりすることで、和歌を書く人の思いを感じ取る。

万葉歌碑データベースより各々が気になる和歌を選び、その意味・背景を予想させ、そこからイメージできる音を付ける。

万葉歌碑データベースから気に入った一節を引用し、ペアで上の句・下の句を分けて作る。



完成した和歌を発表し、その和歌を作っていないペアに音を付けてもらう。

【意見交流】

- ・万葉集は歌われていたものというであることを理解できる授業になる。
「かけ言葉」で同じ音を繰り返す歌が結構あるので、そういうものを紹介すると昔は歌われていたことが分かりやすい。
- ・二人で上の句、下の句と分けてやるのではなく、共同で一つの歌をつくる方がいいのでは。
- ・一から歌をつくるのは難しいが、万葉集の一節を使うのはいいと思う。
- ・最初は同じ一つの歌にみんなで音をつけるといいのでは。
→ その心象風景を表す歌や曲を探すというのでもいい。(クラシックでも、J-POP でも)
- ・万葉文化館に、実際に万葉集がどのように歌われていたかという音源があるので活用できる。
- ・音声読み上げソフトなどを使えば、考えた音がデータとして残る。
何もないと分らなくなってしまう可能性があるのでは。
- ・歌の解釈をしっかりとやる必要がある。
→ 短調、長調、リズム、テンポなど、大きく変わってくる。
それを聞き合って、互いに意見を交わすことで学びが深まるのでは。
そう考えると、あまり多くの歌を選ぶのではなく、いくつかにしぼった方がいいのでは。



1. 目的

奈良教育大学を中心とする「近畿ESDコンソーシアム」の活動の一環として、川上村森と水の源流館と「水の恵み」や「森林環境」に着目した授業づくりセミナーに協働的に取り組みます。森と水源流館スタッフによる、自然環境保全の取組や水生生物などに関する情報提、大学教員等による単元デザイン作成に関する助言のもと、現職教員が指導案を作成し、授業実践を行います。これによりESDを指導できる教員としての資質・能力の向上につながる継続的な研修の機会となっています。

2. 主催

近畿ESDコンソーシアム（奈良教育大学内）、森と水の源流館

3. 会場

オンラインによる開催を予定

4. 開催日時と研修内容

- 第1回 令和4年6月25日（土）スタッフの紹介・ネタ提案、ESD理解促進
 - 第2回 令和4年7月 2日（土）優良実践事例の分析
 - 第3回 令和4年7月30日（土）授業構想の相互検討
 - 第4回 令和4年9月 3日（土）学習指導案の相互検討
 - 第5回 令和5年2月11日（土）授業実践報告会：森と水の源流館にて
- ※ 開催時間はいずれの回も10時～12時（オンラインにて開催）

5. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等
奈良教育大学の大学生・大学院生・教職大学院生
森と水の源流館 事務局長 尾上忠大 及びスタッフ
奈良教育大学教授 中澤静男
奈良教育大学准教授 大西浩明
奈良教育大学研究員 杉山拓次 ほか

2022 年度 第 1 回森と水の源流館 授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2022 年 6 月 25 日（土）10 時～12 時
- ◇開催方法 ZOOMによるオンラインセミナー
- ◇参加者 中澤宏太（郡山西中）、新宮・村上・奥戸（平城小）、和田良隆（財務省主税局）、塚本（環境省近畿地方事務所）、加藤（川上村水源地課）、原孝博（奈良学園）、土橋・西祥吾（紀の川市立田中小）、中本篤志（田原本小）、中谷栄作（あやの台小）、島俊彦（吉野小）
- 森と水の源流館：尾上・古山・成瀬・上西・
- 奈良教育大学：東晃太郎・澤井咲樹・杉村若葉（学生）、杉山・大西・中澤
- 計 23 名

◇内容

【尾上事務局長】

源流館の紹介

- ・「地域資源の教材化」にこだわって進めている。テーマは「水の恵み」
- ・川上村は紀ノ川、吉野川の源流域にあたる。
- ・川上村は広いが、その 95%は山林が占めている
- ・人口は、昭和 34 年より人口減少 現在は、1313 人
- ・昭和 34 年にあったのが伊勢湾対分
- ・大滝ダム（発電）と大迫ダム（農業用水）
- ・大迫ダムからの水が吉野川分水にながれている
- ・3 つ目のダム 自然のダム 水源地の森 吉野林業が始まった地域
- ・土倉庄三郎—吉野林業
- ・川上宣言（水源地の村づくり）1996 年～ 川上宣言×SDGs 川上村のライフスタイル
- SDGs 達成へ自分たちができることを考える上で、川上宣言は参考になる。
- ・現実的な問題 バーベキューにともなうゴミの散乱
- 「しないでください」①火気の使用、②ゴミの放置、③水を汚す行為
- ・源流館 20 周年 館内展示のリニューアル
- 森と水の源流館の入り口に記された「川上宣言」
- フルボ酸鉄 「落ち葉から海へプレゼント」
- 発問を重視した展示 「ありがとう」って、だれからだれに伝える言葉？ 「おかげ」
- 私にできることって何だろう？

【成瀬さん】

- ・宮の平遺跡 発掘調査「源流の社：丹生川上神社上社」 水の神様
- 自分たちの校区にある神社と「水の恵み」とのかかわりがあるかも
- 山口神社

【上西さん】

- ・木と水と人の共生
- ・天然林と人工林 川上宣言と SDGs

- ・川上村の森の歴史 土倉庄三郎の取り組み 100 年先を見ていた
持続可能な吉野林業から学ぶ社会を持続可能にするためのシステム

- ・ユネスコエコパークと川上村
エコパーク：利活用しながら保全する 川上村の人々のライフスタイル
イタドリ 食べることで繁殖を防いでいた

【古山さん】

里のフィールド体験

- ・一本の木に住んでいる昆虫 40 種類
- ・昆虫は身体が仕事の道具になっている
- ・身近なものを調べる楽しさ、観察の重要性
- ・昆虫は環境そのものでもある。昆虫の状況を把握することが地域の自然環境を把握することになる

村上先生から

- ・秋篠川・音無川 の調査から「祭り」に着目させたい
山の神の祠 1 月・6 月・12 月（スタッフの上西さん）
水神のまつり 七夕灯籠祭 伝統的な祭りでなくても（スタッフの成瀬さん）
源流まつり 流域まつり（水源地課の加藤さんにアプローチを）

中谷先生から

- ・アークレンジャー登録をめざして
- ・月 1 回のゴミ拾い （体験的な学びの重要性）
- ・森最高、海最高 というプラス面からアプローチした環境教育
流域まるごとプロジェクト の活性化・実現化

奥戸先生から

- ・魅力リーフレットづくり （中谷先生のアプローチが参考に）
- ・教材になるものをつくっては（尾上事務局長にアプローチを）

2022年度 第2回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 7月2日(土) 13時30分～15時30分
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者 奥戸・新宮(平城小)、近野(寺津小)、原(奈良学園)、北村(御所市教委)、
赤松(雑賀小)、加藤(川上村水源地課)、島(吉野小)、和田(財務省)
澤井・東(奈良教育大学学部生)、松澤(東吉野村)、川崎(耳成南小)
尾上・古山・成瀬・上西(森と水の源流館)
杉山・大西・中澤(奈良教育大学) 計 20名

◇内容

つながりをテーマに進める総合的な学習 雑賀小学校：赤松先生

単元づくりのきっかけ

休校中での学級開始 マスク着用・三密・ソーシャル・ディスタンス

社会科を研究する上で障害が多い状況

→ 尾上さんに連絡をとる GTを依頼

この状況を逆手にとって何かできないでしょうか？

コロナ禍だからこそできること

吉野川から紀ノ川から海へ

学習材の価値

水のつながり 森—川—海 環境教育

「つながり：に気づき探求過程

人とのつながり 人と人のつながりを体験させる

「つながっていくこと」を実感する学習活動

「かわかみの水」が川上村から届いた

ペットボトルのラベルに注目する

どうして水なのに木が描いてあるのか？

川上村について調べよう お礼の手紙を書こう(国語科)

尾上さんからビデオレターが届いた どうして木の絵が描いてあるの？

「森と水が関係している」とは具体的にどういうことなのか

「水の旅のはなし」から考えよう どうして菓子にお米や魚が出てくるの？

尾上さんはどういう気持ちでこの歌詞をかいたの？

→ 尾上さんとオンライン授業

尾上さん・松谷さんが来校 「水の旅のはなし」

「つながり」に気づく探求過程 人や生き物が全部水でつながっている

人とのつながり 水(物) — 手紙 — ビデオレター — オンライン — 対面

メディアの活用 地域の方や川上村出身の方からの手紙

直接体験→子どもの心に火をつける

今回 人とのつながり から子どもの心に火をつける ことができる

川上村を見学

川に捨てられているゴミに着目 自然が泣いている、許せない

下流や海も見学に行こう

紀ノ川下流を見学

干潟で生き物をさがす 自然がいっぱい

底が見えない どうやったらこんなによごれてしまうの？

和歌山県環境学習アドバイザー 平井研先生 自分たちの生活が川の水を汚している

でも汚れ全てが悪いわけでは内

目に見えないよごれと目に見えるよごれがある

友が島 海洋漂着ゴミが問題になっている

友が島を見学 友が島漂着ゴミ調査プロジェクト 和歌山だけの問題じゃない！

「いいことも悪いこともつながっている」

→ SDGs の紹介 → 自分達にできることを考える

①伝える・知ってもらう

自分にとって関係がないと思っていると行動にならない

学習したことをふりかえって「いいこと」「悪いこと」を整理して伝えよう つながりプロジェクト

「おもしろ環境まつりオンライン」「しらす祭り」「オンライン学習交流会」

②自分が行動する

ビーチクリーン

子ども達が感じている「つながり」

①水のつながり、②いろいろな人とのつながり 「本当につながっていると」実感

学習のまとめ「わかやま海洋サミット」

問題解決にむかう姿勢の変化がうかがえた みんなで取り組むことに意義がある

意見交流

・体験と学習がつながっているのがすごい

・想定では1学期でいったん修了し、2学期に川上村へ、ゴミと出会って友が島へ
どこまで計画していたのか

→ 2学期の最初、尾上さんと出会うところまでは計画していた（人との出会いがメイン）

下流域の情報と友が島情報をつなげた

・GTとの関わりが単発でないのはよかった 伴走者：継続的に関わってもらうことではげみに

・「水」を飲むところを導入にしているところがよい

・自分事になっていたと思う 「つながり」の重要性を感じた

・学級・学年での取り組み方について

資質・能力（子ども達につけたい力）は学年でそろえる

・学校として継続できるシステムはあるのか 形骸化することは避けた

・学校としての資質・能力の系統性について システムとしてはできていないが、子どもの中ではできているところがある

・「いいことも、悪いこともつながっている」 色々な場面で意識化「つながり」をテーマにした学習

- ・ G Tへは自分の言いたいことをぐいぐい押していく。G Tの言いたいことを引き出していく
両者が本気になることが大切 教員がつながっていく姿を見せていくことが重要
子ども達への影響にも差が出るように思う。熱が伝わる。
- ・ G Tに語っていただきたいことをしっかり伝える
- ・ G Tとつながることで子どもの変容がある G Tとしての責任を感じた
- ・ この学習内容は、大人にも通用する。
- ・ ターニングポイントは尾上さんとの出会い。
- ・ G T その人は「本気」になったか？ 手を抜けないという思いに至らせることが大事。

次回は7月30日（土）10時～12時 単元構想案の相互検討会を予定しています。

第3回森と水の源流館授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 大西浩明・中澤静男

- ◇開催日時 2022年7月30日(土) 10時～12時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 21名
- ◇内容 単元構想案の相互検討会

1. 第1分科会(担当:中澤)

(1) 山形県寺津小学校6年生 総合 近野先生

既習内容 4年生:農業部を引き継ぐ。生産物は学校内で販売した。

5年生:生産過程全体を自分たちで行い、生産物は地域内で販売できた。

社会科の食料生産の学習から、寺津地区の農業の課題と日本の農業の課題には共通点があることに気が付いた。

6年生:農業問題、ごみ問題、寺津沼の水質調査や生き物調べなど、児童の関心が広がる。

今年度の学習テーマ 寺津地区の農業における人手不足問題を取り上げ、行動化したい。

相互検討

- ・現状を客観的に把握することで、寺津地区の農業における課題を明確にする必要がある。人手不足以外にも問題があり、それが人手不足問題とつながっている可能性がある。
- ・行動の変革を促すためには、「感動」が重要。今回の学習の場合、①農業体験と②人との出会いが考えられる。①の場合、苦勞させることが必要。兵庫県の猪名川中学校では、代掻きを機械を使わずに「トンボ」を使用してやっていた。泥まみれになり、力仕事でもあり、大変な作業であったが、それによって、「田んぼ」が生徒に内面化された。登下校中に田んぼを見回りに行くようになっていた。②の場合、地域で農業に取り組む人たちとの出会いが大切だ。六次産化などとして成功している方、兼業で赤字覚悟でされている方、有機農業などで差別化に挑戦しようとしている方など、様々な農家と少人数で出会う機会を作る。そうやって農家の気持ちや事情に寄り添いながら当事者意識をもって、課題解決に挑戦する態度の形成を図ってはどうだろうか。

(2) 福岡県大牟田市立吉野小学校5年生 社会科 島先生

7～8時間を想定

学習の主な流れ 森林資源の働き→国土の保全→自分たちにできることを考える

①ユネスコスクール及び世界遺産のロゴマークに着目させる パルテノン-石の文化

一方、法隆寺は木造建造物 - 木の文化

②森林環境の保全の多角的な取組を調べる

春日山原始林を未来へつなぐ会 天然林の保全活動

吉野地方のかわかみ社中

林業 経済と環境保全をつないだ取組

森と水の源流館

森林環境保全の普及・啓発活動

③森林の働きを学ぶ + 森林環境保全活動に取り組む人の思いにふれる

④全国の森林環境 国土の保全の上でも重要な取組であると認識する

⑤自分にできることを考える

相互検討

- ・学習後に目指す子どもの姿について

「森林環境が受け継がれてきたことをふまえた上で自分は〇〇をしたい。」

- ・ F S C 認証のマークがある木材を使う
 - ・ 紙を使おう。リサイクルペーパーを選ぼう。
 - ・ 無駄にしないで使おう。
- ・ 大牟田市の水害の原因と大牟田の森林の現状を調査して把握した方がいい。
- 熊本県が作成している小学 5 年生社会科用副読本「木になる森のはなし」は使いやすい。



(3) 橋本市立あやの台小学校 5 年生 中谷先生

【エコマート】

作り手体験をすることで、

- ①ものの大切さに気付く
- ②ものの裏を見る視点を得る
- ③仕事の大変さに気付く
- ④仕事の喜びを知る

販売体験と寄付をすることで、

- ⑤お金の意味について考える
 - ⑥仕事の責任を知る
 - ⑦自分たちの可能性を感じる
- 環境について伝えることで
- ⑧生産者が環境を意識する理由を知る
 - ⑨消費者の協力の重要性を知る
- 会社運営をすることで
- ⑩協力の仕方と大切さを知る

エコマートとは

あやの台小学校の 5 年生が、総合的な学習の時間に、野菜会社や手芸会社などをつくって販売・寄付までの活動を行う大単元を取り入れており、地域ボランティア 10 名以上のサポートをいただいている。子どもたちが会社を作り、自らの責任と目的のもとで環境に配慮した商品製作から販売までを行うことで「相手意識」を育てたい。

エコマートの学習についてのアイデア書き出し

- ・売り上げをもってスタディツアーに参加し、子どもたちに現地レポート
- ・フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの発表会に参加
- ・環境に配慮したものづくりを行っている企業のお話を聞く
- ・販売を伴わず、寄付を集める活動を行う
- ・フェアトレードの委託販売を行う
- ・フェアトレードのラベルを自主作成し、販売を行う
- ・ for the blue の活動や、コウノトリの住める米作りなど、兵庫県豊岡市の取組を参考にして、町をあげて環境を守っている取組について学ぶ

【アースレンジャー源流人プロジェクト】

環境レポートをつくることで

- ① 地球環境の現状と問題点について知る
 - ② 自分の生活と環境問題のつながりを知る
 - ③ 環境を守ることに使命感をもつ
- 川上村や加太と交流
することで、
- ④具体的に人のためになっている実感を得る
 - ⑤自分たち「も」責任があると感じる
 - ⑥環境を守る人に尊敬の念を抱く
- ゴミ拾いに取り組むことで
- ⑦「きれいにする≒よごさない」を感得する
 - ⑧環境を守ることにに対してハードルが下がる
- 源流人プロジェクトに取り組むことで
- ⑨人の理解を得ることの難しさを知る
 - ⑩人がつながることの喜びを知る。

【アースレンジャーとは】

全国組織であるこどもエコクラブの中で、「あやの台小学校エコマート」として登録して今年で3年目である。あやの台小学校では環境レポートを製作し、環境について理解を深めた人がアースレンジャーバッジをもらえるように位置付けている。

子どもたちが環境について学んだことを積極的に行動や発信することで、自己有用感を感じながら、価値観の中に「地球環境を想って動くこと」が当たり前になるようにしたい。また、今年は源流人プロジェクトを立ち上げて、紀の川流域の学校とつながり、同世代の仲間とともに環境を守ることを目指す。

今年度のチャレンジ「ゴミアート」に挑戦

ゴミアートに取り組む際の留意事項

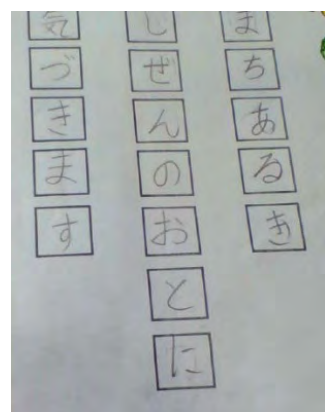
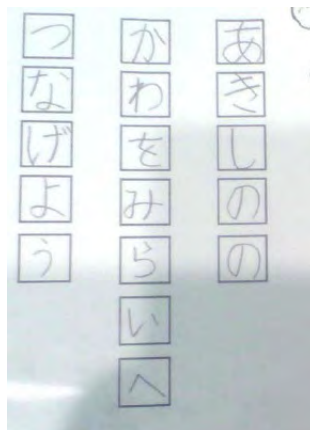
- ・展示後にどうするかを考えておく
- ・分解可能な作品の方がよい（処分するにしても）
- ・再生可能な資源で作成する。あるいは、分別した資源で作成する。

1. 第2分科会（担当：大西・河野）

（1） 奈良市立平城小学校 4年生総合 村上先生

川柳を用いて自分の思いを深め、友達と思いを共有しできる限り多くの人に学んだこと・考えたこと・感じたことを伝える。

1学期…秋篠川の探索から川柳をつくる



2学期…川上村の川と比べて、川を大切にされてきたことを考える

川を守るためにできることをは？

源流館のように秋篠川の恵みを考え発信する

3 学期・・・3 年生と一緒に「秋篠川かるた大会」「秋篠川まつり」をする
これまでの学び、これからの学びを川柳に

相互検討

- ・これまでの平城小学校の秋篠川に関する取組を違った角度から取り組もうとしているところに価値。
- ・川柳のまとめていく活動を繰り返すことで、言葉も洗練されていくのでは。
- ・3 年生といっしょにカルタ大会をするのは、きっと次年度の学習につながるだろう。
- ・できれば地域の大人も巻き込んだ「秋篠川まつり」ができればいい。

(2) 田原本町立田原本小学校 4 年生総合 中本先生

「めぐる、めぐみ。」わたしたちの田原本町宣言

(1 学期) 森と水の源流館にあった 3 枚のポスター「めぐる、めぐみ。」とは、どういう意味だろう。
実際に森と水の源流館へ見学に行こう！

(2 学期) 田原本町を流れる寺川と川上村を流れる音無川にはどんなちがいがあろうか。
指標生物で比べる

「なぜ、同じ源流地からくる 2 つの川の様子がこんなにちがうのだろうか。」

「昔（30 年前・60 年前）から 2 つの川にちがいがあったのだろうか。」

2 学期にもう一度、森と水の源流館に行きたいが、1 学期と味場所だけに保護者の理解が得られるか

相互検討

- ・「めぐみ」という言葉に、川の多面的機能が表現されている。それが「めぐる」ということはどういうことなのか、いろんなアプローチができるのではないか。
- ・2 学期以降の学習の流れから考えても、もう一度森と水の源流館には行くのが必要だろう。そこは、学習の意義をしっかりと保護者に伝えれば、納得してもらえるのでは。
- ・「自分たちにできること」を考えると、表面的にならないためにも、それまでにどこまで自分ごとになっているかが大事。
- ・地域の大人を巻き込むことができればいいのだが。
- ・学校間交流するのもよい。

(3) 奈良市立平城小学校 6 年 奥戸先生

「魅力が伝わるリーフレット」

- ・和歌山への修学旅行を通して、和歌山県の魅力を伝えるリーフレットを作成する。
- ・和歌山県のたくさんの魅力に気付いて、平城のまちに立ち戻り、自分の住む町の魅力を考えなおす。
- ・まだ気づいていない魅力を、観光のプロ、奈良交通に来てもらい、話を聞いたりして深めていく。
- ・平城のまちの魅力を伝えるリーフレットをつくり、発信する。

相互検討

- ・和歌山のまちはたしかに観光地として様々な見どころがある。平城のまちにもあると思うが、観光のまちとしての良さ、観光資源に着目することが平城のまちの良さを知ることにつながるだろうか。

もっと違う視点で良さを見つけることもできるのではないか。

- その場合、奈良交通さんに来てもらうのは一つの手だけれど、特に街中をはしるバスの運転手さんや、タクシーの運転手さんのように、まちの中をしている人に聞けば、違う視点からの魅力がもっと見えてくるかもしれない。
- リーフレットづくりをするのは、学んだ成果を出すという意味でいいと思う。相手意識をどこに置くか、誰に向けてのリーフレットなのか、なぜつくるのかが子どもたちに明確になるといいなと思った。

第4回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2022 年 9 月 3 日（土）10 時～12 時
- ◇方法 ZOOM を用いたオンライン研修
- ◇参加者数 14 名
- ◇内容 ESD 学習指導案の相互検討会

1. 平城小学校 4 年生 ESD・国語 村上先生

「ゆかし里に流れる秋篠川の魅力を発見し、川柳で未来へつなげよう」

川柳を用いて自分の思いや考えを発信させる

(1) 学習の流れ

1 学期 秋篠川の調査 秋篠川に入って、五感で感じたことを川柳で表現した

2 学期 9 月 13 日に川上村の音無川を調査予定 → 川柳で思いや考えを表現する

「音無川の方がきれいだ」（予想）

→ 川がきれいというのは、ゴミを捨てないだけでなく、森を守ることの重要性を伝える
わりばしや端材の活用は、林業を通じた経済と環境の調和を促す取組でもある。

→ 端材をつかってカルタづくり

屋久島の小学校とも交流

3 学期 地域の大人にも呼びかけ、秋篠川をテーマとした川柳によるカルタの製作

秋篠川カルタ大会

(2) 意見交流

①語彙力の向上について

加藤先生より：語彙力を高めることにも留意してほしい

語彙とはワードとボキャブラリー

言葉の意味の違いや使い方の違い（差異性）を意識し、選択して使うことができるということ。それができると、比喩的表現や換言に発展し、表現力の UP につながるだろう。

村上先生より：子どもたちはあまり言葉を知らない。それは体験が少ないからだと考えた。体験することは、語彙を増やすことになるのでは。ヒトは目で見たものは言葉にしやすいが、においや音などは言葉にしにくい傾向がある。においや音を言葉にするワークシートを用意し、体験を通して五感から語彙を増やしたい。

加藤先生より：体験の裏付けのない言葉は意味がない。意味は体験だと言い切っていい。

②学校間交流について

新宮先生より：屋久島の小学校が川柳に取り組んでいるかわからない。村上先生が交流授業で川柳の指導を行い、平城小の児童の作品を紹介することで、子どもの意欲が高まるのではないかな。

大西先生より：屋久島の小学校は環境学習に熱心だ。屋久島の小学校は川柳でなくて、自分たちの表現でいいのではないかな。そこから平城小の子どもたちが学ぶことも多いと思う。

③川柳と ESD

・俳句は自然環境などを詠むことが多いが、川柳は自分の思いや出来事を表現することが多い。ESD

にはちょうどいいのではないか。

- ・川柳では、「伝えたいこと」を明確にすることが大切なので、ESDにはよい表現方法だ。

新宮先生より：インタビュー調査などを繰り返すことで、子どもの川柳がどのように変化していくか、興味がある。

④学習の流れについて

- ・中・長期的なプランに基づく学習の流れの軸がしっかりしている。オノマトペの学習や語彙力の学習、森林環境学習、生物多様性の学習、人々の営みのインタビュー調査など、多様な学習に展開できると感じた。

2. 田原本小学校 4年生総合的な学習 中本先生

「めぐる、めぐみ。」田原本町を潤すわたしたちの水」

森と水の源流館のポスター「めぐる、めぐみ」に着目した。

(1) 学習の流れ

1学期：社会科 「くらしを支える水」浄水場の働き、上水道について学習済。

森と水の源流館、大滝ダムを見学

2学期：田原本を流れる寺川について

寺川のイメージ 汚い、遊べるわけない、でも生き物もけっこういる
水道水は寺川の水を浄水場できれいにしている。

水の飲み比べ

水道水と源流館のペットボトル水を比べる

「においがしない」「甘いかんじ」「おいしい」

寺川はなぜ、薬を入れないといけいないのか？寺川をきれいにしたい。

音無川（川上村）散策を計画中←源流館支援

寺川の調査も計画中←奈良県環境アドバイザー谷先生に依頼）

保護者にもアンケート調査を行う。

社会科・吉野川分水の学習

田原本町にはため池が多い。これまでの水に関わる苦労（水争い）など、歴史にも着目

→ 田んぼも川も、そして自分たちも「地域の宝」であることに気づかせたい

→ ポスターの作成へ

(2) 意見交流

①「めぐる、めぐみ」

何がめぐっているのか。めぐみとは何かを、子どもたちに問いかけて展開していったほしい。とらえかたによって、「水」であったり、「命」であったり、「産業」であったりと、多様に展開できる。それらと自分たちの生活とのかかわりに気づかせることが、行動の変革を促すESDになっていく。めぐらないものにも気付かせたい。

「めぐる、めぐみ」に戻っていくことが大切。めぐみは地域でもあり、人でもある。

尾上さんより：「めぐる、めぐみ」は、どうつながっているのかを考えるために作成したコピー。いろいろなつながりに気づいてほしい。

②学校間交流について

福岡県の玄海島には浄水場などの施設がなく、福岡から水を送ってもらっている。水が当たり前の

ように使うことができる学校と玄海島の学校で交流することで、クリティカルに考える機会になる。

③その他

鍵・唐子遺跡が近い。2000 年前の川の様子と比較してもいい。それは 6 年生の社会科の学習にもつながる。

次回は 2 月 11 日（土） 実践交流会をハイブリッドで開催する。ぜひ、参加していただきたい。

第5回 森と水の源流館授業づくりセミナー（実践報告会）

大西 浩明

日時： 令和5年2月11日（土）10時～12時

場所： 森と水の源流館

方法： 対面式とZoomによるオンライン方式のハイブリッド

参加者：会場21名、オンライン20名 計41名

内容： 実践報告、ビデオ動画による取組紹介

【報告】

1. 広域からのつながり 岐阜市立長良中学校 堀公輔先生

きっかけ…地理の教科書 改訂されて近畿地方の事例で川上村を取り上げている

地域の課題をどう乗り越えているか

人口の偏りによる諸課題にどう乗り越えているか、地方の人々はどのように工夫し生活しているのか
社会的事象を足元に引き寄せる授業 「過疎化と向き合う川上村」

<授業概要> 中学校2年

川上村ってどんな村

自然豊か 吉野林業発祥の地 ダム建設 人口減少、、、

「川上村は10億円を使って何をしたと思う？」

- ・高速道路をつくったのでは？
- ・ショッピングセンターをつくった？
- ・テーマパークをつくった？
- ・高齢者のための施設をつくった？

「手つかずの原生林を10億円で買った」

なぜ？ 観光資源にした？

「今買わないと手遅れになる！」

一般客の入山は禁止

水源地からの川を通したつながり 「川上宣言」

美しい水 「水源地の村」がブランドになる 源流に住む者としての使命や誇り

「国立公園に指定してはどうか」という話があったのに、お断りした

なぜ？ おいしい話ではないのか！

指定されてはたくさんの人が来る 経済としては村にとってありがたいが…

自分たちの手で森と水を守る

自分たちの地域は自分たちで守る！ 総合で自分たちの地域について考えてみた

<意見交流>

○原生林から授業を展開された経緯は？

→ 教科書の記述 「下流域のために。。。」「教師自身にとっての驚き、疑問があった
実際に取材してみると、「これは授業化したい」と思った

○地元の長良川流域における同様の取組は？

1年長良川中流域 2年上流域の学習…水のきれいさを実感、生き物調査、下流域とのつながり



○川上村は経済だけを追いかけているのではなく、それ以外のものを求めている

何を「豊かさ」と捉えているのか 市民参加の重要性

2. 紀の川中流域の活動とのつながり 橋本市立あやの台小学校 中谷栄作先生

<実践概要> 小学校5年

「ぼくらがバトンをつなぐわけ」

何のために生きるか？

ちがうことはおもしろい 考えることは自由だ 分かり合うことはすてきなんだ
どのように子どもたちは変わってきたか

海釣り・野菜作り スポーツゴミ拾い 講演・インタビュー 販売と寄付

世界は変えられる みなさんにバトンを渡します

伝わるってうれしいな 遠くの人には何もできないと思っていた

エコ検定・エコレポート スポゴミ・エコチャレンジ

アースレンジャー認定式 エコマート 会社設立

流域まるごとゴミ拾い対決 ゴミゼロプロジェクト ゴミアート

川遊び・島探検・ビーチクリーン 森林散策・間伐体験

米作り・感謝会 フェアトレード・環境啓発

サンタクリーン作戦 集まる ありがとう

「バトンが種なら、私は土や水になってがんばりたい」

自分の生き方に満足できるような生き方をしたい！

学校には出会いをデザインするチカラがある

授業には学びをストーリー化するチカラがある

子どもにはつながりを受け入れるチカラがある

学校はどうするか？

つたえる つづける つながる つらぬく つきあう つなげる



3. 大和平野における水のつながり 田原本町立田原本小学校 中本篤志先生

「めぐる、めぐみ。」田原本町の水 ー自分たちの川のはたらきを見直そうー

源流館の「めぐる、めぐみ。」のポスターを目にして、授業化したい

<実践概要> 小学校4年

1学期 社会科での「水のはたらき」の学習

校外学習 森と水の源流館、大滝ダム

2学期 水の飲み比べ

田原本町の水と川上村の水

同じ水なのに

田原本を流れる寺川と川上村の川のイメージ調査

寺川と音無川の散策 水質調査（バックテスト）、

ごみ拾い、生き物調査

寺川・・・あまりよごれてはいないけど、ごみが多い



「二つの川の違いや役割について考える」

寺川は思っていたより案外きれい　生き物が多い　ごみがいっぱい

地域の川があるから作物も作れる

音無川はきれいだけど生き物が少ない　ごみが結構ある

バーベキューは禁止のはずなのに、そのごみがたくさんあったりする

吉野川分水の歴史について学習

大和平和土地改良区からゲストティーチャー

「めぐる、めぐみ。」という言葉のメッセージについて考える

田原本小バージョンを考える

3学期　SDGs について学習

寺川に設置する看板づくり

自分たちの持っていた寺川のイメージが変わった

川の役割の重要性に気付いた

自分たちの地域のよさや課題の再認識・再発見



【ビデオによる取組発表】

1. 奈良市立平城小学校　村上雄太先生

「ゆかし里に流れる秋篠川の魅力を発見し、川柳で未来へつなげよう」　小学校4年

気づいたことや感じたことを川柳に表現し、蓄積していく

平城地域の秋篠川は、どのような川なのだろう？

生き物調査、河川課の方をゲストティーチャーに

遠足で川上村の吉野川源流へ行き、生物調査をし、森と水の源流館の見学から、川を守ってきた思いに気付く

屋久島の小学校との交流

先生や保護者、地域の方にも川柳を書いてもらう

秋篠川を守るためには、自分たちになにができるだろう？

書き溜めた川柳を「かるた」にする　川上村からもらった材木の端材をかるた札に

→ かるた大会（3年生と）　行動変容につながっていないのが課題

2. 川上村立川上小学校6年生の発表

ダム役割の説明　川上村にあるダムの役割

和歌山の小学校との交流（ダム湖でのカヤック体験）

川上村がダム建設を受け入れた経緯

当然多くの反対があった　当時の人たちはものすごくたくさん悩み、考え、そして受け入れた

→ 仕方なく受け入れた人、村を離れた人も多くいる

「川上宣言」に込められた、水源地の村として生きていこうとする強い使命、思い
これから自分たちがどのように川上村で生きていくべきか

2022 年度 ESD ティーチャープログラム
春日山原始林・奈良公園フィールドワーク
担当：研究員：杉山

春日山原始林や奈良公園の自然環境を ESD に活かすための場として様々なテーマでフィールドワークを実施する。また、五感を使うなど、自然と交感することで、持続可能な社会に必要な自然環境保全の重要性の気づきを促す機会とする。

■第 1 回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

2022 年 5 月 14 日（土）9:00～14:00

■第 2 回 雨の日の森を歩く（春日山遊歩道北部）

2022 年 6 月 11 日（土）9:00～12:00

■第 3 回 春日山原始林の夕暮れ～夜（春日山遊歩道南部）

2022 年 7 月 16 日（土）18:00～20:30 ※雨天のため中止

■第 4 回 朝の春日山原始林（春日山遊歩道北部）

2022 年 8 月 13 日（金）6:30～11:00

■第 5 回 奈良公園の夕暮れ～夜（東大寺二月堂周辺散策）

2022 年 8 月 20 日（土）17:30～20:00

■第 6 回 奈良公園の自然（奈良公園・飛火野周辺）

2022 年 9 月 10 日（土）9:00～13:00 ※台風のため中止

■第 7 回 高円山の自然（高円山）

2022 年 10 月 1 日（土）9:00～14:00

■第 8 回 奈良公園の樹木と自然あそび（奈良公園・東大寺講堂跡）

2022 年 11 月 12 日（土）9:00～13:00

■第 9 回 春日山の石仏（滝坂の道・芳山登山）

2022 年 12 月 10 日（土）9:00～16:00

実施日：2022年5月14日（土）9:00～14:00

参加者：15名

学生：11名

教職員：杉山、中澤、大西、及川

■実施場所：春日山原始林・若草山

■第1回 春日山原始林の自然と課題（春日山遊歩道北部～若草山）

2021年11月21日（日）9:00～14:00

概要：世界遺産・特別天然記念物にも指定されている春日山原始林。指定された背景と現在も残っている史跡や自然の価値などについて学び、体感しながら歩きます。紅葉の春日山は独特の空気が流れています。遊歩道を抜けた先の若草山山頂からは、奈良公園を一望し、奈良の中心市街地に残されている自然環境について学びます。

9:00 春日大社国宝殿前集合

9:10 水谷神社

10:00 春日山遊歩道（北部）

11:10 五感の体操

11:30 森で寝転ぶ

12:00 葉っぱジャンケン

13:20 若草山山頂・昼食

13:45 若草山下山

14:30 解散

■概要報告

春日山原始林北部遊歩道を若草山まで登るフィールドワーク。第1回目は、参加者がすべて1回生で春日山を歩いたことのある学生はほとんどいなかった。春日山原始林の成り立ちや現状の課題などについて解説しながら歩き、若草山山頂を目指した。点在する史跡や自然について解説をおこないつつ、途中、五感を使ったアクティビティや、森で寝転ぶ体験、ループを使って苔や地面の小さな植物を観察する体験、葉っぱを使ったアクティビティ「葉っぱじゃんけん」を実施した。ループを使った観察などは、普段経験することがなかったようで、関心が高かった。また、いくつかの葉っぱを集めて実施する「葉っぱジャンケン」では、3グループに分かれて体験であったが、各班で葉っぱをじっくり見ながら意見交換をする様子が伺えた。

道中では、特徴的な植物（ナギ、ギンリョウソウ、スギ、モミ、イチイガシ、コジイ、フジ、テイカカズラ、ウドカズラ）について簡単な説明を交えながら話をした。また雨のため山ビルやカタツムリが発生したので観察したほか、側溝にマムシを観察することができた。若草山山頂では、奈良公園周辺の景観について春日山から奈良公園、近鉄奈良駅までの森のつながりを実感するほか、ナンキンハゼの繁茂状況にも注意を促した。

■写真



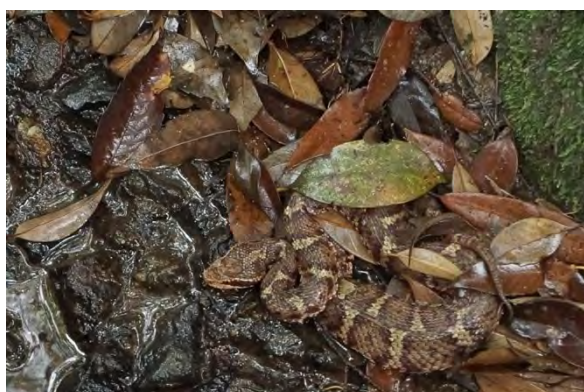
五感の体操



森で寝ころぶ



ルーペで苔や植物の観察



マムシ



若草山山頂にて記念写真

令和4年度 第2回 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2022年6月11日（土）9:00～12:00

参加者：14名

学生：12名

現職教員：1名

教職員：杉山、中澤、大西、阪本

■実施場所：春日山原始林

■第2回 雨の森を歩く

概要：梅雨時期の湿度の高い森の姿を、雨対策を行った上で散策します。水に濡れる木々や苔・シダ等の美しさを観察すると共に、水の流れ、河川の状況などから春日山原始林の現状についても確認します。（雨が降っていなくても実施します）

9:00 春日大社国宝殿前集合

9:10 春日大社見学

9:30 水谷神社

10:00 春日山遊歩道（北部）

11:10 五感の体操・ルーペで観察

11:30 折り返し

12:00 水谷茶屋前にて振り返り

12:20 解散

■概要報告

梅雨時期の「雨の森」を体験するフィールドワーク。今回も1回生の参加が多かった。春日大社に行ったことがないという学生が多かったため、春日大社を冒頭に見学し、縁起や境内の様子について解説し、その後、春日山遊歩道へ移動した。

前回同様に、史跡の解説や、原始林を代表するイチイガシの解説、樹種の違いによる成長の違い等について、葉っぱを触ったり、木に触れたりしながら体験しながら学んでもらった。途中、雨がパラパラと降り出して来たが、夏の木々には葉が生い茂っているため、雨粒が落ちてこないことなどを伝えた。植生保護柵が見える場所では、柵の内外の違いに注目させ、原始林の現状について実感してもらった。

五感で感じるプログラムでは、途中から降り出した雨音にも注目し耳を澄ました。

ルーペを使った観察では、普段見過ごしている苔などのほか、小さな昆虫やモミの実生などを発見した。

帰り道で、ナンキンハゼが生えている場所で外来種について解説。ナンキンハゼの実生を駆除することで、斜面に固定されていた土が流されてしまう可能性もあり、保全活動で行われている「良い面」だけでなく、正解はないということを伝えた。

参加者は、普段気に留めない自然を観察することや春日山が置かれている課題について、体験を通じて考え、何ができるかを考えているようであった。

■写真



水谷神社の解説



樹種による成長の違いを考える



ギャップでの解説



ルーペを使って観察



拡大された苔

実施日：2022年8月13日（土）7:00～11:00

参加者：10名

学生：6名

教職員：杉山、中城、藤田

その他（中学生）：2名

■実施場所：春日山原始林

■第4回 朝の春日山原始林（春日山遊歩道北部）

概要：朝の気持ちの良い空気の中、春日山原始林を歩きます。真夏であっても森の中の空気はひんやりとしています。木々の葉が生い茂り木漏れ日の中を歩きながら、森の気持ちよさや、不思議なことなどをそれぞれで見つけ、共有しながら、森の楽しみ方を考えます。

7:00 春日大社国宝殿前集合

7:20 水谷神社

7:40 春日山遊歩道（北部）

7:50 五感の体操～遊歩道を歩きながら樹木等の観察

8:30 植生保護柵の観察

9:10 ルーペを使って小さいものを観察

9:20 アクティビティ「オノマトペを探そう」

10:20 折り返し

10:35 見つけた「オノマトペ」を共有・ふりかえり（月日亭休憩舎）

11:00 終了・解散（月日亭休憩舎）

■概要報告

早朝の春日大社国宝殿に集まり、朝の春日山のフィールドワークを実施した。当日は、少し曇りがちであったが風が少し吹いて涼しくもあった。今回は、大学職員のご家族（中学生）も参加された。

春日山原始林に入る前に、春日大社との関係性、歴史的背景について解説したのち、ゆったりと時間を使って時間を過ごした。冒頭、遊歩道入り口付近で「五感の体操」を行い、朝の森の涼しさや、川の音、蟬の声などを聞いた。その後、歩きながら気がついた植物や生き物などを紹介しながら、朝の空気を楽しんだ。通常通りの史跡等の解説などを交えながら、途中からルーペを使って苔などの観察の時間を持った。時間を7:00～11:00と余裕を持ったことで、それぞれがゆっくりと森の中でいろいろなものを観察することができた。

ルーペを使って小さなものを観察する時間を持ったあと、参加者には森で見つけられる「オノマトペ」を探して、書き出すというお題を出した。

森の中で聞こえる音や、苔の手触りなど、オノマトペをそれぞれ渡した用紙に書き出しながら、森の中を散策した。

生き物では、オオセンチコガネやサワガニ、マムシなどが見られた。その他、キノコや変形菌なども

観察することができた。

森の中は終始涼しく、風が気持ちよかった。一時雨も降ったが、夏の木々に覆われた状態であったためほとんど濡れることなく雨音に耳を傾けるなど、雨も楽しむことができた。

最後の振り返りでは、見つけたオノマトペを共有「ふわっふわっ」「さらさら」など様々なオノマトペの紹介があった。

■写真



水谷神社の解説



五感の体操



森の遷移に関する解説



ルーペを使って観察



マムシ



オノマトペのふりかえり

実施日：2022年8月20日（土）17:00～20:00

参加者：13名

学生：4名

教職員：杉山、中澤、中城

学外参加者：5名

■実施場所：東大寺境内・春日山原始林

■第5回 奈良公園の夕暮れ～夜（東大寺境内・春日山原始林）

概要：夕暮れ、ひとけのない東大寺境内周辺を歩きます。毎年3月にお水取り（修二会）の行われる二月堂からの夕暮れを眺めたのち、夜の春日山遊歩道にも足を踏み入れます。

17:00 浮雲園地集合・挨拶・体操

17:10 東大寺境内（南大門・鐘楼・二月堂）

18:30 手向山八幡～若草山山麓～春日山遊歩道

19:00 春日山遊歩道（北部）

19:30 遊歩道折り返し

20:00 浮雲園地にて解散

■概要報告

「夕暮れの奈良公園を散策し、夜の春日山を体験する」という予定であったが、天候は曇り時々雨の予報。1日曇り空で少し蒸し暑い1日であった。途中雨の予定であったが、決行した。

参加者は、学生以外にも教職員やそのご家族の総勢12名であった。

簡単な自己紹介と準備体操後、浮雲園地にこれまで生えていたナンキンハゼが伐採され、黒松が植栽されていることを確認。奈良公園の景観を名勝指定当時に復元することを目的に奈良県によって進められていることを説明。合わせて、外来種ナンキンハゼの実生が既に周辺に発生しており、人手をかけて駆除が必要であることを確認した。また、周辺にいたシカに対してナンキンハゼの葉を与えようとしても、食べないことを確認した。また、周辺の樹木に見られるシカの影響も確認した。

東大寺南大門では、中澤先生より南大門に関する解説（大仏様、金剛力士像、西側の土塀跡、石獅子像）、中門の兜跋毘沙門天に関する解説もいただいた。

そこから鐘楼へ上がるくらいから雨が少しずつ降り出してきたため足速に二月堂へ。二月堂の階段では、下から数段と上から数段に線刻された紋様があるのを確認。また中頃にある模様（十字と菱形）も確認した。二月堂からは、ゆっくりと奈良の風景を眺めて時間を過ごした。

夕暮れとはいかなかったが、涼しい風が吹き、奈良の風景をみながらゆったりとした時間を過ごすことができた。その後、日が傾きかける時間で二月堂から手向山八幡、若草山山麓を歩いて春日山遊歩道まで移動。

春日山遊歩道では、小雨が降り続いている状況であったが、暗い中をライトで照らしながら散策。途中、遊歩道から見えるムクノキの大木の裏にアナグマが顔を出した。また、昼の森とは異なる雰囲気

を感じながらゆっくりと歩き夜の森を体感した。ある程度雨が凌げる場所まで移動したのち、少しの時間ライトを消して過ごす時間を作って森の気配を感じる時間を設けた。その後、元来た道を折り返し、浮雲園地にて解散とした。

参加者は、夜の春日山は一人では入れないので怖かったけど面白かった。森で寝転んだのが気持ちよかった。などの感想であった。季節的にも暖かかったため、多少の雨であれば実施可能であることを再確認することができた。

■写真



はじめの挨拶



植栽されたサクラ。シカの樹皮剥防止の網付き



南大門にて中澤先生解説



二月堂

実施日：2022年10月1日（土）9:00～14:30

参加者：3名

学生：1名

教職員：杉山、中澤

学外参加者：2名

■実施場所：高円山

■第7回 高円山の自然

概要：春日山の南に連なる高円山。8月に戦没慰霊のために大文字の送り火の火床がある場所であり、かつて聖武天皇の離宮、尾上の宮があったとも伝えられる山です。春日山原始林と隣接する山ですが植生は大きく異なります。春日山との違いや、自然環境としての現状を確認しつつ、火床からの眺望、山頂までの森林の様子を観察します。

- 9:00 大学生門集合・挨拶・体操
- 10:00 高畑町～高円山登山口
- 11:30 高円山火床到着・昼食
- 12:10 山頂に向け移動
- 13:00 高円山山頂（ホテル跡地）到着
- 13:30 火床まで戻る
- 14:00 滝坂の道方面へ下山
- 14:30 大学到着・解散

■概要報告

参加学生が1名という状況であったが、秋晴れの中、高円山山頂までのフィールドワークを実施した。高円山の登山口までの移動では、大学南側部分の集合住宅が、宅地開発がされていて、景観が大きく変化している点、奈良公園方面へは歩くことがあっても、高畑の住宅街や高円山方面へあることは稀なため、周辺残る古い家屋などを眺めながら歩いた。高円山方面へ登る途中に位置する東山緑地から、鹿垣の跡を確認し、地域の活動団体である高畑自然教室が整備した遊歩道を歩いて、霊園を抜け、高円山登山口まで。登山口には、判読しづらくなっているが万葉集に収められている、大伴坂上郎女の「ますらをの高円山に迫めれば里に下りけるむざさびそこれ」という歌が立て札となっている。高円山に入り、日陰の中を歩くと外よりは幾分か涼しい。周辺の樹木には、シカによる樹皮剥や、イノシシの痕跡などの影響が色濃く現れているのを確認して登り進む。途中の沢沿いでは、ヤマビルも発生していた。高円山は落葉広葉樹の森であるが、途中には、春日山原始林と同様にコジイも見られ、ムササビによる食痕もみられた。また、外来種ナンキンハゼが至る所で発生しており、周辺植生が変化しつつあることを実感した。

火床に到着すると、正面に矢田丘陵と生駒山、手前には本学を確認することもでき気持ち良い景観を楽しむことができた。昼食をとりながら景観を楽しんだ。草地では、クルマバツタやハラビロカマキ

り、クロアゲハなどもみられた。

昼食後は、高円山山頂を目指して移動。火床を越えるとしばらく緩やかな林道が続き、途中の木の根元には大きな黄色いキノコ（オオワライタケ？）を見つけるなど、周辺の観察をしながら山頂に到着した。山頂は、高円山ドライブウェイと接しており、かつて高円山ホテルがあった場所となっており、一帯は更地となっている。山頂からは眺望があまり良くないため、周辺を確認して下山した。

下山は、火床から北側にルートを取り、春日山との間の滝坂の森へと降りた。少し滑りやすいため転倒することもあったが、無事下山。本学正門まで戻り解散した。

参加者は、普段、自然の中で過ごすことがないため、貴重な経験であったとのことであった。

■写真



高円山火床からの風景



黄色いキノコ、オオワライタケか。



高円山ドライブウェイの展望台には、大伴家持の歌碑がある



高円山山頂にて。ホテルの跡地となっている。

実施日：2022年11月12日（土）9:00～12:30

参加者：6名

学生：4名

教職員：杉山、中澤、阪本

学外参加者：1名

■実施場所：奈良公園（春日大社境内地・飛火野・浅茅が原）

■第8回 高円山の自然

概要：春日大社の境内地から、参道にかけての奈良公園エリアを歩きながら、特徴的な樹木などを観察する。また、自然の中で遊びながら学ぶアクティビティを体験する。

9:00 春日大社本殿バス停（春日大社国宝殿前）・挨拶

9:10 春日大社境内・ささやきの小径（下の禰宜道）

10:20 飛火野裏手（芋畑跡）

11:30 鹿園裏を通り飛火野へ

12:10 飛火野から浅茅ヶ原・春日大社参道へ

12:30 春日大社参道、竹の生えたムクロジを観察・ふりかえり・解散

■概要報告

奈良公園の自然は、シカの影響は色濃く見えるものの、秋の紅葉などが美しい貴重な自然環境である。今回のフィールドワークでは、奈良公園の特徴的な樹木の観察と秋の自然をゆったりと楽しむことに重点を置いて実施した。冒頭に、9マスのネイチャービンゴを配布し、それらを見つけながら歩くことを意識させてスタートした。

集合場所である春日大社本殿バス停（国宝殿）から南には、春日大社の境内地の森が広がっている。冒頭は、奈良公園平坦部で一番大きいと言われるスギを観察したのち、高畑へと続くささやきの小径（下の禰宜道）へ。落ちている異なる種のどんぐりを比較し、ルーペを使って特徴を確認した。

その後、ささやきの小径から、飛火野裏へとつながる道の途中で、五感で自然を感じるアクティビティを実施した。その後移動中に鏡を使って歩くアクティビティなどを織り混ぜながら、飛火野裏にある芝地へ到着。この場所は、戦後に芋畑となっていたようで、現在も畝の後が残っている。

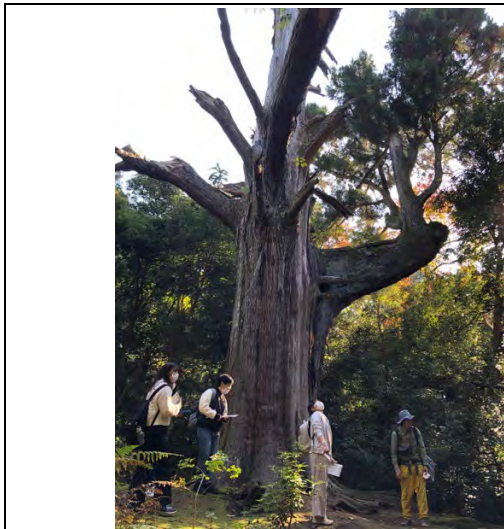
この場所で、各自で会話をせず自分の気に入った場所をみつけて一人で過ごした。

日向ぼっこをして寝転がったり、木々から葉が落ちる様子を写真に収めるなど、それぞれが自然の中で時間を過ごした。それぞれの時間をどう過ごしたかを共有したのち、葉っぱを使ったアクティビティ「葉っぱジャンケン」や「葉っぱのグラデーション」のほか、耳を澄ます体験など実施した。

その後、拡張された鹿園を通して飛火野へ抜けた。飛火野からは、御蓋山・春日山を確認することができた。その後、春日大社参道へ移動し、御旅所にておん祭の準備が進められていることを確認した。新型コロナの影響で、近年は一般が見学することができなかったため、学生たちもおん祭について、知らないと話していた。終着点は、参道脇の竹が生えたムクロジ。ムクロジの大木からなぜ竹が生えているのか、周辺の観察やシカの影響について考えた。

最後にそれぞれの振り返りを共有して終了した。

■写真



春日大社境内の大杉



ささやきの小径にて。ナギの解説



飛火野の裏（芋畑）の風景



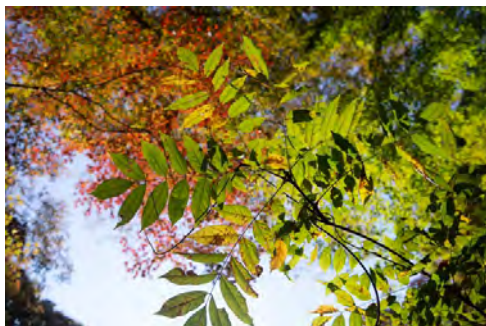
葉っぱを探して歩き回る



葉っぱのグラデーションづくり



葉っぱのグラデーションの感性



色とりどりの紅葉が見られた



飛火野から御蓋山・春日山を遥拝する

実施日：2022年12月10日（土）9:00～15:00

参加者：6名

学生：2名

教職員：杉山、阪本

学外参加者：7名

■実施場所：春日山原始林（滝坂の道、春日山遊歩道南部）

■第9回 春日山の石仏

概要：春日山原始林の南端を走る滝坂の道（旧柳生街道）は、かつて奈良の僧侶たちの行場であった。江戸時代に奈良奉行により普請され今も残る石畳の道を歩きながら時折現れる石仏を鑑賞します。

- 9:00 春日大社本殿バス停（春日大社国宝殿前）
- 9:10 春日大社境内・上禰宜の道
- 9:30 飛鳥中学校前にて飛鳥中教員と合流・挨拶
- 9:40 高畑から滝坂の道へ（旧柳生街道）
- 10:00 滝坂の道入口広場にて森を感じるアクティビティ（五感で感じる）
- 10:30 滝坂の道を歩き、石仏や自然を観察しながら移動
- 12:30 地獄谷新池にて昼食
- 13:00 春日山石窟仏を鑑賞
- 13:30 南部遊歩道を下りながら紅葉を楽しむ
- 15:00 終了・遊歩道南部入口にて解散

■概要報告

春日山原始林の南端となる滝坂の道を歩き点在する石仏の鑑賞を目的にフィールドワークを実施した。滝坂の道（旧柳生街道）は、江戸時代に奈良奉行が普請したと言われる街道で今も残る石畳には、轍（わだち）が残っている。また、ところどころで現れる石仏は、鎌倉・室町期のものであることなどを解説しながら歩いた。

また、五感で森を感じる体験として、森の中で目を閉じて、光や風の方向を感じたり、耳を澄まして音を聞くアクティビティを実施した。

石仏の鑑賞だけでなく、ところどころで春日山原始林で見られる特徴的な植物や動物の食痕、倒木更新の様子やシカの影響による現在の現状・課題についても解説を行いながら歩いた。

昼食後は、地獄谷新池から春日山石窟仏を見学。他の石仏よりも古い平安時代の石仏を鑑賞したのち、天然記念物の礎石と合わせて大乗院御陵山と記載された礎石も見学し、春日山周辺が興福寺による支配があったことを確認した。

下りとなる遊歩道では、春日大社の末社である高山神社の見学・解説のほか、美しい紅葉を愛でながらゆっくりと歩いて下った。途中、紅葉の葉を集めて、葉っぱジャンケンや葉っぱのグラデーションを作り、身近な植物を使ったアクティビティも実施した。

この日は、天候も良く、風も強くなかったため気持ちの良いフィールドワークとなった。

■写真



春日大社の簡単な説明



滝坂の道の入口にて森を感じる体験



滝坂の道入口、50年前との風景の違いを確認



切り株から森が更新している様子を確認



朝日観音



地獄谷新池でナンキンハゼの実を野鳥が食べる



春日山石窟仏



天然記念物礎石（左）と大乘院の礎石（右）



春日山遊歩道では紅葉が美しかった



葉っぱを使ったアクティビティ



イロハモミジの紅葉



ムクロジがたわわに実をつけていた。

令和4（2022）年度 近畿ESDコンソーシアム 学ぶ喜び・ESD連続公開講座 開催要項

1. 目的

新学習指導要領の前文および総則に「持続可能な社会の創り手」の育成が示されたことから、今後、全国の学校・園でESDの理念に即した学校教育が展開されていくと想定される。本公開講座は、学校教育の中核である学級経営や生徒指導、子ども理解や授業づくり、防災・減災教育、ESDなどについて、現職教員や教員経験者等、学校現場に詳しい方を講師に招へいすることで、学校教育やESDの実際について学ぶ機会として開催する。

2. 主催 近畿ESDコンソーシアム

3. 会場 奈良教育大学ESD・SDGsセンター 多目的ホール

※オンライン参加も認め、ハイブリッド開催とする

新型コロナの感染拡大状況によっては、ZOOMを用いたオンライン開催のみ

4. 開催時間 19時～20時30分

5. 開催計画

第1回 令和4年 5月17日（火）「ESD for SDGs への誘い～持続可能な未来を創る学びとは？」

講師：奈良教育大学 准教授 及川 幸彦 氏

第2回 令和4年 7月 5日（火）「チャンスを活かす Teacher's Life

～ESD との出会いとこれから～」

講師：愛媛大学 准教授 藤原 一弘 氏

第3回 令和4年10月27日（木）「教員生活を enjoy する秘訣」

講師：奈良市立朱雀小学校 教諭 中村 友弥 氏

第4回 令和4年11月 1日（火）「ESDを通して知った ～学びの楽しさ 人とのつながり～」

講師：平群町立平群中学校 教諭 井阪 愛子 氏

第5回 令和4年12月 9日（金）「手島流SDGsの授業に参加しよう」

～主体的・対話的で深い学びにつながる教科横断的な学びの創り方～

講師：前八名川小学校長 手島 利夫 氏

6. 参加者

近畿ESDコンソーシアム構成団体に所属する教員等

奈良教育大学の大学生・大学院生・教職大学院生

7. その他

- ・参加料は無料
- ・ESDティーチャープログラムのESD演習にカウントできる

- ◇日時 2022年5月17日(火) 19時～20時30分
- ◇方法 対面式とビデオ会議システム Zoom を使ったオンライン形式を併用したハイブリッド
- ◇会場 ESD・SDGs センター多目的ホール
- ◇参加者 対面 17名、オンライン 45名 計 62名

「ESD for SDGs への誘(いざな)い ～持続可能な未来を創る学びとは?～」

奈良教育大学 ESD・SDGs センター准教授 及川 幸彦氏

はじめに：持続可能な社会を創る学びとは? (by ユネスコ)

- ①知ることを学ぶ learning to know
知識の獲得の手段そのものを習得すること
- ②為すことを学ぶ learning to do
専門化した職業教育ではなく、様々実用的能力を身につけること
- ③ともに生きることを学ぶ learning to live together
他者を発見、理解し、共通目標のための共同作業に取り組むこと
- ④人間として生きることを学ぶ learning to be
個人の全き完成を目指すこと
- ⑤自分と社会を変えることを学ぶ learning to transform oneself and society
新しい価値を獲得し、コミュニティや社会に永続的に変化を生み出す



教員は希望を語るべき・・・だが、

「希望を語れる」現状ではない 持続不可能な社会

教員の責務は、子どもを守ること 今のままでは子どもの未来を守れない

持続不可能な地球・世界

- ・気候変動(温暖化)とその予測
「人間の仕業に間違いない!」
今後何の対策も取らないと、2100年には気温が最大 4.8℃上昇
これでは済まない可能性が・・・
今、世界は 1.5℃上昇に抑えようとしているが、
永久凍土が溶け出すとメタンガスが大量に噴出される 温室効果がさらにひどくなる
- ・度重なる自然災害(多発化、激甚化、広域化)
「災害列島日本」
今まで起こらなかったような地域でも、当たり前のように災害発生
- ・環境問題(海洋プラスチック問題)
2050年には海の魚の量を超える?
海があるかないかの問題ではなく、すべての地域でやるべき

奈良のように海がない地域こそ ごみを出さないようにすること

ごみを出すのは、内陸！外国！ だから内陸でこそ、この問題を見つめるべき

- ・世界の紛争や暴力の中での子供たち

差別や貧困の中で一番被害を受けるのは、社会的弱者（子供、女性、高齢者）

年間 520 万人の子どもたちが 5 歳前に死亡（6 秒に 1 人）

- ・相対的貧困率の国際比較と年次推移

子どもたち 7 人に 1 人、一人親では 2 人に 1 人が貧困状況

世界的に見てもかなり貧困が進んでいる 「ヤングケアラー」の問題も

貧困の連鎖 （親の経済的貧困→教育格差→低キャリア→社会的格差）

これが次の世代に連鎖する 貧困の連鎖と再生産

貧困の連鎖を断ち切る SDGs 「包摂的な社会」の実現 → ESD の原理・原則

- ・ジェンダーの格差

日本のジェンダー格差は 120/156 位で、先進国で最低レベル 特に政治分野で低い

男性であろうが、女性であろうが、適材適所であるべき

- ・いじめと児童虐待

児童虐待相談件数は年々増加 身体的虐待ともに心理的虐待が増加

SDGs がめざす世界

No one will be left behind 「誰も置き去りにしない」

それぞれにミッションを持たせるのが教育という見方も

そのミッションは時間とともに変わっていったいい

教育は「不易と流行」 ESD は「不易」（流行ではない）

テーマは何でもいい 目指すところは持続可能な社会の構築に変わらない

SDG4 だけをやればいいというわけではない

ESD とは……様々な問題を自らの問題として主体的に捉え、

身近なところから取り組み、

新たな価値観や行動等の変容をもたらし、

持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動。

ESD の実践を通して、

習得された知識、技能、価値観を行動変容に生かすことが、

持続可能な社会を実現するための目標である SDGs の達成につながる。

ESD の教育的価値：2 つの側面

①ESD に取り組むことによって「教育の質が向上する」

→ ESD の「E=教育」を重視する視点

②「教育が持続可能な社会づくりに貢献する」

→ 「SD=持続可能な社会の創造」を強調する視点

この両輪の連結こそが ESD を特徴づけるものであり、ESD、すなわち「持続可能な社会を創る教育」の価値を示すもの

ESD と他の教育との違い 「〇〇教育」とよばれる他の教育はその内容を学ぶ
ESD は、「for」が重要 持続可能な開発の「ための」教育 根本的に違う

これからの ESD の方向性：ESD for SDGs

最低限 SDGs を達成しなければ！

SDGs への多角的・連環的アプローチ

一つの目標にとどまらない 様々な目標と自然につながるはず
つなげて考える トータルに考えることが大事

学習指導要領に ESD の理念が入る → 学校教育の本丸になった（20 年かかったが）

「生きて働く知識・技能」「未知な状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」

「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」

これは ESD そのもの

知識・技能…「ESD 的知識・技能」

思考力・判断力・表現力…「ESD 的探究・問題解決」

学びに向かう力…「ESD 的価値観と行動」

探究的な学びを紡ぐ：ESD のストーリー化と構造化

- ・気仙沼市 「環境未来都市プロジェクト」 東日本大震災の教訓を生かした ESD
- ・竹富町 地域の豊かな自然を生かした ESD 地域の伝統文化を生かした ESD
- ・只見町 森・川・海をつないだ ESD
- ・大牟田市 SDGs 達成を目指した ESD

【質疑応答から】

Q：昨年一年間、大学の支援を受けて防災の取組を行ったが、SD ばかりで参加者が固定され、なかなか広がっていない。何かアドバイスがあれば。

A：防災は一方通行ではだめ。支援を通して何を感じ、何を学んだかが大事。それを発信することで、共感した人が活動に参加するのでは。ボランティアは双方向であるべき。復興ボランティアに行くユースに交通費を出そうというのは、ボランティアを通して得る大きな学びがあるからだと思っている。



- ◇日時 2022 年 7 月 5 日（火）19 時～20 時 30 分
- ◇方法 対面式とビデオ会議システム Zoom を使ったオンライン形式を併用したハイブリッド
- ◇会場 ESD・SDGs センター多目的ホール
- ◇参加者 対面 19 名、オンライン 22 名 計 41 名

「チャンスを活かす Teacher's Life ～ESD との出会いとこれから～」

愛媛大学教育学部 准教授 藤原 一弘氏

勉強会や研修会を起ち上げる 「愛大・ESD ラボ」

【愛媛県で勤めている奈良教育大学卒業生の言葉】

奈良教での学び、学びが今に役立っている点を聞いてみた
ユネスコクラブでの経験

「ESD を学んだことは私の生き方に影響を与えている」
「もっと学んでおけばよかった」と思うことがあります。



ライフヒストリー曼荼羅

第 1 章（学生時代～大阪教員時代）

生きることの大切さを実感 今、充実していますか？ 生きる喜びを感じていますか？

阪神・淡路大震災を経験

本当は高校教員を目指していたが、結局小学校教員になった（愛媛も受験したが叶わなかった）
部活か何かをしたかった → 「やりたいから作つたれ！」 バレーボールクラブをつくった
手書きで学級通信（こだわり）

自分の中で風化させない 伝え続けることの大切さ → 震災の経験を道徳自作教材に

第 2 章（松山小学校教員時代）

ESD と出会う

ドッジボールクラブをつくる 4 年で全国大会出場

松山市の小中学校教育活性化で表彰される

人の格好してるけど…

下に国旗が・・・
モザンビーク？



これ、いったい何だと思えます？

モザンビークの「武器アート」

モザンビークにおける平和構築活動 「武器をアートに」

「銃を鋏へプロジェクト」 集めた銃をアートにする

総合的な学習の時間（6年）を変えたい！ 私がつまらないと思ってしまった

国際理解…留学生を呼んで日本文化を伝える その国のことを紹介してもらう

こんな総合って・・・？

竹内よし子さん（えひめグローバルネットワーク）との出会い

たまたま電話に出たら・・・

「いっしょに国際理解の授業をしませんか？」

松山市立新玉小学校での実践「平和な世界のために私たちができることは？」

放置自転車などの地域の課題を収集

モザンビークの現状を知る 自転車をモザンビークへ！

街の課題と世界の課題をクロスさせる

募金集め、交流活動、支援活動（いらなくなった文房具なども）

→ 自分たちのやったことがどうなったのか、現地の様子を確認する

身近な課題と世界の課題がつながっていることを実感でき、相手の反応が返ってくる

変化・変容が可視化できるカリキュラム

すばらしい実践をして、「いいものは自然と残る」いう人もいるが・・・

自分のESD実践をブラッシュアップ・整理・深化するために大学院に進学

新玉小学校が、四国の小中学校では初のユネスコスクールに登録

フルブライトのアメリカ教員研修に参加

モザンビークへ行ってみる 子どもたちからの支援物資を預かって持っていった

武器アートはこのときもらったもの

新玉小学校では、今もモザンビークとの交流、学習が続いている

もちろん、そのまま継続しているのではなく、毎年活動を更新しながら

第3章（中学校教員・市教委時代）

鴨川中学校 キャラクター「かもも」誕生！ どうせならゆるキャラに

誰も持ちたがらない3年学年主任 卒業式のプレゼントは200人分のメッセージ

教育委員会では生徒主事担当に 毎月10日は「まつやま いじめ0の日」

電話に出るのがいやに

第4章（大学教員として）

退路を断つ 子どもと関われない 戻りたい、でも戻れない だから今がある

ESDを四国に！

（最後に）

・学び続ける、強い意志、こだわりを持つ

・何があってもおもしろがる ピンチはチャンス

・ESDとの出会いを大切に 自分を成長させてくれる。教育実践の質が向上する。

つながりが大きな輪になり、うねりになる。

- ◇日時 2022 年 10 月 27 日（木）19 時～20 時 30 分
- ◇方法 対面式とビデオ会議システム Zoom を使ったオンライン形式を併用したハイブリッド
- ◇会場 ESD・SDGs センター多目的ホール
- ◇参加者 対面 9 名、オンライン 33 名 計 42 名

「教員生活を enjoy する秘訣」

奈良市立朱雀小学校 中村友弥氏

1. 自己紹介

奈良教育大学出身 2009 年奈良市立飛鳥小学校に勤務 現在教職 14 年目
ESD スペシャリスト
奈良市ラグビー協会理事 タグラグビー
NIE アドバイザー

2. 教育現場の現状

教員志望者の減少 教員数の減少（圧倒的に教員が足りていない）
優秀な教員の退職
新しい学び コロナ対策 多様化する児童のニーズ など
奈良市では ICT に力を入れている 「奈良市 ICT ポータルサイト」

本校では昨年度から教員が 1 名足りない状況が続く

コロナで教員が休まざるを得ない

数か月ほどは、2・3 名いない日も 自分は 6 年生担任なのに卒業式に出られなかった

教員の魅力…子どもの人間形成に深く関わることができる

子どもとともに教員も日々成長できる喜び

子どもの成長につくことができる喜び

子どもの喜怒哀楽を共有する喜び

以上のような喜びは、他の仕事にはなかなかない

3. 秘訣

① 「帰宅の刃 無限残業」

学校の働き方改革への取組状況

少しずつ残業する先生が減ってきている

しかしながら、休養時間が不足している 自己学習時間が不足している

スキル習得の時間…先輩、同僚から児童やや保護者への接し方などは学んでいることが多い

教科の指導法などは研修会やインターネットから学ぶことが多い

教員としての力量を高める場を自らもつこと

長期的な見通しをもつこと

定時に帰ることはいいことだが、その後の時間の使い方が大事だと感じる

② 「背後を取られたやつが悪い」

スキを見せたら自分が悪いということ

アンテナを張る力 気づく力 … 学級経営に生かされる

アンテナを広げ、気づく力をつけること

当事者意識をもつこと

人のせいにしないこと

「置かれた場所で咲きなさい」

子どもは親や教師の「言う通り」にならないが、「する通り」になる

子どもに何か伝えるのに言葉はいらない

どんな所に置かれても花を咲かせる心を持ち続けよう

境遇を選ぶことはできないが生き方を選ぶことはできる

③ 「それいけ キャンプ！」

I C T活用で便利になった面は大きいのだが・・・

校務支援システムの4月当初の設定は教頭や教務の仕事で、いやになることがある

→ リフレッシュしたい 自分場合はキャンプ

リフレッシュする機会や時間をもつこと

働くことは素晴らしいが、仕事の奴隷になってはならない

④ 「担任の名は。」

2学期から休業する3年生の代わりの担任に

学級懇談の自己紹介をどうするかで真剣に悩む

自分自身が楽しみを見つける 流行や旬を取り入れる

楽しいことを自らすこと

⑤ 気づいたら理事だった件

学生時代は野球部（ピッチャー） そんな人間がラグビーに出会う

鬼ごっこができればやれる競技 個人差や男女差が顕在しにくい運動 豊かな運動量

補欠がない 「誰一人取り残さない」スポーツ（SDGs）

教員としての強味をもつこと

学校以外で所属すること

4. 伝えたいこと

いい授業をしたい すばらしい先輩教員みたいになりたい

みんなといっしょに楽しみたい 授業者として子供の成長を支えたい

先輩がしてくれたように後輩に伝えていきたい

ESDが教員生活をenjoyする秘訣

- ◇日時 2022 年 11 月 1 日（火）19 時～20 時 30 分
- ◇方法 対面式とビデオ会議システム Zoom を使ったオンライン形式を併用したハイブリッド
- ◇会場 ESD・SDGs センター多目的ホール
- ◇参加者 対面 12 名、オンライン 26 名 計 38 名

「ESD を通して知った ～学びの楽しさ 人とのつながり～」

平群町立平群中学校 井阪愛子氏

○教職大学院で再び大学で学ぶようになって、「学ぶ楽しさ」を知った。

1. ESD との出会い

大学院入学オリエンテーションで、

「ESD の理論と実践」を履修するとよいでしょう・・・小さな一文から
中澤研究室を開ける勇氣
新しい教育をどうしても学びたいという思い
家族の賛成、同僚の応援

2. 大学院生だからこそできること

自分のやりたいことに挑戦 学生だからこそできる

- ・勤務校の梅の木…立派な梅の実ができる 梅干しをつくろう
町の食生活改善推進委員会の方に協力を願う 自分から声をかけるとやってくれるんだ！
論文「ESD との教材としてのウメ・梅干し」（岩本廣美氏） アポを取って会う
一つのメールから、いろいろな人につながっていった
- ・調子に乗って娘の学校でも…
「どうせ梅の実を何もしないんだったら、いっしょに梅干し作りませんか？」



学びの楽しさ 人とのつながり

授業は教師も楽しいものでありたい

既存のコンテンツ知識を伝えるだけが授業ではない。

→ 知識を使って探求することが大事

3. 評価について

大学院では学習評価を学んでいる

探究する学習とは → パフォーマンス課題（確かな学力が育成され、深い学びにつながる）

日常生活に近い文脈・状況を設定している ESD そのものではないのか

パフォーマンス課題の評価にはループリックを使うことが一般的だが、ESD とループリックの
親和性は？

「ESD は教育の目的であって、目標ではない」

目的は評価できない

4. 価値観について

一人一人のイメージが違う（目的は方向性とも言える？）→ 価値観の違い 文化の違い

価値観の違いはあって当然 価値観の強要はしない

感性やソマティックマーカーの高まりを評価する ルーブリックの限界

<例>和服の文化は受け継がなければならないのですか？

学習前 YES 1組 25人 2組 15人 後から分析したらその理由は抽象的

NO の理由の方が具体的（自分事）

「和服の価値を調べてみよう」 和服によさは分かったが、私は受け継ごうとは思いません。

「私は～だから継承したいなあって思うんです。」

「じゃあ、先生、まず着てみてください！」

～ には

それは外国の人にも通用するものなのか

生徒にも着物を着てもらってみる

価値は生徒自らで気づいて自分自身のものにする

・・・長期的な計画



5. 私の ESD が目指すものとは？

ESD を通して、自分自身の身近な大切なことに気づき、そこから視野や考えを広げていく

（質疑）

・井阪先生が思われる ESD と家庭科の親和性は？

「よりよい生活」とは・・・一人一人違うことを考えるところ

・ESD と家庭科をつなごうとするのではなく、家庭科をしながら自然と ESD になっている

・人とつながる秘訣は？ どんどんいろんな人に声をかけていくことは大事

第 5 回学び喜び・ESD連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時 2022 年 12 月 9 日（金）19 時～20 時 30 分

◇会場 ESD・SDGs センター多目的ホール

◇参加者数 会場（27 名）、オンライン（40 名）

◇内容

「手島流 SDGs の授業に参加しよう」

講師：江東区立八名川小学校前校長 手島利夫 氏

1. どのような教育の中で育ってきたのだろうか

○問題を発見し、その問題を解決のために学ぶ：

問題発見・解決 主体的な学び

○対話的：納得解を探す・対話

・正解がある授業 基礎基本

・学級には「できるやつ」がいて、順位は変わりにくかった：

学力の観点だけで評価

アンケートより

エコに関する授業も先生から与えられた課題をこなすことが目的

エコに関する理解が深まったわけでもなかった



2. 主体的・対話的な学び

・昭和の時代（工業化・画一化・生産性・学力神話）までの学びと平成（IT 革命、超グローバル化）からの学びは大きく違う

・平成 10 年公示学習指導要領：「ゆとりの中で生きる力を育む」：

・新しい時代の教育を作ろうとしていた

・OECD の学力調査（2006 年でやや下がる）：学力低下批判

各教育委員会の方向性が「学力向上」に変更（昭和時代の学力に逆戻り）

→「IT 化・グローバル化した世界で生きる力を育む」ことが大切

○主体的・対話的な学習過程とは

調べ学習：調べる→まとめる・実行する→伝え合う

重要なのは「学びに火をつける」こと

①問題に気付かせる、②火をつける、③テーマを決める

基本的な事実と感動的に出会う

学ぶ心に火をつける（疑問がうまれる）

家族へのインタビュー 消費者側

販売者へのインタビュー

学習問題を明確にする 疑問が生む手掛かりを提示する

SDGs の学びなら「自分も何かやりたくなった」

SDGs は危機の克服だ

この時間のテーマは「克服」だ

縄文時代は縄文海進 大型獣が少なくなり食料不足の時代に それを救ったのが土器

木の実の渋抜き 貝をゆでる、保存食にする、スープをつくる
食料不足以外に克服してきたもの

・感染症、津波、地震、台風、紛争、

「〇〇克服物語」をつくる

「冬の寒さ克服物語」

・火を起こして暖をとる、服を重ね着する、他の人とくっつく、
風よけの洞穴を探す

暖かいものを食べる、野獣の毛皮を身に付ける、

そのために木を集める、火打石を集める

→ 仲間の書いたストーリーを詠んでサインを集める

〇〇克服物語は誰のためになったのかな？

個人のしあわせにつながった？

みんなのしあわせにつながった？

今まであった世界をよりよいものに変える

出発点は「問題に気付く力」

この世界で克服にむけて取り組むべき課題は何だろう

それは SDG s の何番と関係があるかな

例えば

・エネルギーを再生可能にする ⑦

・食料生産を増やす ②

・温暖化を改善する ⑬

・ゴミの量を減らす ⑫

・生き物を大切に ⑭・⑮

・戦争をなくす ⑯

→ それをカードに貼りに行く



SDG s ⑭ 海のごみのことを書いたカードが多い ← つくる責任・使う責任

他にもあるよ サンゴ礁の白化 — 海の温暖化（海水温の上昇）

海水の酸性化、台風の強大化、魚の採りすぎ、絶滅危惧種

「子ども」に世界を変える力があるのか マララさん、坂口くり果さん、グレタさん
大事なことは

「問題に気付く力」そして「学び、判断し、取り組む力」それから、「人をも動かす、表現力・
実践力」

個、グループワーク、全体交流の組み合わせ

学ぶための場をつくる

学びをつくるのは子ども自身

令和4（2022）年度 近畿 ESD コンソーシアム総会 開催要項

1. 目的

近畿 ESD コンソーシアムでは、近畿圏を中心にユネスコスクール等への支援、及び ESD の推進を図っている。本コンソーシアム活動の一環として、構成団体間の情報交換と目的意識の共有、ESD に関する研修を目的として、下記の通り、総会を開催する。

2. 開催日時 令和4年7月9日（土）13時30分～17時10分

3. 方法 Zoom を用いたオンライン会議

4. 内容

13時30分～13時40分 開会行事：挨拶 近畿 ESD コンソーシアム会長 宮下学長

13時40分～14時00分 出席者の自己紹介

14時00分～14時30分 令和3年度近畿 ESD コンソーシアムの事業報告

14時30分～15時00分 令和4年度近畿 ESD コンソーシアムの事業計画の説明

15時00分～15時30分 情報交換（各構成団体より）

15時40分～17時00分 公開シンポジウム：「ESD と防災」

シンポジスト：奈良教育大学 ESD・SDGs センター准教授 及川幸彦 氏

NPO 法人 SEEDS Asia 事務局長 大津山光子 氏

橋本市立あやの台小学校教諭 中谷栄作 氏

モデレーター：奈良教育大学 ESD・SDGs センター長 中澤静男 氏

17時00分～17時10分 閉会行事：挨拶 近畿 ESD コンソーシアム運営委員長 中澤静男

(問い合わせ)

〒630-8528 奈良市高畑町

奈良教育大学 教育研究支援課 ESD 担当事務：山本・西田・藤田

E-mail：k-soumu@nara-edu.ac.jp

TEL 0742-27-9367 / FAX 0742-27-9147

2022年度 近畿 ESD コンソーシアム成果発表会・実践交流会開催要項

1. 目的

学習指導要領の前文に「持続可能な社会の創り手」を育成することが明記されたことより、全国の幼稚園、小中学校、高等学校で ESD の理念に基づく教育活動が展開されつつある。また、持続可能な開発目標（SDGs）への関心が企業や NPO などの生涯教育において高まってきており、学校教育・生涯教育および企業等においても、質の高い教育活動が求められることから、構成団体メンバーの意欲向上と活動の質的向上、また ESD の普及を目的に開催する。

2. 主催 近畿 ESD コンソーシアム、奈良教育大学

3. 後援 ASPUniv.Net、ESD 活動支援センター、近畿地方 ESD 活動支援センター

4. 開催日時

2022 年 12 月 25 日（日）9 時 50 分～17 時 20 分

12 月 26 日（月）9 時～13 時

5. 会場（対面式）

12 月 25 日（日）：奈良教育大学 奈良教育大学本部・大会議室等

12 月 26 日（月）：奈良教育大学 奈良教育大学本部・大会議室等

6. 日程

【12 月 25 日（日）】

9：30－9：50 受付（奈良教育大学本部）

9：50－10：00 開会行事：管理棟大会議室

全体司会：阪本さゆり氏（奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究部員）

挨拶：宮下俊也氏（奈良教育大学学長・近畿 ESD コンソーシアム会長）

挨拶：原文絵氏（文部科学省 国際統括官付 国際統括官補佐）

10：00－12：00 ESD 子どもフォーラム（発表 20 分＋講評・移動 10 分）

司会：中家麻弥さん、山平楓さん、東瑞さん（ユネスコクラブ）

①橋本市立高野口小学校

②奈良教育大学附属中学校

③奈良女子大学附属中等教育学校

④大津市立仰木の里小学校

講評：原文絵氏（文部科学省 国際統括官付 国際統括官補佐）

柴尾智子氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

宮下俊也氏（奈良教育大学学長・近畿 ESD コンソーシアム会長）

※参加者数が多い場合は、別室にてオンラインで見学していただきます。ご了承ください。

12 : 00－13 : 30 昼食休憩

13 : 30－15 : 30 ESD 実践交流会 I（発表 20 分＋質疑 10 分）

【第 1 分科会】（管理棟大会議室）

司会：奈良市教育委員会 三木恵介氏

- ①福岡： 大牟田市立中友小学校 庄山優香氏
- ②鹿児島：屋久島町立安房小学校 窪田あずさ氏
- ③熊本： 菊池市立七城中学校 西田拡人氏
- ④奈良： 田原本町立田原本小学校 中本篤志氏

【第 2 分科会】（連携教育開発センター大会議室）

司会：橋本市教育委員会 木下豪人氏

- ①福岡： 福岡市立田隈小学校 遠入哲司氏
- ②山形： 山形市立千歳小学校 阿部大輔氏
- ③企業： 大和ハウス株式会社 池端正一氏
- ④和歌山：橋本市立清水小学校 前田美紀氏

【第 3 分科会】：（ESD・SDGs センター多目的ホール）

司会：彦根市教育委員会 木里聡氏

- ①愛媛： 四国中央市立三島南中学校 濱崎千華氏
- ②沖縄： 南風原町立南風原小学校 屋良真弓氏
- ③行政： 環境省吉野管理官事務所 鶴飼匠太氏
- ④奈良： 奈良教育大学附属小学校 入澤佳菜氏

15 : 45－17 : 00 ESD 講演会：大会議室

「ホールシティによる ESD/SDGs の推進とその戦略」

前大牟田市教育長 安田昌則氏

奈良教育大学 ESD・SDGs センター准教授 及川幸彦氏

※参加者数が多い場合は、別室にてオンラインで見学していただきます。ご了承ください。

17 : 00－17 : 20 閉会行事

講評：柴尾智子氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

長友恒人氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

挨拶：中澤静男氏（奈良教育大学 ESD・SDGs センター長）

【12月26日（月）】

8:40ー9:00 受付（奈良教育大学本部）

9:00ー10:30 ESD 対談シンポジウム：管理棟大会議室

「ESD への期待と展望 ～ESD ティーチャープログラムを通して～」

沖縄会場：琉球大学 大島順子氏

松山会場：愛媛大学 藤原一弘氏

菊池会場：菊池市教育委員会 音光寺以章氏

屋久島会場：屋久島町教育委員会 下之蘭 崇氏

講評：長友恒人氏（外部評価委員）

司会：大西浩明氏（奈良教育大学 ESD・SDGs センター特任准教授）

10:40ー12:40 ESD 実践交流会Ⅱ（発表20分＋質疑10分）

【第4分科会】（管理棟大会議室）

司会：橿原市教育委員会 葛本雅崇氏

①沖縄：南城市立玉城中学校 新城菜々子氏

②福岡：福岡市立元岡小学校 山本隆一氏

③愛媛：宇和島市立明倫小学校 西原睦美氏

④奈良：奈良市立東登美ヶ丘小学校

山本達也氏、西村翔氏、早川知奈美氏、島田歩実氏

【第5分科会】（ESD・SDGs センター多目的ホール）

司会：及川幸彦氏（奈良教育大学 ESD・SDGs センター准教授）

①鹿児島：屋久島町立永田小学校 吉富祐子氏

②熊本：菊池市立菊池南中学校 大塚大志氏

③奈良：奈良市立平城西小学校 樋口大介氏

④奈良：奈良教育大学ユネスコクラブ 川田大登さん、木下結等さん

【第6分科会】：（連携教育開発センター大会議室）

司会：河本大地氏（奈良教育大学社会科教育講座准教授）

①山形：山形県立高畠高等学校 佐藤崇之氏

②愛媛：新居浜市立別子中学校 池田光希氏

③福岡：大牟田市立歴木中学校 原好亮氏

④奈良：奈良教育大学附属中学校 佐竹靖氏、加々見良氏

12:50ー13:00 閉会行事

講評：柴尾智子氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

長友恒人氏（近畿 ESD コンソーシアム外部評価委員）

挨拶：加藤久雄氏（奈良教育大学顧問・ESD・SDGs センター特任教授）

令和4年度 陸前高田市文化遺産調査団 参加学生募集

本学では、2012年度より東日本大震災被災地支援の一環として、毎年陸前高田市で文化遺産調査を行ってきました。この間、仏像胎内からの墨書の発見や陸前高田市と小笠原諸島との関連についての発見だけでなく、文化財に関する教材作成や、仮設住宅訪問や子どもを避難誘導された現職の先生からの聞き取りなどから学び、防災教育に関する報告書や教材作成を行ってきました。コロナ禍で2年間中止となりましたが、今年度はESD文化遺産教育・ESD防災教育について研究・実践する機会として実施します。

1. 実施月日 令和4年9月7日（水）～10日（土） 3泊4日

※ただし、コロナウイルス感染拡大状況によっては、急遽中止となる可能性もあります。

2. 派遣先 岩手県陸前高田市方面

3. 活動内容

- (1) 陸前高田市の文化財調査
- (2) 防災教育：被災地見学、被災者へ聞き取り 等
- (3) 報告書、ESD教材の作成



4. 引率教員 山岸公基（美術教育講座）、加藤久雄（ESD・SDGs センター）
大西浩明（ESD・SDGs センター）



5. 募集人数 学部生、大学院生、教職大学院生のうちから6名程度

6. 応募方法と期間

参加希望者は、下記 URL、または QR コードより参加希望申込書をダウンロードし、作成してください。
教育研究支援課 西田 k-soumu@nara-edu.ac.jp まで、6月17日（金）12時までに送付のこと。
https://kinkiesd.xsrv.jp/wp-content/uploads/2022/05/rikuzentakada_application-form_2022.xlsx

7. 参加者の決定について：申込書の記載内容をもとに面接を実施し、決定します。

面接日 令和4年7月6日（水）14時～

面接会場：ESD・SDGs センター会議室

※なお、正当な理由があり面接に参加できない場合は、日程調整のうえ予備面接を行うことを予定しています。



8. その他

- ・ 交通費と宿泊費は、大学で負担します。（但し、後日振込になるので、立て替え払いしてもらいます）
- ・ 食費や拝観料・見学科などは自己負担です。
- ・ 事前学習会を2回程度開催します。（陸前高田市史、防災教育についてなど）
- ・ 全員に報告書作成、ESD教材開発、2月ごろに予定している実践交流会への出席、及び発表を担当してもらいます。

令和4年度 陸前高田市文化遺産調査概要報告

ESD・SDGs センター 大西 浩明

1. 目的

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災及び大津波により、陸前高田市をはじめとする岩手・宮城・福島三県の太平洋岸は大きな被害を受けた。陸前高田市では市民の約 1 割にあたる人命が失われたほか、市の重要施設が被災し、多くのものを失ってしまった。しかし、幸いにも高台にあった寺の仏像は被災をまぬがれた。この仏像等の文化遺産を調査し、その価値を明確にすることが、陸前高田市や周辺市町村の市民を元気づけることになると考え、2012 年度より 8 回にわたって本調査団を派遣してきた。この間、文化財調査やそれをもとにした教材作成を進めるとともに、被災地の復興状況を視察し、被災された方からの聞き取りやボランティア活動などを通して、ESD の理念に基づいた防災教育に資する教材作成を行うなど、大きな成果を得てきた。しかし、2020 年度より 2 年間はコロナ禍によって中止を余儀なくされた。本年度は、これまでの成果をさらに深めるため、本調査団を組織し実施する。

2. 実施日 令和 4 年 9 月 7 日（水） ～ 10 日（土）

3. 参加者 学部生 : 広野祥子、川田大登、木幡美幸

大学院生 : 笠置千尋、辰上亜弥子

教職大学院生 : 井阪愛子

大学教員 : 山岸公基、加藤久雄、大西浩明

4. 宿泊地 民宿吉田（陸前高田市米崎町松峰 110-5）

5. 日程・活動

	文化遺産班	ESD 防災班
7 日	・多賀城跡、多賀城碑見学 ・多賀城廃寺跡見学 ・普門寺打合せ	・東日本大震災津波伝承館見学 【陸前高田市気仙町土手影 180】 ・一本松、気仙中学校跡等周辺の震災遺構見学
	・陸前高田市教育委員会表敬訪問 【陸前高田市高田町字下和野 100】	
8 日	・普門寺調査 【陸前高田市米崎町地竹沢 181】	・市立博物館副主幹 佐藤由也氏より講話 （前市民協働部長） 「陸前高田市の復興状況と地域コミュニティづくりについて」 @陸前高田市立博物館 【陸前高田市高田町字並杉 300 番地 1】 ・市立図書館長 菅野義則氏より講話 （元小学校長） 「防災教育と復興教育について」 @陸前高田市立図書館 【陸前高田市高田町字馬場前 89-1】

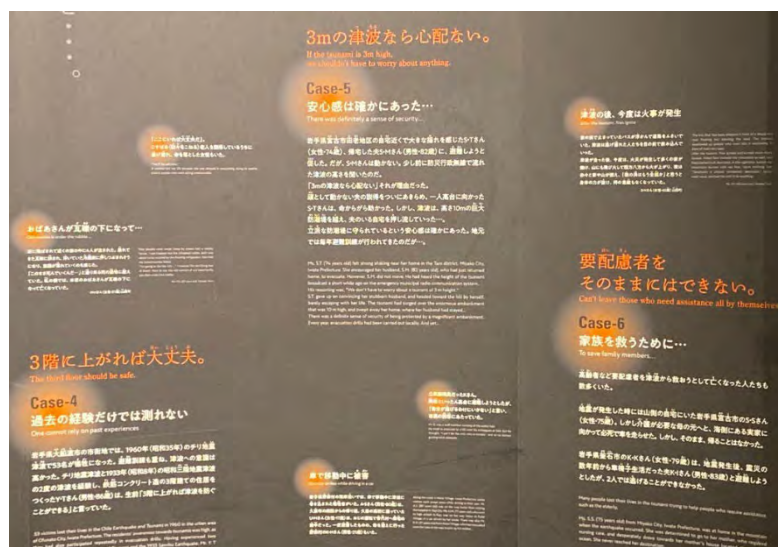
	文化遺産班	ESD 防災班
9 日	・ 普門寺調査 【陸前高田市米崎町地竹沢 181】 ・ 東日本大震災津波伝承館見学 その他、周辺の震災遺構見学 ・ 常膳寺見学	・ 仮設博物館の見学・講話 「被災資料の復元状況などについて」 市立博物館長 松坂泰盛氏 @陸前高田市仮設博物館 【陸前高田市矢作町二田野】
		・ 旧吉田家住宅主屋復旧状況見学 【陸前高田市気仙町】 教育委員会副主幹 佐々木敦美氏 文化財係学芸員 曳地隆元氏 ・ 市内震災遺構（津波石碑）見学等
10 日	・ 藤里毘沙門堂見学 【奥州市江刺区藤里字智福 39】	
	・ 豊田館跡想定地見学 【奥州市江刺岩谷堂下苗代字餅田】	
	・ 岩手県立平泉世界遺産ガイドセンスンター見学 【平泉町平泉字伽羅楽 108-1】	
	・ 中尊寺見学 【平泉町平泉衣関 202】	
	・ 毛越寺見学【平泉町平泉字大沢 58】	

◎ESD 防災班の今回の調査目的

ESD 防災班の学生（川田、木幡）はいずれも中学校教員を目指しており、教職大学院生（井阪）は現職の中学校教員であることから、現在の中学校における防災・減災教育のあり方を批判的に見つめ、真に自分ごととなり得る防災・減災教育はどうあるべきか、どのような資質・能力を生徒の身につけておかなければならないのかを、震災時または震災後の被災地の取組に学び、奈良の地から提案しようとするものである。

・東日本大震災津波伝承館（いわて TSUNAMI メモリアル）の見学から

当施設は、「歴史をひもとく」「事実を知る」「教訓を学ぶ」「復興を共に進める」という4つのゾーンからなっており、被災した実際の物、被災現場をとらえた写真、被災者の声などを展示しているだけでなく、津波のときの人々の行動をひもとくことで命を守るための教訓を共有しようとしている。特に、



人々がそのときどのように考え、どんな行動をとったのかというところに全員が大きな興味をもった。

「3 mなら大丈夫」、「3階に上がれば大丈夫」といった、それまでの自分の経験から「正常化のバイアス」が働いたであろう人々の言葉が数多くあり、そうならないためにはどのような教育内容が必要なのかを考えさせられる展示が多くあった。

当時、人々はどう思ったのか？

・津波伝承館周辺の震災遺構の見学



道の駅 タピック 45



気仙中学校跡



ユースホステルと
奇跡の一本松

いずれも津波の威力のすさまじさを感じざるを得ない。特に、津波の高さには圧倒される。「道の駅タピック45」の最上部、気仙中学校の屋上部分まで津波が来たということを、実際に目の当たりにして、そのすごさに改めて恐怖を感じてしまう。

この周辺を歩くと、新たに高さ12.5mの防潮堤が完成し、気仙川にも大きな水門が完成していた。かさ上げも終わり、町は復興しつつある段階だが、いかにハード面は整備されても、大切なのは人々がそのときにどのように行動するのかというところの一点である。その意味からも、今回のESD防災班が取り組もうとしている「自分ごとになる防災・減災教育」というテーマは、どこの地域においても大切な視点であり、汎用性のあるものである。

・講話「陸前高田市の復興状況と地域コミュニティづくりについて」から

前市民協働部長でもある佐藤由也氏より、陸前高田市における震災による被害状況や、その後の復興の経過等についてお話をいただいた。震災の検証作業で得られた反省と教訓として、次の6点を挙げておられた。

- 1) 避難が何より重要
- 2) 避難所に逃げたら終わりではない
- 3) 公的な役割を持つ者の安全の確保
- 4) 災害に強い安全なまちづくり
- 5) 社会的弱者も安全に生活できる社会の実現
- 6) 防災の心得

この中で、6) 防災の心得として、

ア 災害への備え

- ・自然災害を完全に防ぐことは不可能
- ・災害に備えることで被害を軽減することは可能

イ 防災教育の充実

- ・津波の恐ろしさや避難文化の伝承



佐藤由也氏の講話

・住宅再建に伴う自主防災組織の再編・強化

とお話しされていたが、「避難文化の伝承」ということについては、津波だけでなくどこの地域においても地震や水害、土砂災害などの危険性はある、歴史をひもとくと何かしらの伝承が残っていたりするものであり、示唆に富む内容であった。

また、講話後、11月に開館予定の市立博物館の展示について説明を聞いた。展示の一つに、「津波を伝える」コーナーがあり、明治三陸津波、昭和三陸津波、チリ地震津波のそれぞれの教訓からこの地の人々が津波に対してどのような認識を持っていたのかがよく理解できた。しかし、それでも今回の津波で大きな被害を出してしまったという事実から、いかに避難文化の継承が大切か、実践的かつ継続的な防災教育が必要かを感じた。

・講話「防災教育と復興教育について」から



菅野義則氏の講話

高田小学校長でもあった市立図書館長の菅野義則氏より、津波襲来時の学校の様子や震災後の学校の様子などについてお話をいただいた。震災当時、教育委員会に籍を置かれていて、地震があったときに市役所から外に出て、学校の様子を見るため下に降りて行ったところ津波が来ていることに気づき、慌てて引き返したというお話をされた。「人間というのは、分かっているにもかかわらず正しい行動がとれない」と、自責の念とともに話された言葉が印象的であった。また、その後の避難の状況について市内の3校を例にお話いただいた。

さらに、陸前高田市における防災教育について、市教育委員会が作成した「明日のために」と題した防災副読本をもとに説明していただいた。また、復興教育としての取組の中で、子どもの心のケアについてのお話があった。要サポートの児童生徒の割合が、沿岸部の児童生徒の方が内陸部の児童生徒より多いのは、震災における影響がまだまだ尾を引いていることがうかがわれる。

・陸前高田市教育委員会表敬訪問



市議会開会中にも関わらず、山田市雄教育長から調査団への激励の言葉をいただくとともに、教育長自ら9階展望ルームからの市内の説明をしていただいた。

・陸前高田市立仮設博物館の見学から

被災したのは人や建物だけではなく、文化財も同じである。震災時、市立博物館などに展示・収納されていたもののうち、約46万点の被災資料の安定化処理が、旧生出小学校に設置された仮設博物館で行われている。救出された資料は、いずれも陸前高田市の自然・歴史・文化を伝える貴重な資料ばかりで、玄関に掲げられている「文化財の残らない復興は本当の復興ではない」というスローガンそのまま、職員の方々の懸命な作業によって一つ一つの資料を甦らせようとされていた。



玄関にかかっているスローガン



修復作業の様子の見学

博物館長の松坂泰盛氏より作業の概略を説明していただいた後、実際の作業現場を見学させていただいた。例えば、古文書ならばいったん紐解いて一枚一枚の汚れを取り、油脂とり、漂白、洗浄、乾燥を何度も重ねて元の状態に戻すという大変な作業である。

処理の終わったものから新博物館への運び出しも始まっていたが、相当な数なのですべては移転されないようである。全体の70%あまりの修復が終わったが、残っているものは大きいものや修復作業の難しいものばかりだそうで、これからまだ何年かかるだろうということであった。

・旧吉田家住宅主屋復旧状況見学から

吉田家住宅は、江戸時代に仙台藩領気仙郡（現在の陸前高田市、住田町、大船渡市、釜石市唐丹）の24箇村を治めていた大肝入吉田家の住宅である。後に「大庄屋」と呼ばれ、主屋は東側の表門側に座敷3室を設け、北側には広い土間部の御臺所があり、それらの間を広い居間部でつないだ大規模な茅葺の建物であった。津波によって全壊し、座敷廻りは屋敷の西側に約100メートル、茅葺屋根は諏訪神社を回った旧気仙小学校側に約300メートル流出した。土蔵や味噌蔵などは屋敷の西側に流出し、流された跡地には近在の建物の部材が散在していた。

復旧にあたっては主屋を復旧することを第一とし、回収された残存部材をできる限り活用する方針で、その数は全体の6割程度の1000本を超えている。しかし、実際に使おうと思えば、使用箇所の特定制、洗浄、補強なども必要であり、何よりもどのように組み合わせるのか、そのためにどう加工すればよいのかという、建築当初との技術の壁もある。見学させていただいたときは、ちょうど屋根の茅葺き作業をされていたが、多くの茅を調達するだけでも大変なようで、作業自体も地道に進めていかなければならない時間のかかる作業である。



主屋復旧状況について説明を聞く



復旧作業中の主屋での説明

午前中に見学した仮設博物館にある、「文化財の残らない復興は本当の復興ではない」というスローガンを思い出した。地域に残ってきた大切な文化財を「災害ごとき」で失うことは、大きな「心の損失」である。作業にあたっておられる職人さんや作業員の方々の必死な姿に頭の下がる思いであった。

・津波石碑の見学から



津浪記念碑
 明治廿九年六月十五日
 日午后八時襲来
 死亡者全村五五二名
 流失戸数同一五七戸

一、大地震の後には
 津浪が来るよ
 一、地震があつたら
 高所へ集まれ
 一、津浪と聞いたら
 石巻市石井敬三郎刻

昭和八年三月三日午
 前三時襲来
 死亡者全村四五名
 流失戸数同一二五戸

一、惣捨て逃げろ
 一、低いところに住
 家を建てるな

低いところに住家を建てるな

それ津浪 機敏に高所へ

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

アースデイ奈良 2022 活動報告書

英語教育専修 2 回生 苗代 昇妥

1. 日時 2022 年 4 月 23 日 (土) 7 : 00 ~ 16 : 00

2. 場所 奈良公園 登大路園地

3. 参加者 教育学専修 3 回生 木下 結等
社会科教育専修 3 回生 北野 結衣
英語教育専修 3 回生 川口 綾菜、河野 木香
英語教育専修 2 回生 苗代 昇妥
書道教育専修 2 回生 柴垣 実咲

4. 活動の概要

2022 年 4 月 23 日 (土) に奈良公園でアースデイ奈良 2022 が開催された。本イベントは「2030 年のゴールまであと 8 年～サステナブルを奈良から発信する～」をテーマに行われ、「ゴミを出さない」など環境に配慮した形で開催された。様々な団体がブースを出店し、幅広い方々の参加があった。奈良教育大学ユネスコクラブは、本イベントにボランティアスタッフとして参加し、環境に配慮した持続可能なイベントの当日運営を行った。



アースデイ奈良で司会を行う学生

5. 参加学生の学び・感想

4 月 23 日 (土) にアースデイ奈良 2022 に参加した。私はステージの司会担当を中心に活動させていただいた。このイベントに参加して一番感じたこととして人とのつながりが挙げられる。イベントに参加した人、イベントをつくってきた人、当日ボランティアとして参加した人、様々な人たちが同じ場所に集まり一つのテーマ(地球のこと、環境のことについて)を考えることが出来たのはとても意味のあることだったと思う。特にコロナ禍でこのようなイベントを成功させることが出来たのは自信にもつながった。今後も積極的に活動に参加していきたいと考えている。

(教育学専修 3 回生 木下 結等)

アースデイ奈良 2022 に参加し、環境に対する自分の行動を見直すことができた。毎日当たり前のように、プラスチック容器を使い捨てている現状がある。それは、衛生面や捨てやすさが背景にあるのだが、今一度振り返ると本当に使用する必要がある場合は少な

い。環境について考えるだけで終わっている現状から抜け出し、行動に移していかなければならないことを痛感した。現在や少し先の未来だけを見てはいけないことを改めて考えることができた良い機会だった。

（社会科教育専修3回生 北野 結衣）

アースデイを通して、意識することの大切さを学んだ。イベントには大人や子ども、外国の方など多くの人々が参加していた。多様な人々と関わる中で、環境問題に関心がある人や環境のために活動している人が奈良にたくさんいることを知り、その方々の思いや行動に触発された。イベント中もイベント後もゴミ一つ落ちておらず、人々の意識の高さを実感した。また、プラスチックなどのゴミをそもそも出さないための工夫もされていた。例えば、食器をレンタルできる制度や空き箱や鉛筆、麻紐の利用などだ。少し意識して行動を変えるだけで環境への影響が変わると分かった。今後は私も普段から意識して行動しようと思う。

（英語教育専修3回生 川口 綾菜）

アースデイ奈良 2022 にボランティアとして初めて参加した。サステイナブルを念頭に、ゴミを出さない、マイ食器やマイバッグを持参する、使用しない物品や環境に優しい製品を景品として提供するなど、参加者のみなさんの環境に対する意識の高さを実感した。また、環境に配慮して生活するとはどういうことかを体験することができた。今回の参加で学んだことを踏まえて、今後は普段の自身の行動に目を向けて、自分が環境のために出来ることは何かを、より意識して行動していきたい。

（英語教育専修3回生 河野 木香）

私にとって、ボランティアとしてイベントに参加するのは今回が初めてだった。イベントに運営側として参加することで、今までは分からなかったことをたくさん知ることができた。特に環境を守るための意識と行動の面で刺激を受けた。イベント運営について込みを出さないことや、環境に配慮して運営することを徹底されており、自分の行動を見つめ直すきっかけとなった。自分でもできる小さな行動を少しでもたくさん行いたいと思う。

（英語教育専修2回生 苗代 昇妥）

私はステージ司会としてアースデイ奈良 2022 に参加させていただいた。私がこのイベントを通して、イベントを企画・運営するということは計り知れない時間や人手が必要で、注意を払わなければならないこと、数知れない問題点をすべて把握し、解決していかなければならないことを学んだ。だがその分、多くの人と役割分担をし、全員が最善を尽くすことで大きな力が生まれ、イベントを成功させることができるということも学んだ。今回の参加を通して私は大きく成長することができたと確信している。今回学んだことを活かし、今後も積極的に様々な活動に参加していきたいと考えている。

栗垣 実咲（書道教育専修）

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】

済美小学校野外活動支援 活動報告書

英語教育専修 3 回生 川口 綾菜

1. 日時 2022 年 5 月 26 日（木）17:20～21:00
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 音楽教育専修 4 回生 佐藤 ころろ
教育学専修 3 回生 中家 麻弥
社会教育専修 3 回生 北野 結衣
英語教育専修 3 回生 川口 綾菜、河野 木香、福西 隆生
英語教育専修 1 回生 黒柳 新奈、山本 侑大
特別支援教育専修 1 回生 神吉 優利奈、才田 優佳
幼年教育専修 1 回生 田中 花璃

4. 活動の概要

2022 年 5 月 26 日に奈良市青少年野外活動センターで、奈良市済美小学校 5 年生の野外活動の支援を行った。具体的な活動は、キャンドルファイヤーの準備・片付け、子どもたちの安全確保・活動支援、スタントの実施などである。スタントは三つ準備し、あわせて 20 分間、子どもたちと楽しんで行うことができた。

5. 参加学生の学び・感想

私は、野外活動支援を通して、学生が子どもたちのお手本になることの重要性を学んだ。子どもたちのスタントの際、学生が盛り上げたり、心の底から楽しんだりすることで子どもたちのお手本となり、子どもたちのキャンプファイヤーへの意欲を高めることにつながると考える。また、野外活動支援を行う中で、子どもたちの集中力が切れる場面が多く見られた。そのような中、学生がスタントをしたり、一緒に楽しんだりすることで子どもたちの集中力を維持させることができた。この経験から、子どもたちのお手本となるような働きかけをすることで、子どもたちの意欲につながるということを学んだ。今回、学んだことをこれからの学生生活に生かしていきたい。

（音楽教育専修 4 回生 佐藤ころろ）

私は今回の野外活動支援を通して、野外活動は子どもたちのことを考えて行うことが前提であるということを知ることができた。当たり前のように思っていたが、実際スタントを考えていく過程では、スタントを上手く作りたい、失敗したくないという気持ちが大きく、自分たちのことばかりを考えスタントをすることに夢中になってしまうことが多かった。しかし、先生や先輩のアドバイスを聞いて、野外活動は子どもたちのためのものであり、子どもたちに分かりやすくするためにはどうすれば良いか、安全面はどう対応するのかなど、子どもたちのことを考えなければならないということに改めて気づいた。子どもたちのための野外活動であることを意識して、声掛けの仕方や安全面の配慮をもっと考えていく必要があると学ぶことができた。

(教育学専修3回生 中家 麻弥)

今回の野外活動支援を通し、盛り上げることの重要性を知ることができた。児童がスタンプを行っている際に盛り上げることはもちろん、私たちが行ったスタンプでも同様のことが言える。掛け声、歌声、ガヤ、手拍子、大きく動く等数えきれない程、盛り上げるといっても種類があることを学び、全体で楽しい雰囲気にするためには必要不可欠であると知った。今後活動していく上で、今回得た盛り上げ方とその必要性を忘れず、積極的に盛り上げていきたい。

(社会科教育専修3回生 北野 結衣)

私は、野外活動支援を通してスタンプの重要性を学んだ。今回スタンプの古今東西で失敗した子どもが泣いてしまうという場面があった。周りの子どもたちや先生が声をかけたが泣き止まず、もう参加したくないと言っていた。しかし、次の私たちのスタンプは子ども主体で気軽に体を動かせるもので、その子どもは満面の笑顔で参加していた。その後、自分のスタンプや再度行った古今東西でも泣かずに取り組み克服することができた。この経験から、スタンプは子どもを笑顔にしたりやる気にしたり成長させる効果があるのだと学んだ。

(英語教育専修3回生 川口 綾菜)

今回の野外活動支援を通して、小学生との接し方や声の掛け方など、支援する立場としての雰囲気づくりの大切さを学ぶことができた。野外活動支援に参加するのは初めてであり、スタンプをするにあたって大きな声を出したり、周りの小学生とコミュニケーションを取ったりするのが難しいと感じる場面も多々あった。しかし、自分なりに工夫したり、練習を繰り返したりするなど、改善しようと努力することの大切さを改めて感じることができた。この経験で得たことを忘れず、今後も様々な活動に取り組んでいきたい。

(英語教育専修3回生 河野木香)

今回の支援活動における自分の反省点として、スタンプを行う側も参加する側も気持ちよく活動するためにどうやって声掛けを行うかが挙げられた。普段と異なる環境で興奮しているのか、つい発言が乱暴になる児童や周囲の状況が見えにくくなっている児童が多く見られた。子どもたちの気持ちを冷めさせてしまうことなく、誰もがそれぞれの立場から相互に楽しみ、楽しませられるような活動のための声掛けを考えることが課題であると認知した。

(英語教育専修3回生 福西 隆生)

初めて野外活動支援をさせてもらったので不安もあったが、先輩方が丁寧に教えてくださったり、みんなが支えてくれたりしたおかげで成功させることができた。練習の時から色々学ぶことが多かった。奈良ユネスコさんのスタンプを見た時に自分にはできるか不安だったが、自分の担当スタンプのときに周りの方が掛け声をして下さったりしたので、私もすることができた。本番は練習では想定していなかったことが起きたり、小学生のスタンプをどう盛り上げるか、あまりスタンプに参加する気がなさそう

な子にどう寄り添って声かけをすれば良いかがわからなかったりしたりと、まだまだ学ばなければならないことも多いが、今回の野外活動支援で子どもたちが楽しんでくれたので頑張った良かったと思った。次の野活ではユネスコのスタンツ以外の部分でどのように対応したら良いのかを考え、より盛り上げられるようにしたい。

(英語教育専修1回生 黒柳 新奈)

今回、初めて野外活動支援に参加させていただいた中でたくさん学ぶことがあった。その中でも私が特に難しかったと思うことは、スタンツに参加している子どもたちとのコミュニケーションだ。とてもはしゃいでいる子どもや、逆にぼかーんと上の空の子どもなど、多種多様な子どもたちとの意思疎通することに頭を悩ませた。そのため、次からは様々なパターンを想定して子どもたちと関わっていきたいと思う。また、子どもたちと上手に触れ合っていくには、ある程度場数が必要だと思ったため、またこのような機会があれば参加したいと思う。

(英語教育専修1回生 山本 侑大)

今回、初めて野外活動支援に参加させていただき、練習から本番まで学ぶことがたくさんあった。練習ではスタンツ自体の流れだけでなく、周りの子どもの反応も予想しながらの構想の難しさを学んだ。当日には、子どもたちが騒いでしまった時にどう対応したら良いのか、上手く参加出来ていない子どもが参加しやすくなるにはどうしたら良いのか等、実際にやってみて発見した学びがあった。分からないことを先輩方が優しく教えて下さったり、参加した皆と協力して活動できたりしてとても良い経験になった。次回参加する時は今回の学びを活かしたい。

(特別支援教育専修1回生 神吉 優利奈)

正直、キャンプファイヤーの裏方をするのだと思っており、スタンツをすると思っていなかったため、驚きから始まった。私は人前に立って話をしたり、指示を出したりすることが向いていないと思う。そのため、特別支援学校での勤務を考えていた。しかし、今回の野外活動を通して、人前で何かをすることに少し自信が付いた。また、特別支援学校だけに限らず、普通の小学校での勤務も視野に入れるようになった。自分の将来の選択肢を広げてくれた野外活動にとても感謝している。また、支えてくださった先生、先輩方、同学年の仲間にも本当に感謝している。

(特別支援教育専修1回生 才田 優佳)

今回のボランティア体験では、練習時から多くのことを学んだ。特に、周りで声かけをする人がいて初めて場が盛り上がることを目の当たりにできたのが大きかった。場の空気は、私自身も含めてみんなで作っていくものであることを感じられた。本番は、ぼーとしている子どもや、馴れ馴れしく話してくれる子どもなど、色々な子どもがいるなかで、子どもとの距離感をどこに設定しようか悩んだ。どの子どもも安心できる空間作りを目指すことが、私の当面の目標だ。

(幼年教育専修1回生 田中 花璃)

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】
奈良市立ならやま小学校野外活動支援 活動報告書

英語教育専修 3 回生 河野 木香

1. 実施日 2022 年 6 月 23 日（木）

2. 場所 奈良市青少年野外活動センター

3. 参加者 音楽教育専修 4 回生 佐藤 こころ
幼年教育専修 4 回生 井原 奈佑
音楽教育専修 3 回生 梅原 彩華
英語教育専修 3 回生 川口 綾菜、河野 木香、福西 隆生

4. 活動の概要

2022 年 6 月 23 日に奈良市青少年野外活動センターにて、奈良市立ならやま小学校 5 年生の野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、オリエンテーションの補助、キャンプファイヤーの準備・片付け、スタンプの実施などである。

5. 参加学生の学び・感想

私は、児童のそばにいることの重要性を学んだ。私は、野外炊飯の支援に参加するのは今回が初めてだった。そのため、活動に集中出来ていない児童にどのように声をかけたら良いのか分からなかった。そこで、児童のそばにいることを優先した。そうすることで、児童の思いについて聞くことができ、児童に寄り添った言葉を掛けることができた。この経験から、児童に寄り添い、思いを聞くことは、円滑に活動に参加させるために必要なことだと学んだ。今回学んだことをこれからの学生生活に生かしていきたい。

（音楽教育専修 4 回生 佐藤 こころ）

今回私は、キャンプファイヤーのみの参加だったので、短い時間で子どもたちに楽しんでもらえるような関係を作らなくてはならなかった。その為、空いている時間は子どもと積極的に話したり交流を持ったりすることで少しでも、「全力で楽しんでいるんだ」と思ってもらえるように取り組んだ。キャンプファイヤーでは、子どもたち自信が盛り上げよう、楽しもうという空気が感じられ、それが出せる雰囲気作りというのが大切だと改めて感じた。

（幼年教育専修 4 回生 井原 奈佑）

私は、はじめての野外活動支援だった。私自身、小学校で経験したものの、支援する立場になると子ども達が迷子にならないか、怪我しないか、などハラハラが止まらなかった。しかし、子どもたち自身で様々なことに気付いたり、悩んだり、考えたりしながら協力して取り組む姿を見ることができた。私は大学の授業の関係上、前半部分のみの参加であったが、今までの子どもたちが培ってきた学校の学習から学んだ力を発揮する姿を見せてもらい、子ども達にやらせてみて考えさせることの大切さを学ばせてもらえる機会となった。

(音楽教育専修3回生 梅原 彩華)

今回の活動を通して、野外活動支援とは何かと考えさせられた。野活支援はあくまでもその日だけの支援であるため、自分は児童にとって信頼関係もない他人であるということを自覚し、先生と児童の関係を壊さないように働きかけることが大切だと感じた。また、私は今回初めて屋外でのキャンプファイヤーを経験したのだが、出し物で上手く場を盛り上げることができなかった。児童にとって良い思い出となるよう、これから練習や経験を重ね、支援のあり方を模索していきたい。

(英語教育専修3回生 川口 綾菜)

今回の野外活動支援は、子どもたちのオリエンテーションの補助のみの参加であったが、子どもたちとの関わりのなかで学ぶことがたくさんあった。そのなかで、活動支援の立場として、子どもたちとどのような距離感で接するのが適切かを考えるきっかけとなった。子どもが積極的に話しかけてくれることはとても嬉しいが、一方で親しく話すことだけが支援ではなく、時には注意をするなど、状況に応じた適切な接し方を常に考えて行動する難しさと重要さを学んだ。一つ一つの支援活動から得られる学びや発見を大切に、今後の支援活動に活かしていきたい。

(英語教育専修3回生 河野 木香)

今回の体験は、自分の学生ボランティアとしての立ち位置について考え直す機会となった。本校の先生方が様々な仕事をこなされている中、自分もその一端になりたいと動いていた。そのあまり、自覚がないまま学生ボランティアの本分を超えた行いや注意をしたことがあった。「主役は子どもたち」、「学生ボランティアは先生ではない」という考えが身についていなかった。改めてこの2点を念頭に置き、これからの支援活動に取り組みたい。

(英語教育専修3回生 福西 隆生)

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】
奈良市立伏見小学校野外活動支援 活動報告書

国語教育専修 3 回生 川田 大登

1. 実施日 2022 年 7 月 1 日（金）

2. 場所 奈良県立野外活動センター

3. 参加者 幼年教育専修 4 回生 井原 奈佑
英語教育専修 4 回生 稲富 麻莉
英語教育専修 3 回生 福西 隆生
家庭科教育専修 3 回生 宇和谷 紗恵

4. 活動の概要

2022 年 7 月 1 日に奈良県立野外活動センターにて、奈良市立伏見小学校 5 年生の野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、勾玉づくりの補助、アスレチックの補助、スタンプ指導であった。

5. 参加学生の学び・感想

私はスタンプ班を担当した。野外活動センターの方がキャンプファイヤーで行うスタンプを実践してくれて、子どもたちの様子を見守りながら一緒にスタンプを行った。初対面の子どもたちへの関わりはやはり難しかったが、ゲーム内で「せーのっ！」といった声かけや体を大きく動かしたりして、子どもたちが少しでも楽しめるように働きかけることを心がけた。子どもたちにとっては一生に一度の野外活動を学生という立場から盛り上げ、楽しませられるように今後の野外活動支援でももっと動きたいと思う。

（英語教育専修 4 回生 稲富 麻莉）

私は勾玉づくり補助を担当した。縦 4 cm・横 4 cm・高さ 1 cm 程の大きさの石を目の粗さが異なる 3 種類の紙やすりで削って形作り、ひもを通すための穴を錐で開けるという作業の説明やアドバイスを一人一人に行った。児童自身で簡単に作る方法を見つけたり、友達にコツを教えてあげたりと協力しながら作成する様子を見て、児童の考える力を育むために、教師がどこまで説明するかを考えなければならなかったと感じた。また、先生方の対応を見て、美しい勾玉を作ることが目的ではなく、一つのものを自身の力で完成させるということが目的であると感じた。時間が限られている中で、誰一人諦めることなく集中して取り組み、目的を達成できていたと考える。

（家庭科教育専修 3 回生 宇和谷 紗恵）

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】
奈良市立富雄公民館におけるワークショップ 活動報告書

国語教育専修 3 回生 川田 大登

1. 実施日 2022 年 8 月 6 日（土）
2. 場所 奈良市立富雄公民館
3. 参加者 教育学専修 3 回生 木下 結等、1 回生 宮木 舞
国語教育専修 3 回生 川田 大登、1 回生 飯田 朱音
美術教育専修 1 回生 東 瑞

4. 活動の概要

奈良市立富雄公民館において、「大学生とワークショップ！SDGs」というテーマの下、環境問題を取り扱った楽しく学べるワークショップを 90 分程度行った。小学 1 年生から 6 年生が対象であった。グループワークや劇、クイズを用いるなどして、参加者が楽しめる工夫を行った。

5. 参加学生の学び・感想

本企画で、私は主にアイスブレイキングと子どもたちのグループワークの進行をさせていただいた。全体的に子どもたちのワークショップへの取り組みを円滑にすることが出来た。一方でアイスブレイキングでは子どもたちの反応が想定よりも悪かったため、進行や事前準備をもう少し十分に出来たらよりよいものになっていたと感じたので次回以降の反省点としたい。（教育学専修 3 回生 木下 結等）

本企画では、一から企画を考えさせていただいた。ワークショップのテーマは環境についてで、クイズや劇などを通して環境について考えてもらった。本番は少しトラブルもあったが、子どもたちの積極的な姿勢のおかげで小学生にとっても大学生にとっても有意義な時間となったと思う。

（教育学専修 3 回生 宮木 舞）

私は本企画の全体的な進行を行った。これを通して特に強く感じたことは教具の重要性である。本企画では、導入として、握り寿司を模した知育玩具を使用した。それを使う前に、アイスブレイキングを行ったのだが、年齢層が幅広いことや兄弟での参加が多かったこともあり、緊張が解け切っていない子どもが多かった。しかし、その教具を出して、ランダムに振り分けた 3 人程度のグループでテーマについて考えさせると、夢中で考えてくれ、企画の進行がスムーズになった。これを含めて今回学んだことを今後の企画や活動に生かしたい。（国語教育専修 3 回生 川田 大登）

寿司の知育玩具を用いたことで、寿司のネタがなくなる原因が地球温暖化であることをより実感でき、地球温暖化を身近な問題であることを認識できていたと感じた。また未来を見据えて、一人ひとりが地球温暖化にどのように関係し、解決方法としてクイズや寸劇の場で主体的に考え、児童の指摘と気づきを表現する態度を見ることができてよかった。（国語教育専修 1 回生 飯田 朱音）

本企画は、SDGs 目標 13 番の「気候変動に具体的な対策を」に焦点を当てながら、劇やクイズを交えることによって、子どもたちの当事者意識を育むものであった。企画では子どもたちの主体性を垣間見ることができ、達成感のあるイベントになった。一方で、小学生に対する言葉選びへの配慮がいささか不十分な部分があった。この反省を生かし次の機会に活かしたいと思う。（美術教育専修 1 回生 東 瑞）

【近畿ESDコンソーシアム・学生によるESD活動支援】

あすかばんど野外活動支援 活動報告書

英語教育専修2回生 苗代 昇妥

1. 実施日 2022年9月3日(土)

2. 場所 奈良市青少年野外活動センター

3. 参加者 音楽教育専修4回生 佐藤 ころろ 教育学専修4回生 岩城 雄大
特別支援教育専修3回生 西田 優佳里 国語教育専修3回生 川田 大登
社会科教育専修2回生 山平 楓 英語教育専修2回生 苗代 昇妥
幼年教育専修1回生 田中 花璃

4. 活動の概要

「あすかばんど」とは、奈良市立飛鳥小学校の児童が中心となって、音楽活動を行うグループである。今回は、活動を活性化させる取り組みの一つとして野外活動が行われ、その支援を行った。参加者は、約30名であった。

レクリエーションやキャンプファイヤーを行う予定であったが、悪天候のため屋外でのキャンプファイヤーは中止され、屋内でペットボトルライトを行った。具体的な支援内容は、レクリエーションの際の補助や、ペットボトルライトでのスタンプの実施である。

5. 参加学生の学び・感想

私は、野外活動支援を通して、二つのことを学んだ。

一つ目は、判断をすることの大切さである。キャンプファイヤーを直前まで準備したのだが、悪天候のため取り止め、室内でペットボトルライトにより行うことにした。それを判断した主催者の対応により、全員が楽しく活動に取り組むことができた。

二つ目は、大人がお手本になることの大切さである。キャンプファイヤーやレクリエーションをする際、私たち学生や保護者が楽しむことで、場が盛り上がり、子どもたちを含めた参加者全員に一体感が生まれると感じた。また、危険を伴う活動においても、きちんと大人がお手本を見せることや安全に配慮することで、子どもたちが楽しんで活動を行うことができると考える。

自分自身の振る舞い方に気をつけ、より良い活動ができるように、今後も学んでいきたい。

(音楽教育専修4回生 佐藤 ころろ)

私が、今回の支援を通して学んだことは、状況判断に応じたプログラム変更の重要性である。

今回は、キャンプファイヤーの点火の直前に中止をするという判断が主催者によってされた。私自身、開催可能ではないかと考えていたが、ひどい雷雨に見舞われたため、素晴らしい判断だったと感じた。プログラム通りに行うだけではなく、そのときの状況に応じて臨機応変に対応することも、私たち大人の役目であると感じた。また、そのときの判断に応じて対応できる態勢を整えておくことも大切だと感じた。

今回学んだことを様々な活動で生かし、状況に応じた判断を下せるようにしたい。

(教育学専修4回生 岩城 雄大)

私は、野外活動支援に参加し、大きく二つのことを学んだ。

一つ目は、事前準備と連携の大切さである。支援をしている際、天候を考慮しながら、次の活動について学生間や主催者と話し合っていたことで、急な変更に対応することができた。私たち学生は、事前に何度もキャンプファイヤーのリハーサルを行っていたため、臨機応変に対応することができ、安全に楽しく活動することができた。

二つ目は、個と集団に対する声かけの大切さである。今回の野外活動では、途中参加の子どもや、みんなの輪に入れない子どもがいた。全体を盛り上げる声を出すだけでなく、個々の様子を見ながら声をかけることで、最後には子どもたちの顔にも笑顔が浮かび、より良い活動になったと考える。

これらの学びを今後の活動に生かしていきたい。

(特別支援教育専修3回生 西田 有佳里)

私は初めて野外活動支援に参加して大きく二つのことを学んだ。

一つ目は野外活動における判断の大切さである。この日は天候が不安定であり、火をつける直前に大きな雷鳴がとどろいた。そこで、先生が中止することを判断したのだが、その後、激しい雷雨に襲われた。このことから、安全に活動を行う上で、不安に思ったら判断を躊躇わないことの大切さを感じた。

二つ目は自分自身が本気で盛り上がることの大切さである。私や周りの学生が声を張り上げてゲームをしたり掛け声をかけたりすることで、会場に一体感が生まれ、全員が盛り上がるスタuntsができた。よって、まずは自分が本気で盛り上がるのが大切だと思った。

これらの貴重な学びを今後の活動に生かしたい。

(国語教育専修3回生 川田 大登)

私は、今回が初めての野外活動支援であった。今回の支援を通して、大きく二つのことを学んだ。

一つ目は、キャンプファイヤーの手順である。今回の野外活動では、天候不良となり屋外でキャンプファイヤーはできなかった。しかし、薪の組み方などのキャンプファイヤーを行うまでの手順を詳しく学ぶことができた。

二つ目は、一人一人が楽しむ大切さである。私は、ゲームを行うことや子どもと関わることに不安な部分があった。しかし、子どもたちが笑顔で楽しそうにスタuntsに参加したり、レクリエーションをしたりしている姿を見て、元気や勇気をもらった。不安を感じていても、私自身がしっかりと盛り上げたり、楽しんだりすることで全体の雰囲気も良くなると感じた。

今回学んだことをこれからの活動に生かしていきたい。

(社会科教育専修2回生 山平 楓)

私は、今回の野外活動支援で大きく二つのことを学んだ。

一つ目は、状況判断の重要性だ。当日は天候が不安定で、キャンプファイヤーの際、点火の直前で中止と判断された。野外活動では、天候をはじめとした様々な要素を勘案しながら進めていくことや、安全を確保するための判断をすることの重要性を感じた。

二つ目は、スタuntsの際の一体感の大切さである。今回の活動には子どもたちや大学生だけではなく、子どもたちの保護者も参加していた。スタuntsの際、年齢関係なく全員が楽しみ、盛り上がっていたため、参加者たちが大いに楽しむことが出来ていたように感じる。その場にいる全員が楽しみ盛

り上がることで、一体感が生まれ、より良い活動となることが実感できた。

今回の学びを今後の活動に生かし、より良い活動支援を行えるように努力していきたい。

(英語教育専修2回生 苗代 昇妥)

私は、今回の野外活動支援で次の二つを学んだ。

一つ目は、場つなぎの大切さである。ゲームの始めや終わりに場を盛り上げるセリフを入れることで、ゲーム進行がスムーズになっていた。ゲームとゲームの間で、このようなセリフを入れることで参加者との会話が生まれると考える。そうすることで、場が盛り上がるだけでなく、キャンプファイヤー全体につながりができ、スムーズな進行を行うことができると実感した。

二つ目は、臨機応変に対応することの大切さである。当日は、主催者が屋外でのキャンプファイヤーを中止することで、のちの悪天候に巻き込まれずに済んだ。用意してきたことを遂行することに囚われずに、その場の情報をもとに判断し、行動することの重要性に気づくことができた。

これらの学びを今後に生かしていきたい。

(幼年教育専修1回生 田中 花璃)

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】

奈良市立都跡小学校野外活動支援 活動報告書

英語教育専修 2 回生 苗代 昇妥

1. 実施日 2022 年 9 月 23 日(水)

2. 場所 奈良市青少年野外活動センター

3. 参加者 音楽教育専修 4 回生 佐藤 こころ 幼年教育専修 4 回生 井原 奈佑
英語教育専修 2 回生 苗代 昇妥 特別支援教育専修 1 回生 才田 優佳

4. 活動の概要

2022 年 9 月 23 日に奈良市青少年野外活動センターにて、奈良市立都跡小学校 5 年生の野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、オリエンテーリングと野外炊飯の補助、キャンプファイヤーの準備、スタンプの実施などである。



キャンプファイヤーの様子

5. 参加学生の学び・感想

私は、野外活動支援を通して、次の二つのことを学んだ。

一つ目は、連携を取ることの大切さだ。オリエンテーリングや野外炊飯、キャンプファイヤーの各活動において、変更点が多々あった。しかし、密に連携を取ることで、想定外のことでも協力しながら適切に対応することができた。

二つ目は、適切に状況判断し対応することの重要性だ。キャンプファイヤーの際、予想以上に火が強かった。火の粉などで児童が怪我しないようにするための対応や、キャンプファイヤーの薪が倒れてしまったときの対応を話し合った。臨機応変に対応できたことで、安全に楽しくキャンプファイヤーを行うことができた。

私は、安全に活動するためには、適切な状況判断と密な連携が必要だと実感した。この学びを今後の活動に生かしていきたい。

(音楽教育専修 4 回生 佐藤 こころ)

私は、野外活動支援を通して、次の二つを学んだ。

一つ目は、ファイヤーキーパーの方法だ。私は、キャンプファイヤーでファイヤーキーパーを行ったが、ファイヤーキーパーは初めての経験だった。キャンプファイヤーの火の勢いが予想以上に強く、難しい状況だったが、火の様子とスタンプの進行状況を考慮しながら臨機応変に火の管理をすることができた。

二つ目は、雰囲気作りの重要性についてだ。キャンプファイヤーの進行中に場を盛り上げる声掛けをすることで、本気でキャンプファイヤーに取り組むことを「楽しい」と思える雰囲気作りができたと感じる。このような雰囲気作りを行うことで、子どもたちの団結力を高めることができ、キャンプファイ

ヤーを大いに盛り上げることができた。

今回の活動で学んだことをこれからに生かしていきたい。

(幼年教育専修 4回生 井原 奈佑)

私は、今回の野外活動支援を通して、次の二つのことを学んだ。

一つ目は、臨機応変に対応することの重要性である。今回の野外活動では、予定の変更が多くあった。その度に、周りとの連携を取りながら、対応したことで安全に活動を進めることができた。児童にとって有意義な活動を安全に行ってもらうためには、事前準備と臨機応変な対応の二つが欠かせないと分かった。

二つ目は、スタンプの際に、率先して声掛けをする大切さである。スタンプの最中に、場を盛り上げるための声掛けをするかどうかによって、児童の声の大きさや盛り上がりには大きな差があった。自らが率先して声掛けをすることで、全体の盛り上がりが大きく変化することが分かった。

今回の活動を通して学んだことを、今後に生かしていきたい。

(英語教育専修 2回生 苗代 昇妥)

今回の野外活動支援を通して私が学んだことは、野外活動が児童に与える影響の大きさだ。

私は、今回の野外活動支援は何度も参加させていただくなかの一回だと考えていた。しかし、児童にとっては一生に一度の思い出であり、一人ひとりの心に残り続けることを改めて感じた。このことを念頭に置いて、児童のことを第一に考えながら今後の活動に参加したい。また、野外活動は児童の思い出に残るだけでなく、仲間と協力したり、打ち解けたりできる意義深い活動だと分かった。

この学びを今後の活動に生かしていきたい。

(特別支援教育専修 1回生 才田 優佳)

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】
イオンモール奈良登美ヶ丘におけるワークショップ 活動報告書

国語教育専修 1 回生 吉岡 優来

1. 実施日 2022 年 9 月 24 日（土）10：30～17：00

2. 場所 イオンモール奈良登美ヶ丘 3F ならとみコート

3. 参加者 音楽教育専修 4 回生 佐藤 ころろ
教育学専修 3 回生 木下 結等
国語教育専修 3 回生 川田 大登、1 回生 田中 愛花、吉岡 優来
特別支援教育専修 3 回生 山本 留維、1 回生 神吉 優利奈
英語教育専修 2 回生 苗代 昇妥

4. 活動の概要

イオンモール奈良登美ヶ丘において、「大学生に学ぶ SDG s ～木に親しむ～」というテーマの下、春日山原始林の木や鳥、鹿を取り扱った楽しく学べるワークショップを 60 分程度行った。小学 1 年生から 6 年生が対象であった。参加者に、アंकロンの演奏で活動自体に興味を持ってもらい、ワークショップの中で奈良の春日山原始林・鳥・鹿・人間と植物と動物の共生についての学びを促しながら、バードコール製作や鹿の折り紙製作を行い、取り扱ったことについて親しみを持てるように工夫を行った。

5. 参加学生の学び・感想

私は、出前授業を通して、発達段階に合わせた声かけの重要性を学んだ。今回の出前授業には、未就学児から小学校 6 年生という幅広い年齢の子どもたちが参加した。バードコール製作や折り紙で鹿を折る際、特に未就学児や小学校低学年の児童は、活動に参加できなかったり、理解が追いついていなかったりと様々な様子が見られた。そこで、どのように参加を促すか、分かりやすい説明は何か、試行錯誤しながら声かけを行った。このことにより、子ども達が楽しく活動に参加する様子が見られた。このことから、発達段階によって、理解に差があることを実感したと共に、それに合わせた声かけを行うことが子ども達の理解につながるということが分かった。今回学んだことを、これからに生かしていきたい。

（音楽教育専修 4 回生 佐藤 ころろ）

今回、初めてショッピングモールで出前授業を行い、その楽しさと難しさを感じた。授業では、バードコールの製作と鹿の折り紙の工作の時間が中心であったが、参加してくれた子どもたちがそれらを楽しんでくれていて、良かったと思う。授業で学生から伝える時間は短かったが、目標である木に親しむきっかけを作ることができたであろう。一方で小学校低学年や未就学児の子どもが多かったり、その一方で高学年の子どもがいたり、参加する時間がバラバラだったりして、ショッピングモールにおける出前授業ならではの難しさを感じた。

（国語教育専修 3 回生 川田 大登）

今回の出前授業では、ショッピングモールにてバードコール工作、鹿の折り紙教室、春日山原始林の自然環境についてのワークショップを行った。私は、直接的に子ども関わる機会が少なかったが、前で

折り紙の説明しているときに、一生懸命聞こうと子どもたちの姿勢に感動した。また、大学生も子どもと真摯に向き合っており個人の成長段階や精神的発達を加味した支援で良いものだった。集客も難しいところはあったものの、チラシやポスターを用いて積極的に声かけを行うことで多くの参加者を募ることが出来た。保護者からぜひ小学校にも来てほしいという声もあった。機会があれば、小学校での出前授業もやってみたい。

(国語教育専修1回生 田中 愛花)

今回のイオンモールでの出前授業では、バードコール製作と折り紙を通して、春日山原始林の鳥、鹿に親しむことを目的とした授業であった。参加者は小学生を想定していたが、未就学児や保護者の方も多く参加していただいた。私はバードコールや折り紙の製作の手助けをした。低学年や未就学の子どもの対応をすることが多かったので、分かりやすい言葉で折り方を説明することの難しさや、製作をしただけで終わらないように声かけをすることの大切さを学んだ。また、難しい工程があったとしても自力でしようとしていたり、バードコールを「明日使う!」と言っていたりした子どももお楽しみながら奈良の自然にも親しんでもらえてよかったと思う。

(国語教育専修1回生 吉岡優来)

今回は春日山原始林や鳥、鹿を取り扱った。小学生が対象だったが保護者との参加が条件だったため低学年の児童が多く、就学前の子どももいた。開催地が奈良公園から遠かったため、想定通り子ども達は鹿や春日山原始林のことをよく知らなかった。資料として写真をたくさん用意していたことは良かった点であった。また、企画の中で2回製作活動を行ったが、説明したことで製作物にきちんとつながりがあったため子どもたちは「作ること」以外にも楽しみを見出していた。大学生は、自分なりに考えて子どもと接していて全体としては上手くいったと思う。ただ、お手拭きやテープなどを当日慌てて用意したので、次はリハーサルを入念にしたい。

(特別支援教育専修3回生 山本留維)

今回の出前授業は、森と動物、人の関わり方をテーマとした授業で、授業の中の活動としてバードコール工作と鹿の折り紙を行った。私は、出前授業を行う中で子どもの得手不得手や興味関心によって活動への積極性が違うことを学ぶことが出来た。折り紙が大好きな子どもは、説明を聞くだけで楽しそうに折っていたが、折り紙を苦手を感じる子どもはあまり笑顔が見られなかった場面もあったからだ。また、このように子どもの積極性が違うことから、声かけが大切だと実感できた。声かけによって苦手な子どもでもコツを伝えたら上手にできて喜んでくれたし、元々上手な子どももまわりの人の声かけを聞いて自信をつけ、物事への関心が高められたと思った。

(特別支援教育専修1回生 神吉 優利奈)

今回の出前授業を通して学んだことは、参加者一人ひとりに合わせて関わり方を変えることの重要性である。今回の出前授業には小学校高学年から未就学児まで幅広い年代に参加して頂くことができた。同時に様々な子どもたちと関わる事ができるという貴重な経験ができた。その一方で、学生が行う授業や一人ひとりへの声かけには工夫が必要であることを学んだ。参加者によって得意なことが違うので、年代や興味に応じて関わり方を変えていくことで学びが大きい出前授業になると考えた。

(英語教育専修2回生 苗代 昇妥)

お わ り に

E S D ・ S D G s センター長 中澤 静男

4月にE S D ・ S D G s センターが設置され、それから一年が経ちました。奈良教育大学では2011年3月に持続発展文化遺産教育研究センターを設立し、ユネスコスクールとしての教育、ユネスコスクールへの支援活動に取り組んできました。また、学生の課外活動ではユネスコクラブがつくられ、E S D を楽しく探求すると共に、E S D が指導できる力量形成を目的に活動を継続してきました。それらの取組蓄積はE S D ・ S D G s センターに集約されていることが言うまでもありません。

特に6月26日に開催したキックオフイベントとそこから始まったE S D ・ S D G s 連続オンラインセミナー全5回、11月16日に新橋にある奈良まほろば館でのセンター設立記念イベント、そして、2月17日に開催した全国E S D コンソーシアムステークホルダー交流会といった、新しい取組とそこでの学びについて、本活動報告書を参考にいただければと思います。



これらの新しい取組の他に、2016年度から始めたE S D ティーチャープログラムにおいては、沖縄県那覇市、鹿児島県屋久島町、熊本県菊池市、福岡県大牟田市、福岡市、愛媛県松山市、奈良市立東登美ヶ丘小学校、奈良教育大学附属幼稚園・小学校・中学校で展開し、E S D ティーチャー124名、E S D マスター19名、E S D スペシャリスト8名の認定をすることができ、これらの先生方が、全国でE S D の実践を展開してくださることに期待しています。1月には、山形県のE S D ティーチャーの先生方が実践報告会をオンラインで開催してくださいました。今後は、全国のE S D ティーチャーの方々が、オンラインでつながって、交流することでE S D の質的向上を目指していただけたと思います。

春日山原始林フィールドワーク、県立万葉文化館と森と水の源流館での授業づくりセミナーも、すっかり定着しました。これら教員養成と現職教員の研修を融合させることで、一粒で二度おいしい取組にしていきたいと考えています。



春日山原始林フィールドワーク：若草山山頂での集合写真

令和４年度 近畿ＥＳＤコンソーシアム活動実施報告書

2023 年 3 月 31 日

近畿ＥＳＤコンソーシアム 国立大学法人奈良国立大学機構 奈良教育大学
〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学
教育研究支援課

E-mail k-soumu@nara-edu.ac.jp

Tel 0742-27-9367

Fax 0742-27-9147